

京都府埋蔵文化財調査報告書

令和3年度

京 都 府 教 育 委 員 会

卷頭図版第1 恭仁宮跡第102次



I M01 G - s 調査区全景(西から)

巻頭図版第2 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡
(余部遺跡第14・16次)



東調査区(北から)

序

令和3年度は、京都府内で261件の発掘調査が実施されました。件数としては前年度から微減となりましたが、注目すべき発見の多い年となりました。

京丹後市佐屋利遺跡では、初めてとなる発掘調査で弥生時代の住居跡や大型の石包丁などが見つかり、多くの関心を集めました。福知山市稚児野遺跡では、府内最古となる3万6千年前の石器が約400点出土し、旧石器時代の生活を知る大きな成果が得られました。また、井手町稻ノ木遺跡では、橘氏の氏寺である井手寺の推定寺域外で塔跡の基壇が見つかり、多くの人が現地を訪れました。木津川市の国史跡恭仁宮跡では、朝堂院の規模が確定し、平成24年度から継続して行ってきた恭仁宮跡保存活用調査のひと区切りを迎えることができました。

本書は、令和3年度に京都府教育委員会が実施した発掘調査の概要をまとめたものです。この報告書の刊行を含め、発掘調査等に御協力いただいた多くの方々と関係機関に厚くお礼申し上げますとともに、本書が府の歴史や文化を御理解いただく上での一助となり、文化財の保存と活用に役立つこととなれば幸いです。

令和4年3月

京都府教育委員会

教育長 橋本 幸三

凡 例

- 1 本書は、平成 30 年度から令和 3 年度に京都府教育委員会が実施した埋蔵文化財調査関係の報告書である。
- 2 本書に収めた調査対象遺跡、執筆担当者は下表のとおりである。

	調査対象遺跡	執筆担当者
1	恭仁宮跡	桐井理揮
2	府営農業農村整備事業関係遺跡	川崎雄一郎
3	国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡	川崎雄一郎・北山大熙・桐井理揮
4	令和 3 年府内遺跡等	中居和志・岡田健吾・桐井理揮・北山大熙
5	柏ノ木遺跡	北山大熙
6	令和 2・3 年における埋蔵文化財の発掘	奈良康正・岡田健吾

- 3 本書の執筆は各担当者が行い、文責についてはそれぞれ文末に記した。編集は各担当者が行ったものを松尾がまとめた。
- 4 本書に掲載した地図は、国土地理院発行の地形図である。周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲は京都府・市町村共同ポータルサイト (<http://g-kyoto.gis.pref.kyoto.lg.jp/g-kyoto/top/index.asp>) に掲載する文化財 G I S データを基に作成した。国土座標・方位のないものは、上位が北である。
- 5 本書で使用している測地系は、恭仁宮跡第 102 次は測量法改正（2001 年 6 月 12 日改正、2002 年 4 月 1 日施行）前の平面直角座標系 VI である。府営農業農村整備事業関係遺跡（梅ノ木原遺跡第 1 次調査、北野台遺跡第 1・3 次調査）及び国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡（余部遺跡第 14・16 次調査、西加舎遺跡第 5 次調査、千代川遺跡第 34 次調査、坪田 14 号墳第 1 次調査）は新座標（国土座標 2000、平面直角座標系第 VI 座標系）である。
- 6 本書に使用した遺構番号の前には S A (築地・塙・柱列)、S B (掘立柱建物)、S D (溝)、S K (土坑)、S X (その他) 等の記号を付した。
- 7 本書で使用した方位記号は、矢羽根記号は座標北を表し、線書き記号で磁北を表している。
- 8 本書に掲載している当課撮影の写真等の転載については、これを許可する。ただし、使用する場合は出典を明記すること。他機関提供の写真については当該機関に問い合わせ、許可を得ること。

目 次

1	恭仁宮跡令和3年度保存活用調査報告（恭仁宮跡第102次調査）	1
2	府営農業農村整備事業関係遺跡令和2・3年度発掘調査報告	21
	梅ノ木原遺跡（第1次調査）、北野台遺跡（第1・3次調査）	22
3	国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡平成30・令和元・3年度発掘調査報告	33
	〔1〕平成30・令和元年度の調査（余部遺跡第14・16次調査）	36
	〔2〕令和3年度の調査（西加倉遺跡第5次調査・千代川遺跡第34次調査、 押田14号墳第1次調査）	67
4	令和3年府内遺跡等報告	71
	〔1〕史跡丹後國分寺跡（第1次調査）	73
	〔2〕鷦尾遺跡試掘・確認調査（第1次調査）	75
	〔3〕佐屋利遺跡試掘・確認調査（第2次調査）	78
	〔4〕小倉田遺跡隣接地試掘・確認調査	81
	〔5〕福知山城跡試掘・確認調査	83
	〔6〕光明寺境内詳細分布調査	84
	〔7〕八木城跡試掘・確認調査（第3次調査）	86
	〔8〕平安京跡（左京一条三坊三町）試掘・確認調査	88
5	和束井手線防災・安全交付金事業関連遺跡令和3年度発掘調査報告	90
	栢ノ木遺跡（第15次調査）	91
6	令和2・3年における埋蔵文化財の発掘	94
	〔1〕令和2・3年の動向	94
	〔2〕府内の主な発掘調査	97

CONTENTS

1	Overview of the excavation of the Kuni Palace site (from April 2021 to March 2022)	1
2	Overview of the excavation of the sites caused by pref-managed improvement in agricultural infrastructure for raising an agriculture manager (from April 2020 to March 2022)	21
3	Overview of the excavation of the sites caused by government-managed urgent farmland reorganization maintenance project "Kameoka center district" (from April 2018 to March 2020, from April 2021 to March 2022)	33
4	Overview of the trial excavation (2021)	71
5	Overview of the excavation of the Kayanoki site (from April 2021 to March 2022)	90
6	General view of excavation in Kyoto prefecture (from 2020 to 2021)	94

挿図目次

1 恭仁宮跡（第102次調査）

第1図	恭仁宮跡位置図 (1/50,000)	1
第2図	調査地位置図（トーンは調査地、1/4,000）	3
第3図	恭仁宮跡主要遺構図 (1/4,000)	4
第4図	I M01G - s 調査区と周辺の調査区配置図 (1/200)	7
第5図	掘立柱建物 S B21001平面図・土層断面図 (1/40・1/60)	8
第6図	掘立柱塀 S A18001平面図・土層断面図 (1/60)	9
第7図	各遺構平面図・土層断面図 (1/50)	10
第8図	I K03C - s 調査区平面図 (1/150)	11
第9図	I K03C - s 調査区南壁断面図 (1/100)	12
第10図	足場穴遺構 S P21214・21216・21219平面 図・土層断面図 (1/40)	12
第11図	I K03C - s 調査区各遺構平面図・土層断面 図 (1/50)	13
第12図	出土遺物実測図 (1/2・1/4)	15
第13図	出土遺物実測図 (1/4)	17
第14図	足場穴遺構の検出状況 (1/600)	18
第15図	大極殿院回廊北西隅の遺構（奈良2010）	19
第16図	大極殿院東西隅付近の遺構の標高比較	19

2 府営農業農村整備事業関係遺跡

梅ノ木原遺跡（第3次調査）・北野台遺跡（第1・ 3次調査）		
第17図	調査対象遺跡及び周辺の遺跡 (1/25,000)	22
第18図	トレンチ配置図 (1/4,000)	23
第19図	K 1 - 1~12tr土層柱状図 (1/40)	25
第20図	K 1 - 13~18tr土層柱状図 (1/40)	26
第21図	K 3 - 1~4・10~12・18・19tr土層柱状図 (1/40)	27
第22図	K 3 - 5・6・8・9・13・16・17tr土層柱 状図 (1/40)	29
第23図	K 3 - 7・14・15tr平面図・土層断面図 (1/80)	30
第24図	出土遺物実測図 (1/4)	31

3 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係 遺跡

【1】平成30・令和元年度の調査（余部遺跡第14・

16次）

第25図	調査対象遺跡及び周辺遺跡 (1/60,000)	35
第26図	調査区および周辺の既往主要調査区位置図 (1/10,000)	35
第27図	調査区配置図 (1/2500)	37
第28図	調査区グリッド配置図 (1/500)	38
第29図	調査区平面図 (1/400)	39
第30図	西・東調査区土層断面図 (1/100)	40
第31図	溝 S D22土層断面図・平面図 (1/80・ 1/400)	41
第32図	溝 S D13・16土層断面図 (1/80・1/400)	42
第33図	①区木製品出土状況 (1/80)	43
第34図	②区木製品出土状況 (1/80)	43
第35図	③区遺物出土状況 (1/20・1/80)	44
第36図	土坑 S K24・27平面図・土層断面図 (1/80)	45
第37図	杭の素材と先端加工痕	45
第38図	溝 S D14出土土器実測図 (1/4)	46
第39図	溝 S D13出土土器実測図 (1/4)	47
第40図	溝 S D14・15・16出土土器実測図 (1/4)	47
第41図	溝 S D15・16上層 出土土器実測図 (1/4)	48
第42図	溝 S D15・16下層出土土器実測図 (1/4)	50
第43図	土坑 S K24・27、溝 S D22、中世遺物包含層 出土土器実測図 (1/4)	51
第44図	断ち割り・遺物包含層出土土器実測図 (1/4)	51
第45図	出土石器・石製品・金属器実測図 (1/1・ 1/2・1/4)	53
第46図	溝 S D14・13出土木製品実測図 (1/6・ 1/10)	55
第47図	溝 S D15・16上層出土木製品実測図 1 (1/4・1/6)	56
第48図	溝 S D15・16上層出土木製品実測図 2 (1/6)	57
第49図	溝 S D15・16下層出土木製品実測図 1 (1/6)	58
第50図	溝 S D15・16下層出土木製品実測図 2 (1/6)	59
【2】	令和3年度の調査（西加舎遺跡第5次調査・ 千代川遺跡第34次調査・柿田14号墳第1次調査）	
第51図	西加舎遺跡第5次調査トレンチ配置計画図	

(1/10,000)	68
第52図 千代川遺跡遺跡第34次・拝田14号墳第1次調査地点 (1/12,000)	68
第53図 拝田古墳群分布図 (1/4,000) (京都府教育委員会1979に加筆)	69
第54図 拝田14号墳埴丘測量図 (1/400)	69
4 令和3年府内遺跡等報告	
第55図 令和3年府内遺跡調査位置図	71
[1] 史跡丹後国分寺跡（第1次調査）	
第56図 史跡丹後国分寺跡調査位置図 (国土地理院1/25,000「宮津」)	73
第57図 調査区配置図 (1/1,000)	74
[2] 霧尾遺跡試掘・確認調査（第1次調査）	
第58図 霧尾遺跡調査位置図 (国土地理院1/25,000「峰山」)	75
第59図 調査地位置図 (1/2,500)	76
第60図 各グリッド土層柱状図 (1/100)	76
第61図 出土遺物実測図 (1/4)	77
[3] 佐屋利遺跡試掘・確認調査（第2次調査）	
第62図 佐屋利遺跡調査位置図 (国土地理院1/25,000「峰山」)	78
第63図 トレンチ配置図 (1/5,000)	78
第64図 トレンチ平面図・断面図 (1/80・1/100)	79
第65図 出土遺物実測図 (1/4)	80
[4] 小倉田遺跡隣接地試掘・確認調査	
第66図 小倉田遺跡隣接地調査位置図 (国土地理院1/25,000「福知山西部」)	81
第67図 小倉田遺跡隣接地トレンチ配置図 (1/2,000)	81
第68図 小倉田遺跡隣接地土層断面図 (1/40)	82
[5] 福知山城跡試掘・確認調査	
第69図 福知山城跡調査位置図 (国土地理院1/25,000「福知山西部」「福知山東部」)	83
第70図 調査区配置図 (1/1,000)	83
第71図 平面図・土層柱状図 (1/80・1/100)	83
[6] 光明寺境内詳細分布調査	
第72図 光明寺境内調査地位置図 (国土地理院1/25,000「和知」)	84
第73図 光明寺境内平面略図 (1/2,500)、調査区柱状図 (1/50)	85
[7] 八木城跡試掘・確認調査（第3次調査）	
第74図 八木城跡調査位置図 (国土地理院1/25,000「亀岡」)	86
第75図 調査地と付近の縦張り図 (1/2,000 高橋成計作図に加筆)	86
第76図 調査区配置図 (1/1,000)	86
第77図 調査区平面・断面図 (1/250)	86
[8] 平安京跡（左京一条三坊三町）試掘・確認調査	
第78図 平安京跡調査地位置図 (国土地理院1/25,000「京都東北部」)	88
第79図 調査区配置図 (1/500)	88
第80図 調査区平面図 (1/100)	89
第81図 出土遺物実測図 (1/4)	89
5 栢ノ木遺跡（第15次調査）	
第82図 調査対象遺跡及び周辺遺跡位置図 (国土地理院1/25,000「田辺」)	90
第83図 調査区配置図 (1/2,000)	91
第84図 各トレンチ土層柱状図 (1/80)	92
第85図 第1トレンチ平面図・断面図 (1/80・1/100)	92
第86図 出土遺物実測図 (1/4)	93

付表目次

2 府営農業農村整備事業関係遺跡

付表1 令和2・3年度調査遺跡一覧

付表2 出土遺物觀察表

3 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡

付表3 令和3年度調査遺跡一覧

付表4 出土土器觀察表

付表5 出土石器・石製品觀察表

付表6 出土金属器觀察表

付表7 出土木製品觀察表

4 令和3年府内遺跡等報告

付表8 令和3年試掘・確認調査等一覧

6 令和3年における埋蔵文化財の発掘

付表9 平成30～令和2年度埋蔵文化財専門職員

及び埋蔵文化財包蔵地市町村別一覧

付表10 令和2年度埋蔵文化財関係届出

・通知件数市町村別一覧

付表11	土木工事等による発掘届出・通知件数一覧	104
付表12	埋蔵文化財発掘調査届出・報告件数一覧	104
付表13	埋蔵文化財認定件数一覧	104
付表14	令和3年度埋蔵文化財国庫補助事業一覧	105
付表15	令和3年度（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター委託事業一覧	106
付表16	令和2年度発掘調査報告書等刊行状況	108
付表17	令和2年度埋蔵文化財発掘調査届出・報告一覧	110

卷頭図版目次

1 恭仁宮跡（第102次調査）

卷頭図版 1

I M 01 G - s 調査区全景（西から）

3 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡

[1] 平成30・令和元（平成31）年度の調査（余部遺跡第14・16次）

卷頭図版 2

東調査区（北から）

（2）土坑 S K21112掘削状況（北西から）	
国版第4	（1）土坑 S K21112遺物出土状況（北西から）
（2）土坑 S K21115断面（南から）	
（3）土坑 S K21113断面（北から）	
国版第5	（1）土坑 S K21117掘削状況（北西から）
（2）溝 S D21121断面（北から）	
（3）柱穴 S P21116断面（南西から）	
国版第6	（1）I K03C - s 調査区全景（南東から）
（2）I K03C - s 調査区北側掘削状況（南西から）	
国版第7	（1）溝 S D21201検出状況（南東から）
（2）I K3 C - s 調査区南壁断面（北西から）	
国版第8	（1）柱穴 S P21208断面（東から）
（2）柱穴 S P21208断面（東から）	
国版第9	（1）柱穴 S P21214検出状況（上が西）
（2）柱穴 S P21216断面（西から）	
（3）柱穴 S P21219断面（東から）	
国版第10	（1）土坑 S K21206掘削状況（北から）
（2）柱穴 S P21211半裁（南から）	
（3）土坑 S K21212検出状況（南東から）	
国版第11	出土遺物 1
国版第12	出土遺物 2

2 府営農業農村整備事業関係遺跡

[梅ノ木原遺跡（第1次調査）・北野台遺跡（第1・3次調査）]

国版第13

- （1）調査前遠景（南東から）
- （2）K3 - 7tr全景（南東から）
- （3）K3 - 14tr全景（南西から）

国版第14

- （1）K3 - 15tr全景（南西から）
- （2）出土遺物 1
- （3）出土遺物 2

3 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡

[1] 平成30・令和元（平成31）年度の調査（余部遺跡第14・16次）

国版第15

- （1）溝 S D13~16完掘状況（北から）
- （2）溝 S D14 ①区 検出状況（南東から）

国版第16

- （1）溝 S D15 ②区 検出状況（南東から）
- （2）溝 S D15 ③区 検出状況（南東から）

国版第17

- 出土遺物 1

国版第18

- 出土遺物 2

図版目次

1 恭仁宮跡（第102次調査）

国版第1

- （1）I M01 G - s 調査区東壁断面（西から）
- （2）I M01 G - s 調査区中世溝検出状況（西から）

国版第2

- （1）掘立柱解 S A18001、掘立柱建物 S B21001掘削状況（北西から）
- （2）柱穴 S P21119断面（南東から）

国版第3

- （1）土坑 S K21112検出状況（西から）

- 図版第19 出土遺物 3
図版第20 (1) 出土遺物 4
(2) 出土遺物 5
図版第21 (1) 出土遺物 6
(2) 出土遺物 7
図版第22 (1) 出土遺物 8
(2) 出土遺物 9
図版第23 (1) 出土遺物 10
(2) 出土遺物 11
図版第24 (1) 出土遺物 12
(2) 出土遺物 13
図版第25 (1) 出土遺物 14
(2) 出土遺物 15
(3) 出土遺物 16
図版第26 出土遺物 17
図版第27 出土遺物 18
図版第28 出土遺物 19
図版第29 (1) 出土遺物 20
(2) 出土遺物 21
図版第30 (1) 出土遺物 22
(2) 出土遺物 23
(3) 出土遺物 24

[2] 令和3年度の調査（辯天14号墳第1次調査）

- 図版第31 (1) 調査地遠景（北から）
(2) 葦石検出状況（北から）

4 令和3年府内遺跡等報告

[2] 霜尾遺跡（第1次調査）

- 図版第32 (1) 調査地遠景（西から）
(2) 3G全景（南から）
図版第33 (1) 1G全景（西から）
(2) 2G北壁（南から）
(3) 4G南壁（北から）

[3] 佐屋利遺跡（第2次調査）

- 図版第34 (1) 6tr全景（東から）
(2) 8tr全景（東から）
図版第35 (1) 1tr掘削状況（南から）
(2) 4tr全景（西から）
(3) 7tr断面（南東から）

5 和束井手線防災・安全交付金事業関連遺跡令和3

年度発掘調査報告

- 柏ノ木遺跡（第15次調査）
図版第36 (1) 第1トレンチ完掘状況（南西から）
(2) 第1トレンチ北壁断面（南西から）

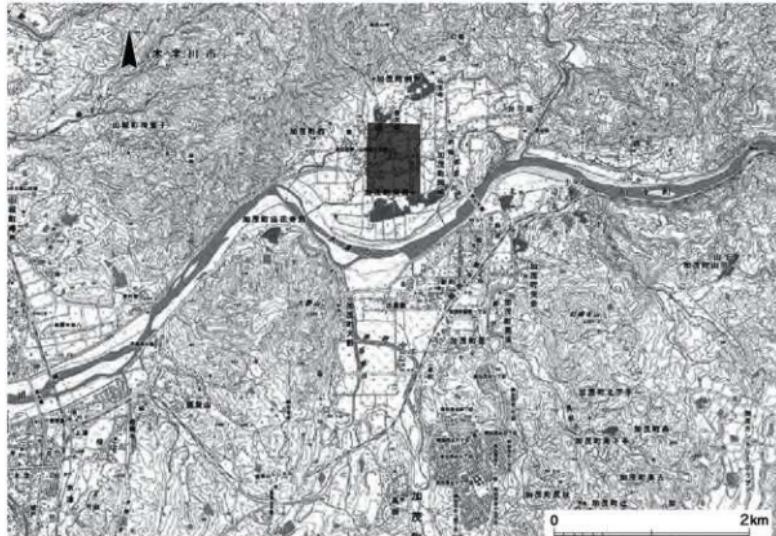
1 恭仁宮跡令和3年度保存活用調査報告 (恭仁宮跡第102次調査)

1 はじめに

恭仁京は、聖武天皇により天平12(740)年から同16(744)年まで足かけ5年にわたって營まれた古代宮都である。京都府教育委員会では、近隣に及び始めた諸開発に備え、恭仁宮跡の実態解明を目的として、昭和48年度から継続的に調査を実施し、平成8年度には恭仁宮跡の四至を確定した。また恭仁宮跡は、昭和32年7月1日に史跡山城国分寺跡として指定され、平成19年2月6日に史跡恭仁宮跡(山城国分寺跡)と名称変更・追加指定され、平成20年から令和3年にかけて、さらに史跡範囲の追加指定が行われた。

平成9年度からは、恭仁宮跡の保存及び活用を図るために、宮内より重要な地区についての詳細な内容把握を目的として、保存活用調査に着手した。内裏地区では、大極殿の北方に2つの区画施設が設けられていることを確認し、平成16年度には、併設された内裏東、西地区それぞれの範囲を確定するに至った。平成24年度からは、中心部の内部構造の解明を目的とした10箇年計画を策定し、調査を進めている。

本報告では、令和3年度に実施した第102次調査の略報を行う。



第1図 恭仁宮跡位置図(1/50,000)

《調査組織》

調査主体 京都府教育委員会

調査責任者 京都府教育庁指導部文化財保護課長 森 正

専門家会議

委員長 上原真人（京都大学名誉教授）

副委員長 井上和人（公益財団法人東洋文庫客員研究員）

委員 箱崎和久（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部長兼遺構研究室長）

清野孝之（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部副部長兼遺構研究室長（飛鳥・藤原地区））

調査指導 文化庁、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所

調査担当者 京都府教育庁指導部文化財保護課記念物係 課長補佐兼係長 藤井 整

副主査 中居和志

主任 桐井理揮

調査事務局 京都府立山城郷土資料館

調査協力 木津川市、木津川市教育委員会、京都府山城教育局、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所

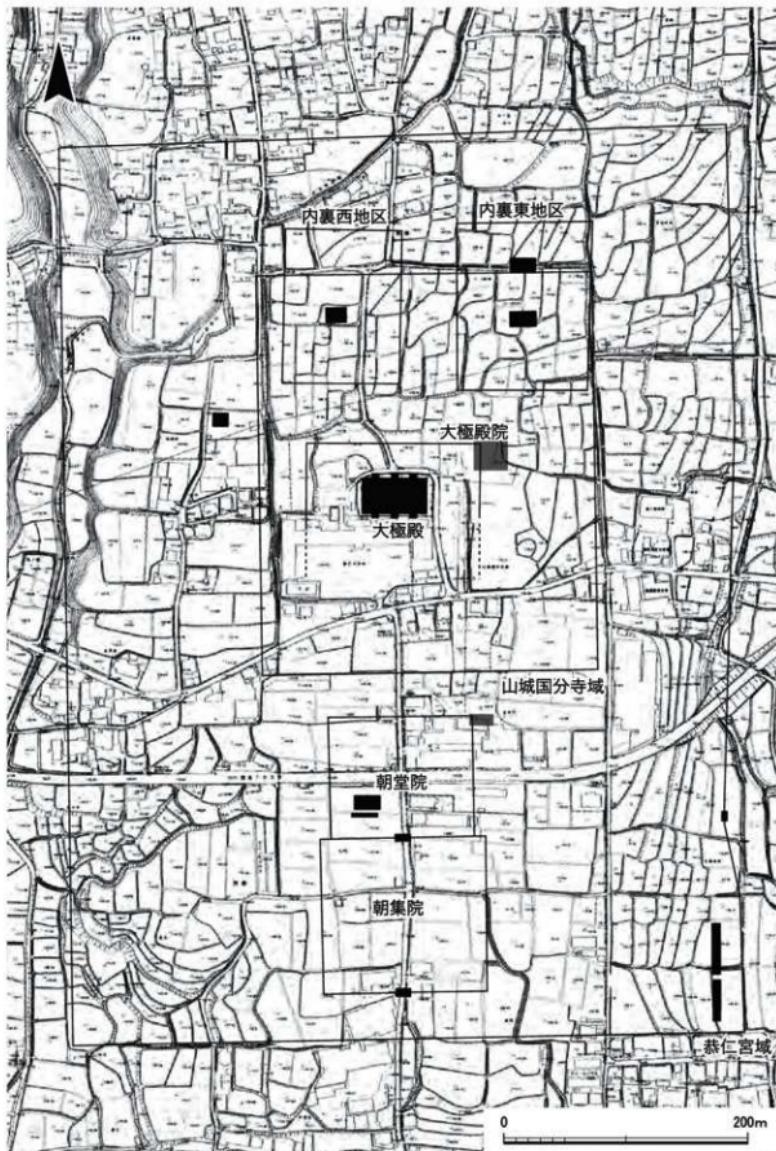
現地調査及び整理作業に当たっては、多数の方々に多大な協力を得た。心より感謝したい。

2 これまでの調査成果

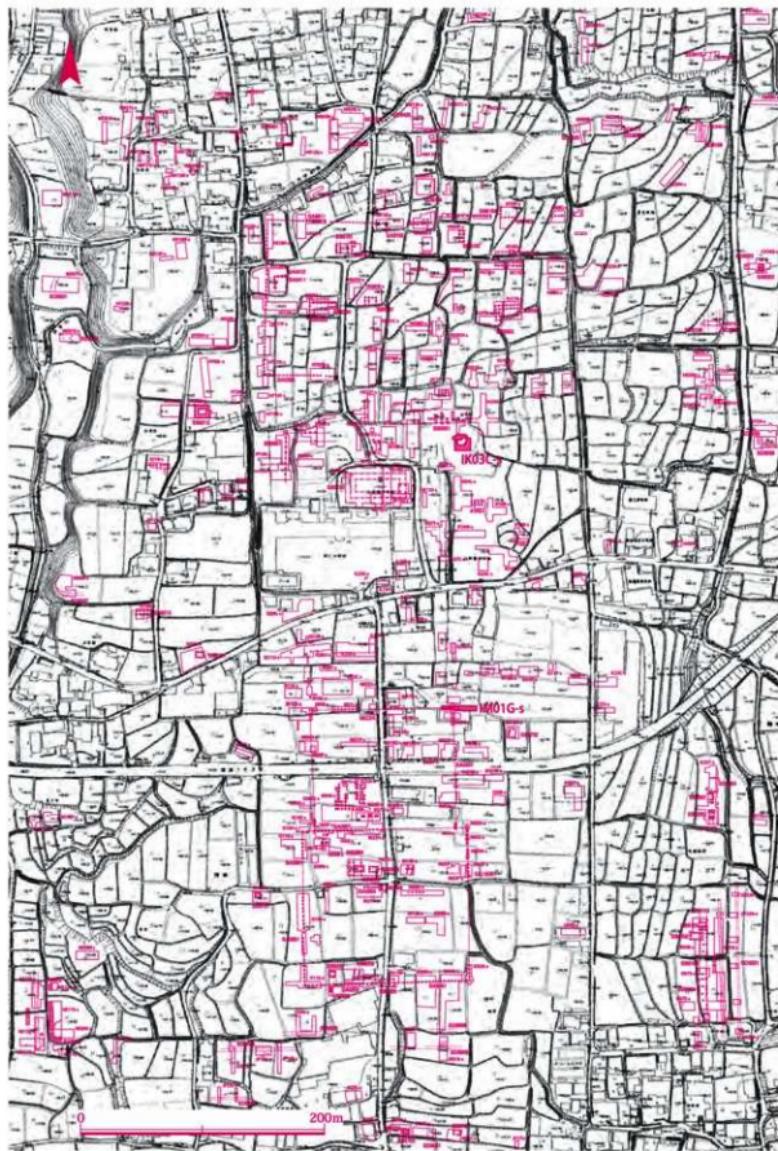
京都府教育委員会による恭仁宮跡の調査は昭和48年度から実施しており、今年度で49年目を迎えた。昭和48年度の分布調査及び文献調査を経て、昭和49年度からは発掘調査に着手した。昭和50年度から昭和61年度は、宮内の重要施設を確認するため宮跡中権域において発掘調査を実施し、大極殿院や朝堂院の区画施設、内裏に関連すると想定される建物や塀等の遺構を確認した。平成4年度から平成8年度に実施した調査によって、宮の四至が南北約750m、東西約560mであることが確定した。その後も、恭仁宮跡の保存活用を検討する上で、必要な資料を得ることを目的として継続的に調査を進めている。宮跡主要地区での調査成果の概要は下記のとおりである。

内裏地区

平成9年度の調査により、大極殿院の北方に、東西に並ぶ2つの区画施設の存在を確認した。他の宮都では、内裏が存在する位置にあるこれらの区画施設については、現時点ではその性格等の把握が十分ではないため、暫定的に両者を含め「内裏地区」とし、両者を区別する場合には、「内裏西地区」、「内裏東地区」とそれぞれ呼称している。「内裏西地区」は、東西約97.9m（約330尺）、南北約127.4m（約430尺）の範囲を掘立柱塀で区画するものである。区画内部の建物配置は、中心建物と思われる四面庇の東西棟建物SB5303のほかに2棟の存在を確認している。「内裏東地区」は、中心建物と見られる



第2図 調査地位置図(トーンは調査地、1/4,000)



第3図 恭仁宮跡主要遺構図(1/4,000)

2棟の東西棟庇付建物が南北に並び、東・西・南の3辺を築地、北辺を掘立柱塀で区画する。東西約109.3m(約370尺)、南北約138.9m(約470尺)の規模に復元することができる。

大極殿院地区

大極殿院地区では、昭和51年度に大極殿基壇S B5100を調査し、13基の礎石痕跡と階段等を検出し大極殿の規模が確定した。また、昭和53年度には、大極殿の東方で南北に2列に並んだ柱列S A5301・5302を検出し、回廊構築に伴う足場杭列との判断がなされた。しかし、これら以外には、大極殿院地区に係る施設についての手がかりは得られていなかった。

こうした中、平成15年度から大極殿院回廊の解明を目的とした新たな調査に着手し、平成17年度の大極殿院北東部における調査において、掘立柱建物S B0501を検出した。南北4間、東西10間の総柱建物で、南北11.34m、東西42.75mを測る。この建物は、恭仁宮の仮設的な建物あるいは僧坊など山城国分寺の関連施設と考えられる。また、平成18・19年度に大極殿の西北側で実施した調査で、大極殿院築地回廊の西北隅付近を確認した。両年度の調査では、大極殿院西面築地回廊に係る礎石据付け痕跡を計10基9間分、北面築地回廊に係る同様の礎石据付け痕跡を5基検出した。さらには北・西辺の外側を廻る雨落溝を検出し、西北隅部を明らかにすることができた。この成果により、大極殿院の東西幅は480尺(141.5m)で設計されたものと判断され、北面築地回廊(S A0701)南側柱と大極殿基壇北端の間におよそ95尺(約28.1m)の空閑地が存在していたことが判明した。

大極殿院回廊の南北長を明らかにするため平成22年度から平成24年度にかけて調査を行った。これらの調査においては、南面回廊の礎石据付け痕跡の可能性がある遺構S X12101などを検出したが、確定には至らなかった。

朝堂院・朝集院地区

朝堂院の区画は、北辺を除く区画施設については、その徵候のある遺構が確認されてきたが、平成21年度調査によって、西辺と南辺がそれぞれS A0902、S A0901に訂正されることになった。この成果によって、朝堂院の東西幅は390尺(約115.8m)であることが確定し、大極殿の中心から朝堂院南辺のS A0901までの距離は、940尺(約280m)となった。平成26年度調査では、朝堂院南門を検出した。また、平成24年度調査において、朝堂建物跡をはじめて検出した。この建物は平成25・26年度の調査で、南北2棟が重複する東西棟の掘立柱建物であることが判明した。また、平成29年度の調査で、朝堂院東面掘立柱塀北端の柱穴を検出した。

朝集院の区画については、西辺がS A5901、南辺がS A6202であることが確定している。また、朝集院南門と考えられるS B6305の存在も確認している。平成28年度の調査で北東隅を確認したことで、朝集院の四至が確定し、規模は南北が420尺、東西は450尺であることが確定した。

3 第102次調査の成果

(1) 調査の概要

令和3年度の第102次調査では、大極殿院回廊の検出および、大極殿院回廊と朝堂院の接続部分の構造解明を目的として調査を実施した。7月1日から調査区設定予定地点の測量などを実施し、7月2日から掘削作業を開始した。7月17日には山城郷土資料館の主催で、体験発掘を実施し、小中学生21名が参加した。また、恭仁宮跡調査専門家会議を9月3日に開催し、調査成果の検討を行った。9月15日に報道発表を行ったが、緊急事態宣言下であったため、現地説明会の開催は断念した。9月30日に埋め戻しを含めた現地での作業をすべて完了した。調査面積は235m²で、瓦や埴、土器類などコンテナ25箱分の遺物が出土した。

(2) 既往の調査成果と今年度の調査区の位置

これまで、未確定の大極殿院と、朝堂院の境界を解明するため、近隣地点で断続的に調査が行われてきた。大極殿院の南北の規模については、平成28年度までに、大極殿正面の恭仁小学校南にある幅100m以上、高さ1mの段差を大極殿南面とする復元案(第1案)^(注1)、平成22~24年度の第88~90次調査で確認された、大極殿院南面回廊の礎石据付け痕跡の可能性がある遺構を根拠とした復元案(第2案)^(注2)が提示されている。

平成29年度の調査では、第2案の大極殿院南面回廊及び大極殿院南門に相当する位置と、大極殿院南面回廊と朝堂院東面掘立柱塀S A5501の接続地点が想定される位置に調査区を設定したが、いずれも顯著な遺構は検出されず、想定よりも約50m南にS A5501の北限があることが明らかとなった。そのため、第2案よりも140尺南の位置に大極殿院南面回廊を想定する復元案(第3案)が新たに提示された。^(注3)

平成30年度から令和2年度の調査では、第3案で示された朝堂院の規模を確定するため、朝堂院北面掘立柱塀の想定位置と、北西隅の検出を目的に調査を行い、朝堂院の北西隅が確定した。しかし、大極殿院回廊との接続部分の構造に関しては未解明の課題として残った。

他方、大極殿院北面回廊については、平成18・19年度に北西隅が検出されたが、東面回廊については、建設に伴う足場穴とされている遺構が昭和57年度の調査で検出されているのみで、大極殿院回廊本体に伴う遺構は検出されていない。

本年度の調査では、朝堂院の北東隅を確認するとともに、大極殿院回廊との接続部分の構造解明を目指し、IM01G-s調査区を設定した。また、大極殿院回廊の北東隅と想定される位置にIK03C-s調査区を設定した。

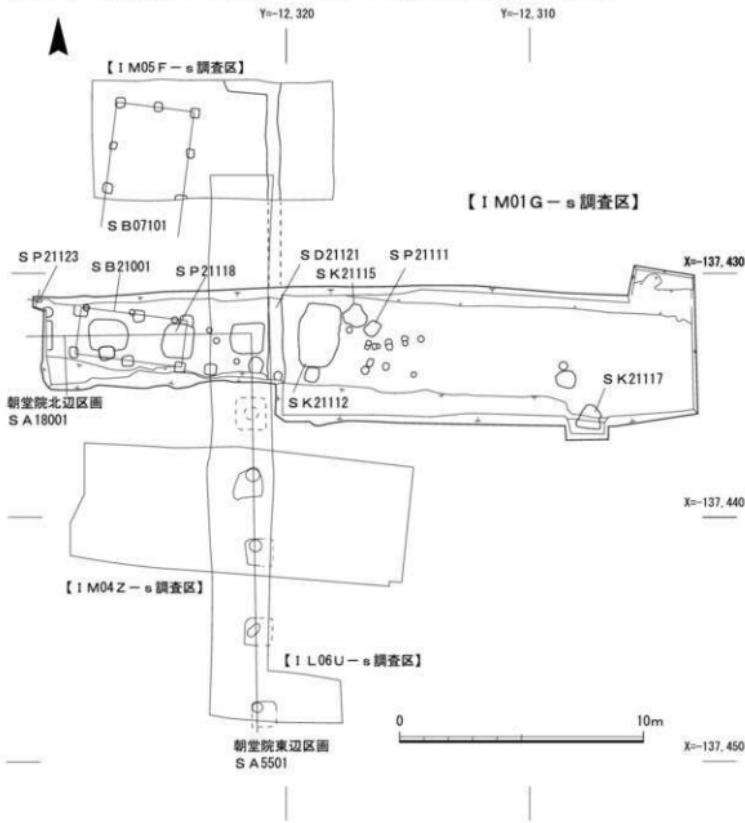
(3) I M01G-s 調査区

1) 調査の概要

平成29年度 I L06U-s 調査区で検出した朝堂院東辺掘立柱塹 S A5501の北端とみられる柱穴 S P 17301に重複させるように設定した調査区である。上層は擾乱が著しく、バラスや現代遺物を含む擾乱土で、擾乱土直下で地山とみられる土層を確認した。地山面は東から西にわずかに傾斜しており、西側のほうが削平が深くまで及んでいる。地山直上で耕作溝群を検出し、その溝群を完掘したところで下層遺構を検出した。

2) 検出遺構

耕作溝群 耕作溝群は調査区東側を中心に検出した東西方向の溝である。埋土中からわずかに遺物が出土しているが、直接の時期を示すものはない。中近世以降の遺構とみられる。



第4図 IM01G-s 調査区と周辺の調査区配置図(1/200)

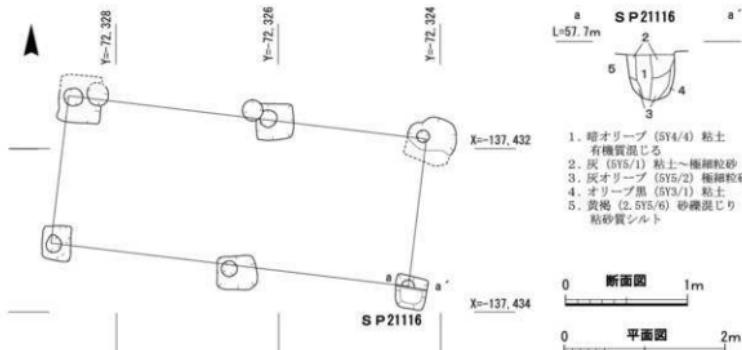
掘立柱建物 S B21001(第5図) 調査区西側で検出した1間以上×2間の掘立柱建物である。東西には柱列は続かず、1間×2間の側柱建物か、2間以上×2間の総柱建物に復元できる。出土遺物がなく、時期は不明だが、北東隅の柱穴がS P21118に切られることから、恭仁宮造営以前の建物であることは確実である。S P21116で断ち割りを行い、柱穴の深さを確認したところ、残存深は0.4mであった。なお、平成18年度に検出した2間×3間以上の建物S B07101は、報告時には中世の建物跡の可能性が指摘されているが、S B21001と主軸や柱間隔が近似していることから、同じ時期の建物である可能性が高い。遺構面精査時には飛鳥時代の土器も出土していることから、恭仁宮造営以前の建物群であると考えられる。

掘立柱塀 S A18001(第6図) 朝堂院北辺を区画する掘立柱塀である。平成29年度の調査で検出したS P17301を含め、4基(S P21118、S P21119、S P21120)を検出した。平成30年度の調査では、朝堂院北縁を区画する掘立柱塀には、切り合い関係から新古(S A18001、S A18002)があると報告されているが、今回の調査区ではそのような様子をうかがうことはできない。

柱穴 S P21119(第6図) S A18001を構成する柱穴で、東から3番目に当たる。平面検出時には、拳大の礫が上面に散在している状態であった。断ち割りにより断面の観察を行った結果、礫は柱の抜取り痕に流入していることが明らかとなった。平成30年度の調査では、切り合いが新しい柱列(S A18001)と同じような堆積状況を示しており、今回検出したのもS A18001に伴う遺構であると判断した。断面形状は緩いU字形で、残存深は0.5mである。また、抜取り痕を除いた本来の柱穴の上端での計測で、南北12m、東西1.1mである。

溝 S D21121(第7図) 朝堂院東辺を区画する掘立柱塀であるS A5501に並行する溝である。上半部は耕作溝により削平されているが、深いところでは残存深約0.2mである。平成18年度に調査されたI M05F-s調査区で検出している溝の延長と考えられる。埋土中から恭仁宮期と考えられる遺物の小片が出土している。

土坑 S K21112(第7図) S P17301の東で検出した土坑である。南北4.9m、東西3.4m、残存深



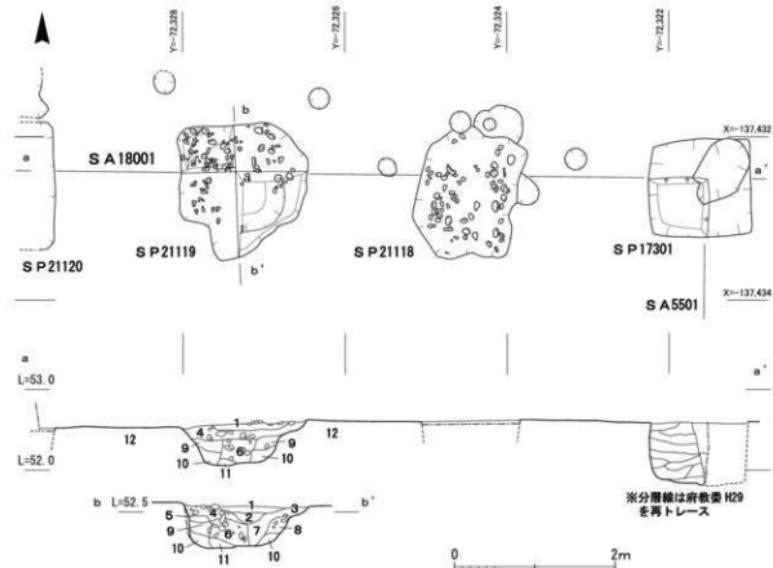
第5図 掘立柱建物 S B21001平面図・土層断面図(1/40・60)

0.15mを測る。平面形状は不整形な長方形で、断面形状は浅い皿状を呈する。埋土は2層にわかれ、上層は有機質を含むシルト、下層はブロック土を多く含むシルトである。同じような土坑は平成8年度にI N05P-s調査区でも検出しており、恭仁宮廐都にかかる廐棄土坑と評価している。

土層の確認のため、北東部分と南西部分のそれぞれ四分の一を掘削したところ、埋土中から須恵器壺や土師器鍋などが出土した(第12図1~4)。

柱穴S P21111(第7図) S P17301から東に4.65mの地点で検出した、方形の土坑である。大極殿院回廊が、朝堂院掘立柱壝に取りつくと仮定した場合、大極殿院回廊内側側柱が想定される位置で検出した。断面は浅い皿状で、残存深は0.1mである。検出時には上面で拳大の角礫が一つ露出していたが、埋土中には含まれない。出土遺物もなく時期も不明であるが、埋土の類似性から、恭仁宮期の遺構であると判断している。

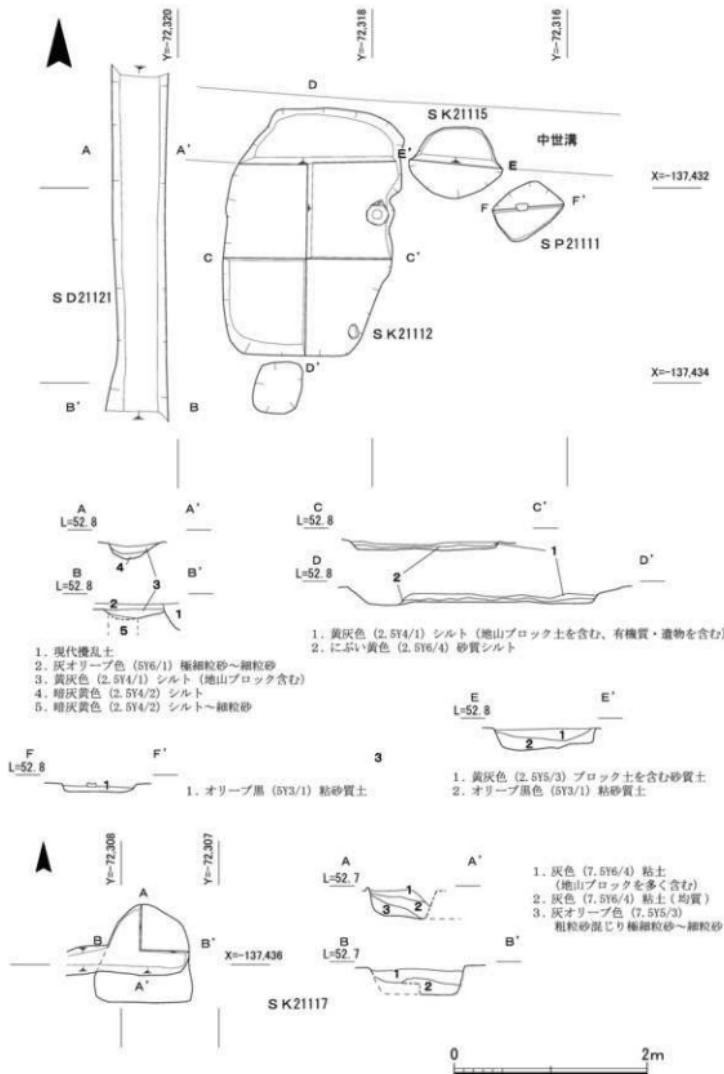
土坑S K21117(第7図) 調査区南東部で検出した不整形の土坑である。大極殿院回廊築地壝の延長と想定される位置で検出した。残存深は0.35mで、水平の堆積が認められることから、柱痕ではないと判断した。遺構埋土から奈良時代の須恵器が出土した。



S P21119 土層注記

1. 明黄褐色 (2.5Y6/6) 極細粒砂 (有機質含む、抜取痕)
2. 黄褐色 (2.5Y6/2) 粘土 (抜取痕)
3. 灰褐色 (2.5Y5/2) 粘土 (抜取痕)
4. 黄褐色 (2.5Y5/6) 極細粒砂 (礫を多く含む、抜取痕)
5. 黄褐色 (2.5Y5/6) 極細粒砂 (粗粒砂を多く含む、抜取痕)
6. にぶい黄褐色 (2.5Y6/4) 極細粒砂 (粗粒砂を多く含む、抜取痕)
7. にぶい黄褐色 (2.5Y6/3) 粘土 (ブロック土を多く含む、抜取痕)
8. 黄褐色 (2.5Y6/2) 粘土 (礫を多く含む、抜取痕)
9. 黄褐色 (5Y7/6) 粘土～極細粒砂 (ブロック土を含む、柱裏込土)
10. 浅黄褐色 (5Y7/4) 粘土～極細粒砂 (柱裏込土)
11. 浅黄褐色 (5Y7/4) 極細粒砂 (粗粒砂を多く含む、柱底跡か)
12. 明黄褐色 (2.5Y6/6) 中～粗粒砂混じりシルト (地山)

第6図 挖立柱壝 S A18001平面図・土層断面図(1/60)



第7図 各遺構平面図・土層断面図(1/50)

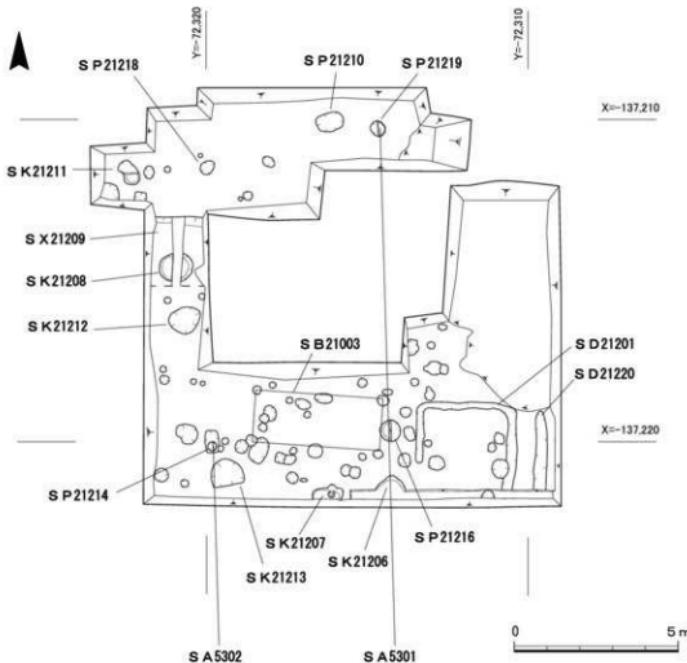
柱穴 S P21123(第7図) 調査区西側で、S B21001の延長を検出するために拡張した部分で検出した柱穴である。平面形状は方形となると考えられる。方位の振れがS B21001とほぼ同じであることから、西側に別の建物があった可能性も想定できる。掘削は行っておらず、時期は不明である。

(4) I K03C-s 調査区

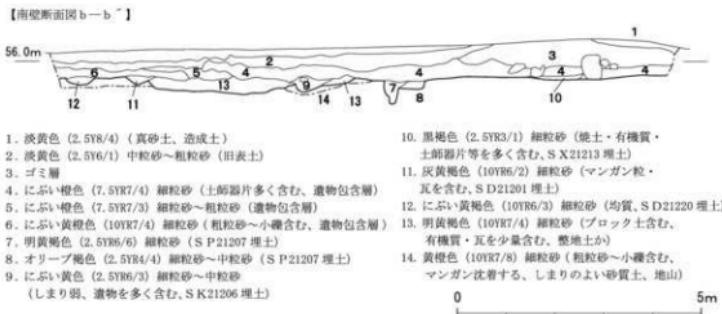
1) 調査の概要

大極殿院回廊の北東隅が想定される位置に設定した調査区である。調査地周辺は、昭和40年まで御靈神社が鎮座していた場所であり、現在は樹木が植えられている。樹木を避けるように「コ」字状の調査区を設定した。

調査の結果、調査区の大部分は現代の攪乱が深くまで及んでいることが明らかとなった。攪乱を免れた部分で層序をみると、表土、造成土下に中世の遺物包含層が堆積し、その直下が地山、あるいは古代の造成土である。遺構は地山直上で検出し、北東端での検出面は標高56.0m、南西端での検出面は標高55.7mである。各遺構はすべて同一面で検出した。



第8図 I K03C-s 調査区平面図(1/150)



第9図 I K03C-s 調査区南壁断面図(1/100)



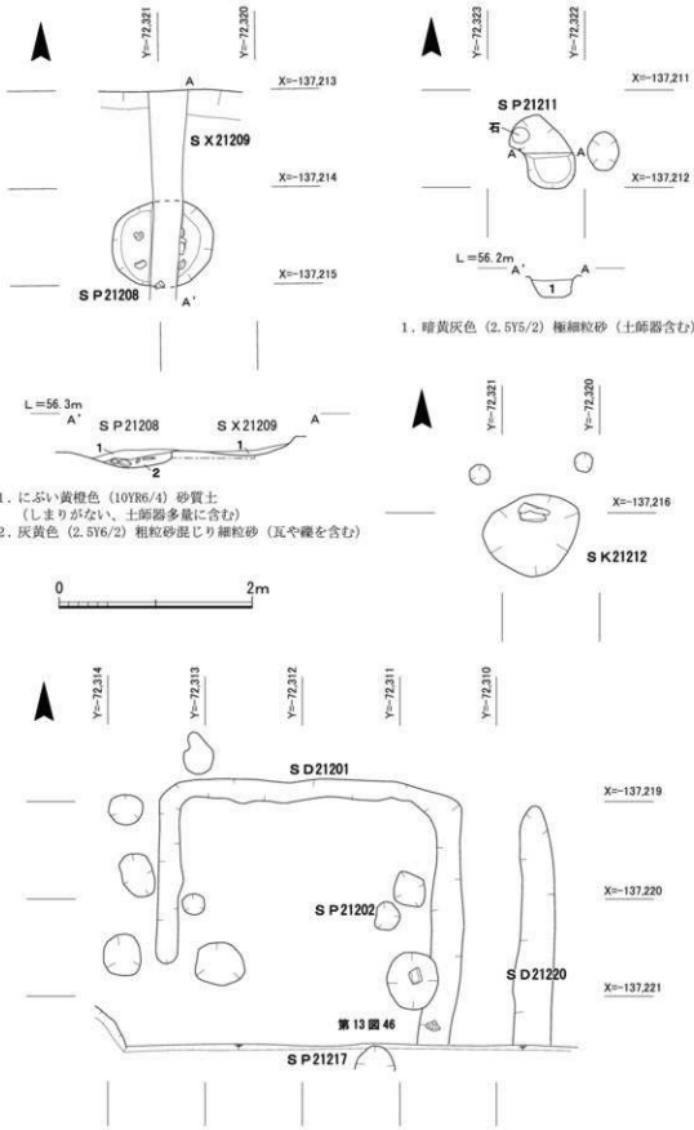
第10図 足場穴遺構 S P21214・21216・21219平面図・土層断面図(1/40)

2) 検出遺構

①古代

足場穴遺構 S P21214・21216・21219(第10図) 大極殿院東側回廊についてはこれまで明確な遺構が見つかっておらず、回廊構築に伴う足場穴遺構が昭和53年度の I F24W-s 調査区(S A5302)、I K04L-s 調査区(S A5301)で検出されている。報告では、「3か所のピットの延長上にこれと類似した小規模なピット列が南北2列に並んでいるのを検出した。そしてその間隔も、各列約4.5m前後を測る」遺構であり、南北約50mにわたる足場杭列の可能性がある遺構とされた。

今回、足場穴遺構 S A5302の延長で S P21214を、S A5301の延長で S P21216と S P21219を検出した。S P21214は0.7×0.4mを測る長方形の遺構で、中世の柱穴に切られる。残存深は0.1mである。S P21216は円形で、直径0.6mを測る。残存深は0.15mで、断面形状は浅い皿状を呈する。S P21219は円形で、直径0.5mを測る。残存深は0.1mで、断面形状は浅い皿状を呈する。いずれも極めて浅く、断面観察で柱痕も認められない。また、出土遺物もなく正確な帰属時期も不明である。したがって、



第 11 図 IKO3C-s 調査区各遺構平面図・土層断面図(1/50)

積極的に築地回廊に伴う足場穴とする根拠は欠くが、中世以前の遺構であること、他の柱穴群とは明らかに埋土が異なっていること、S A5301、S A5302の延長上にあること等を根拠とし、足場穴遺構の可能性があると考えておきたい。

柱穴 S P21208 (第11図) 中世の落ち込み S X21209の下層で検出した、直径約0.9mの円形の土坑である。上層は S X21209の埋土で、中世の遺物が多い。下層からは古代の須恵器とみられる破片などが出土した。また、礫や瓦が下層埋土中には多く含まれる。中心の座標はX=-137.216.61、Y=-12.320.94である。この遺構は、平成19年度に検出した、大極殿院回廊北西隅の内側礎石据付け痕跡から東に128.996m、東で北に角度1.6°振れた位置にある。

溝 S D21201 (第11図) 「ワ」字状に巡る溝である。調査区南壁の断面観察では、西側は南に延伸しないが、東側はさらに南に延びる。検出中に国分寺所用軒丸瓦が出土しており、国分寺期の遺構の可能性がある。断ち割りにより断面の確認を行ったところ、深さ0.15mの緩い「U」字状を呈する溝である。

掘立柱建物 S B21003 (第8図) 調査区南側で検出した2間×1間以上の掘立柱建物である。主軸は西で北へ6度振る。柱穴の平面形状は円形である。掘削を行っていないため、時期は不明だが、同じような主軸を持つ建物は恭仁宮期以前に帰属するものが多いことから、一応は恭仁宮以前の建物と考えておきたい。

②中世の遺構

柱穴群 (第8図) 調査区南側を中心に中世と考えられる小ピットを多く検出している。これらは、大部分が未調査地に入るため、正確な規模や構造は不明ながら、掘立柱建物に復元できる可能性がある。個別の柱穴の多くは未掘削であるが、検出中に土師器皿の破片が出土しており、15世紀代の遺構と考えられる。

土坑 S K21207 (第8図) 調査区南端で検出した不整形の土坑である。南半は調査区外のため、検出できていない。埋土は黒色の砂質土からなり、掘削中に土師器、瓦器などがまとめて出土した。瓦器の年代から13世紀末の遺構と考えられる。

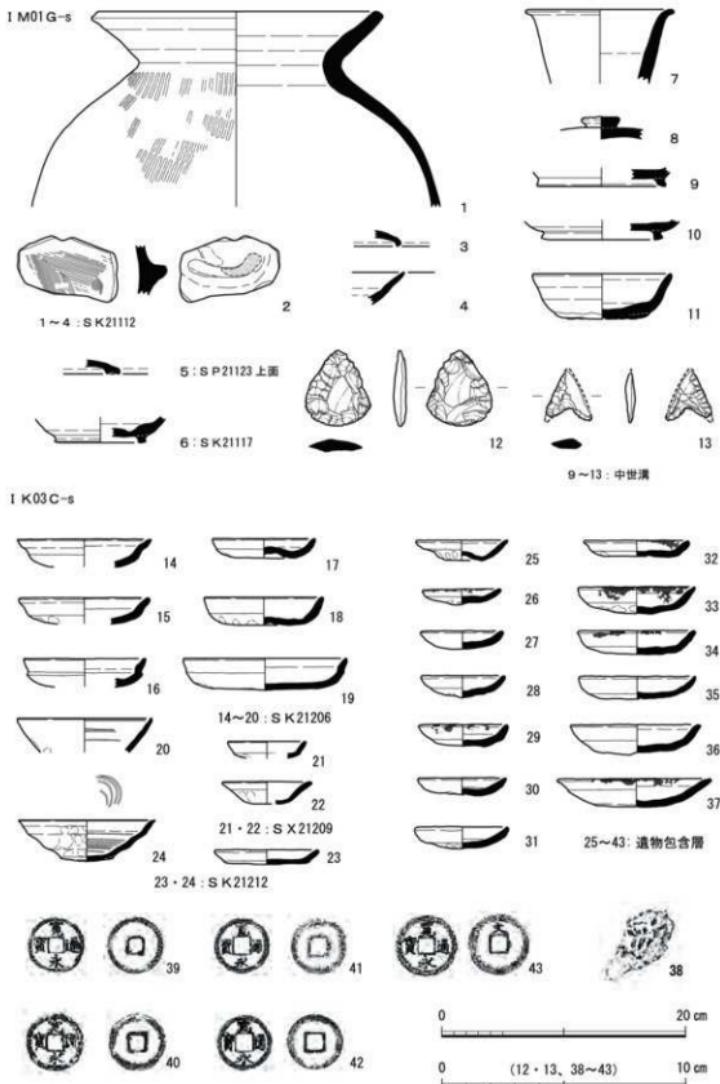
土坑 S K21211 (第11図) 調査区北西隅で検出した楕円形の土坑である。上面では円礫を検出した。残存深は約0.2mである。掘削中に土師器皿の小片が出土した。

土坑 S K21212 (第11図) 調査区西側で検出した楕円形の土坑である。上部に根攢乱があり、根の除去中に遺構上面で多くの遺物が出土した。遺構の掘削は行っていない。13世紀の遺構と考えられる。

(桐井理揮)

(5)出土遺物

出土遺物は、コンテナ25箱分があり、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、石器、瓦、埴などのはか、凝灰岩を加工したいわゆる切石凝灰岩の破片や礎石とみられる円形の凝灰岩がある。そのほとんどは I K03C-s 調査区の遺物包含層から重機掘削中に出土したものである。以下では、調査区毎に出土遺物を概観する。



第12図 出土遺物実測図(1/2・1/4)

1) IM01G-s 調査区

IM01G-s から出土した遺物はコンテナ2箱分である。

1～4は、廃棄土坑SK21112から出土した。1は大形の須恵器壺で土坑SK21112の床面に接するように出土した。口径23.0cmを測る。口縁部は緩く屈曲し、体部外面には平行タタキが残る。器面の摩滅が著しく、焼成はやや軟質である。2は土師器鍋の把手である。内面にはナナメ方向のハケメが残る。スス、コゲは認められない。3は須恵器杯蓋、4は須恵器杯Aの口縁端部である。小片のため、位置付けが難しいが、恭仁宮期の遺物とみられる。

5は柱穴SP21123から出土した須恵器杯蓋である。6は土坑SK21117から出土した杯Bである。

7～13は上層の耕作溝掘削中に出土した。7は壺である。ラッパ状に広がる口縁部で、外面には自然釉が付着する。8は杯蓋のつまみ部である。9・10は須恵器杯Bの底部である。11は椀状の杯で、やや丸みのある器形である。底部にはヘラ切り痕が顕著に残る。焼成はやや軟質。恭仁宮期以前の遺物であろう。

12・13はともにサヌカイト製の石鎚である。12は平基式の石鎚である。周縁から粗い押圧剥離を加え、中央部には主要剥離面が残る。長さ3.0cmとやや大型で弥生時代の遺物か。13は凹基式の石鎚である。左右が非対称で、片側は欠損する。縄文時代の遺物か。

2) IK03C-s 調査区

IK03C-s 調査区では恭仁宮期の遺物だけでなく、中世から近世の遺物も多く出土した。

土坑SK21206(第12図14～20) 14～19は土師器皿である。いずれも色調は赤褐色であり、いわゆる「赤土器」の系統である。体部はヨコナデしており、底部外面にはユビオサエがみられる。17は底部を押し上げたハソ皿である。15・17・19は、強くヨコナデしているため、体部外面に段ができる。20は大和型の瓦器椀である。内面に粗いミガキがみられる。Ⅲ段階でも後半の資料である。

これらの資料は、土師器皿、瓦器椀の型式から13世紀後半のものと考えられる。

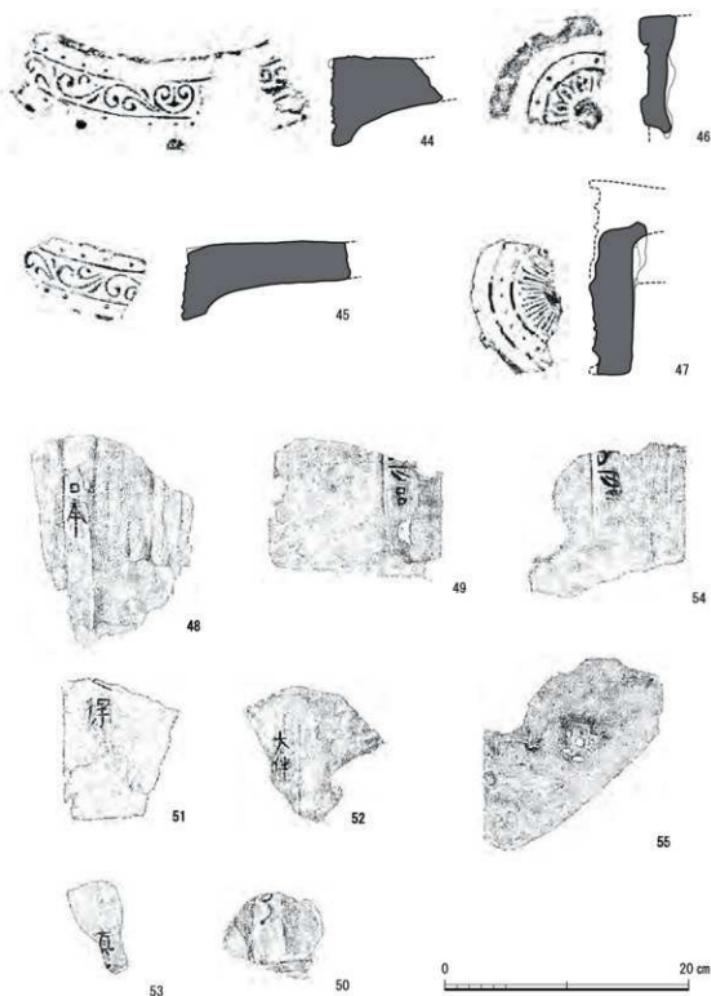
落ち込みSX21209(第12図21・22) 21は土師器皿である。色調は黄褐色を呈し、薄手である。体部を強くヨコナデしており、外面に段ができる。22はやや深手の土師器皿である。

土坑SK21212(第12図23・24) 24は大和型の瓦器椀である。内面に粗いミガキがみられる。高台はほとんど形骸化している。Ⅲ-D段階の資料とみられ、13世紀後半の年代観が与えられる。

遺物包含層(第12図25～45、47～55) 25～37は土師器皿である。色調は32のみ赤褐色を呈するが、それ以外は黄褐色である。25はへそ皿である。体部をヨコナデし、そのままナデ上げている。器形のゆがみが大きい。26～31は口径6.5～7.5cmの小皿、33～37は口径9.5～12cmの大皿である。小皿は厚手である。体部をヨコナデし、そのままナデ上げるものが多い。また、口縁部に煤が付着する個体が多く、灯明皿として使用されたと考えられる。32は扁平な皿で体部が短く立ち上がる。17世紀代以降の近世の遺物と考えられる。

38は、葉のような文様が認められる土師器片である。小片で、器種や時期は不明。

39～43は寛永通宝である。すべて壁面精査中に出土した。いずれも1636年以降に鋳造された新寛永の一文銭で、43のみ背面に「文」字が認められる。



第 13 図 出土遺物実測図(1/4)

44～47は瓦当面の残る瓦である。44、45はいずれもKH02である。46はKM06、47はKM01である。46は、溝S D21201上面精査中に出土したものである。ほかに、型式不明の軒丸瓦が2点ある。

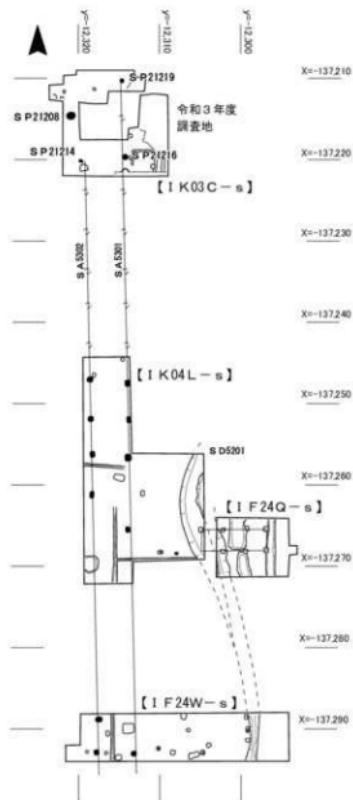
文字瓦はすべて重機掘削中に出土している。その内容は、48「日奉」(KJ11A)、49「乙万呂」(KJ14C)、50「太万呂」(KJ16)、51「足得」(KJ13A)、52「大伴」(KJ08)、53「真依」(KJ12A)である。54は「太万呂」とみられるが詳細は不明である。50のみ丸瓦で、他は平瓦に印が押捺される。55は、平瓦の凹面に動物の足跡のような陰影が確認できる。

その他、塼、切石凝灰岩、礎石とみられる扁平に加工された凝灰岩が出土している。(図版12)

調査区から出土した資料は、恭仁宮期の瓦類、13世紀後半～15世紀、近世以降の遺物の3時期に大別できる。山城国分寺が衰退したのち、周辺に13世紀代の集落が形成されたと考えられる。また、調

査地は昭和40年まで御靈神社の境内であった場所であり、遺物包含層から出土した近世以降の土師器皿や寛永通宝は神社に関連する遺物と考えられる。

(桐井理揮・岡田健吾)



第14図 足場穴遺構の検出状況(1/600)

4 まとめ

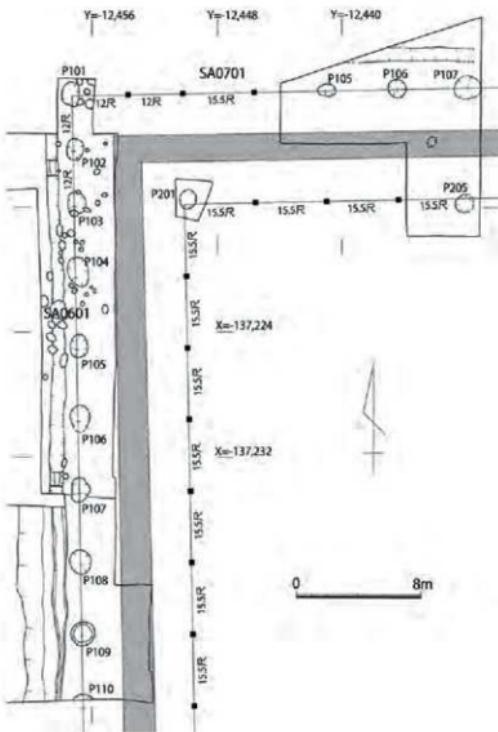
本年度の調査で朝堂院の規模が確定したことにより、恭仁宮主要区画の規模がほぼ確定し、平成24年度から継続して行ってきた恭仁宮跡保存活用調査はひとまずの区切りを迎えることとなった。以下では、現状の認識を簡単にまとめておきたい。

大極殿院回廊の遺構が唯一検出されているのは北西隅のみで、その他の地点では、大極殿院回廊そのものの遺構は見つかっていない。大極殿院の南北の規模については、大極殿正面の恭仁小学校南にある幅100m以上、高さ1mの段差を大極殿院南面とする復元案(第1案)、平成22～24年度の第88～90次調査で確認された、大極殿院南面回廊の礎石据付け痕跡の可能性がある遺構を根拠とした復元案(第2案)、朝堂院に直接接続させる復元案(第3案)が提示されている。^(注8) 令和2・3年度の調査では第3案を検証するために、朝堂院の東西に調査区を設定したが、大極殿院に関わる遺構を検出することはできず、南北の規模に関しては未だ3案が並立している状況である。他方、大極殿院北面回廊および東面回廊については、今回の調査で解明につながる手掛かりを

得ることができた。

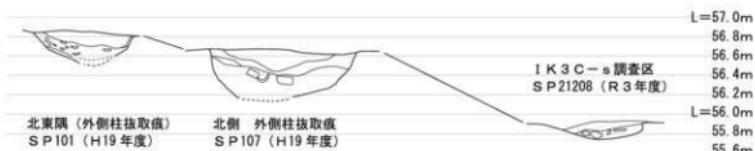
東面回廊については、回廊内側柱建設に伴う足場穴とされていいる遺構が昭和57年度の調査で検出されているのみで、大極殿院回廊本体に伴う遺構は検出されていなかった。今回、東面回廊の検出を目的に、IK03C-s調査区を設定したところ、この足場穴遺構の北側延長部で柱穴を確認したことから、足場穴遺構は約80mの区間で断続的に認められるということが明らかとなった(第14図)。

また、北面回廊に関しては、IK03C-s調査区で検出した柱穴SP21208が、大極殿院回廊内側柱の候補となる。柱穴SP21208は直径0.9mの円形の土坑である。古代の瓦や礫が多く含まれるなど、規模、検出状況とも、北西隅の大極殿院回廊側柱の礎石据付け痕跡



第15図 大極殿院回廊北西隅の遺構(奈良2010)

と類似している。中心の座標はX=-137214.61, Y=-12309.94である。この遺構は、平成18、19年度に検出した、大極殿院回廊内側礎石据付け痕跡(P201, X=-137215.56, Y=-12449.92)から東に128.996m、東で北に角度1.6°の位置にある。仮に柱穴SP21208を大極殿院回廊内側柱に伴う遺構(北東隅柱から2本目の柱)と考えると、大極殿院内側柱は15.5尺(4.58m)で割り付けたと



第16図 大極殿院東西隅付近の遺構の標高比較

されているので、内側柱の東西の幅は133.576m(451尺)となる。大極殿院回廊は、築地塀を中心に設けてそれぞれの梁行が12尺(3.55m)で割り付けたことが判明していることから、同じ長さと考えるならば、大極殿院回廊築地芯の東西幅は475尺ということになる。

これまで大極殿院回廊の規格は、北西隅で検出された一連の遺構を、大極殿院の主軸に対して折り返し、東西幅480尺と考えられてきた。近年、森島康雄は恭仁宮の造営企画を再検討する中で、改めて座標の精査を行い、大極殿院回廊の幅を474尺程度と想定しており^(註9)、この値に近くなる。ただし、森島説では角度の振れは1.1°程度と想定されており、やや開きがある。

今回の調査でも、礎石据付け痕跡の可能性がある遺構を1基確認したのみで、それに伴う一連の遺構を検出できたわけではなく、上述の大極殿院回廊東西幅も現段階では推論に過ぎない。また、調査地周辺は遺構の削平が大きく、東西の調査区で1m程度の検出面の差がある。今後、周辺の調査成果を総合し、より蓋然性の高い復元案の提示が求められる。

(桐井理揮)

注1 奈良康正 2011「恭仁宮大極殿院考」「京都府埋蔵文化財論集」第6集 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

注2 京都府教育委員会 2012「京都府埋蔵文化財調査報告書(平成23年度)」

京都府教育委員会 2013「京都府埋蔵文化財調査報告書(平成24年度)」

注3 京都府教育委員会 2018「京都府埋蔵文化財調査報告書(平成29年度)」

注4 京都府教育委員会 2019「京都府埋蔵文化財調査報告書(平成30年度)」

注5 京都府教育委員会 2008「京都府埋蔵文化財調査報告書(平成19年度)」

注6 注4と同じ

注7 京都府教育委員会 2000「恭仁宮跡発掘調査報告」Ⅱ

注8 注1～3と同じ

注9 森島康雄 2019「恭仁宮」「講座叢内の古代学」第Ⅲ巻 王都と王宮、雄山閣

参考文献

奈良市埋蔵文化財調査センター 2014「南都出土中世土器資料集」奈良市埋蔵文化財調査センター資料5

奈良市教育委員会

2 府営農業農村整備事業関係遺跡 令和2・3年度発掘調査報告

京都府教育委員会では、府農林水産部が進める府営農業農村整備事業に係る埋蔵文化財の取扱いについて同部農村振興課と協議を行い、埋蔵文化財の保護と同事業との調整を図っている。事業着手前には、事業地内における埋蔵文化財包蔵地に対して試掘・確認調査を実施して遺構・遺物の広がり等の詳細な内容を把握するとともに、やむを得ず本調査が必要な部分については、各市町埋蔵文化財所管部局と協力して、発掘調査を実施している。

令和2・3年度の府営農業農村整備事業にかかる発掘調査は、京都府教育委員会及び綾部市教育委員会が実施した。その内訳は、本調査4件である(付表1)。

令和2・3年度の調査組織及び調査期間は以下のとおりである。調査期間中にご協力いただいた関係機関及び関係者の皆様には記して感謝したい。

《調査組織》

令和2・3年度

調査主体 京都府教育委員会

調査責任者 京都府教育庁指導部文化財保護課長 森下 衛(～令和2年度)

森 正(令和3年度～)

調査担当者 京都府教育庁指導部文化財保護課記念物係主幹兼係長 石崎 善久(～令和2年度)

記念物係課長補佐兼係長 藤井 整(令和3年度～)

主査 奈良 康正

技師 北山 大熙

技師 川崎 雄一郎

付表1 令和2・3年度調査遺跡一覧

1 京都府教育委員会が実施した調査(令和2・3年度)

遺跡名	所在地	現地調査期間
上ヶ市遺跡(第3次)	福知山市川北地内	令和2年7月27日～令和2年7月30日
梅ノ木原遺跡(第1次調査)	綾部市位田町地内	令和2年11月2日～令和2年12月18日
北野台遺跡(第1・3次)	綾部市位田町地内	令和2年11月2日～令和2年12月18日 令和3年5月24日～令和3年6月30日

2 その他の機関が実施した調査(令和2・3年度)

遺跡名	所在地	調査機関
北野台遺跡(第2・4次)	綾部市位田町地内	綾部市教育委員会

うめのきはら
梅ノ木原遺跡第1次・北野台遺跡 第1・3次調査

1 はじめに

令和2年度は、綾部市位田町地内で府営農地中間管理機構関連農地整備事業の実施が計画されることから、事業予定地において分布調査を行ったところ、新たに北野台遺跡の存在が明らかとなった。

事業予定地は梅ノ木原遺跡と北野台遺跡の両遺跡にまたがっており、令和2年度に実施した梅ノ木原遺跡第1次・北野台遺跡第1次調査では、一辺3m四方の調査区を18箇所設定し、発掘調査を行った。調査期間は令和2年11月2日から12月18日である。令和3年度に実施した北野台遺跡第3次調査では、令和2年度に引き続き3m四方の調査区を19箇所設定し、発掘調査を行った。調査期間は令和3年5月24日から6月30日である。調査面積は合計380m²である。

2 位置と環境

梅ノ木原遺跡と北野台遺跡は、由良川右岸に位置する綾部市位田町に所在する。町域の中央を瀬戸川が南流し、町域の南端で由良川に合流する。

梅ノ木原遺跡は瀬戸川と由良川の合流地点の西側にあたり、河川の堆積作用で形成された沖積地内の微高地に立地する。梅ノ木原遺跡の北側には班れい岩帶と洪積層によって形成される丘陵が存在し、丘陵裾に現在の集落が立地している。



第17図 調査対象遺跡及び周辺の遺跡(1/25,000)



第18図 トレンチ配置図 (1/4,000)

北野台遺跡は梅ノ木原遺跡の北東に所在し、沖積地と丘陵の中間地点に位置する。遺跡の中央を瀬戸川が流れしており、最も標高の高い現在の集落域から由良川に向かって緩やかに標高が下がっていく。

周辺に旧石器・縄文時代の遺跡は確認されておらず、弥生時代から奈良時代の散布地として周知されている位田遺跡が最も古く位置付けられる。北野台遺跡の北方を取り囲む丘陵上には、瀬戸古墳群、瀬戸東古墳群、宮越古墳群が所在する。北西に位置する瀬戸古墳群は、前方後円墳を含む計21基の古墳によって構成される。梅ノ木原遺跡の北東に位置する北ノ前遺跡は、瀬戸古墳群の立地する丘陵の麓にあたり、古墳時代後期の散布地であることから、丘陵上を墓域として利用し、低地部に集落域が広がっていたものと考えられる。

遺跡が所在する位田町城は、古代の何鹿郡に含まれる。平安時代の『倭名類聚抄』によると何鹿郡は16の郷で構成されており、位田町城を文井郷に比定する説が存在するが、現時点では古代の集落の詳細は明らかではない。中世に入ると、寛正2(1461)年の何鹿郡代広戸九郎左衛門尉の下知状に上位田・下位田の地名が確認できる。

中世には、北野台遺跡の北東に位置する丘陵が城館として利用され、位田宮越城館跡や位田城跡が所在する。位田城は何鹿郡でも最大規模の山城であり、「撫巣寺縁起」には、延徳2(1489)年の位田の乱の際、何鹿郡の国人大槻氏や荻野氏の拠点であったとある。明智光秀による丹波平定の際に織田方の進攻に對して、荻野肥前守が位田城を拠点に對抗したとされる。位田宮越城館跡は城主が不明ながらも、隣接する位田城跡との関連が想定されており、現在は氏政神社が鎮座している。

近世において、位田町は山家藩及び旗本谷家の領地であった。

3 令和2・3年度調査の概要

令和2・3年度の調査では、ほ場整備の工事予定地内で、切土施工が計画されている区画に調査区を設定した。今回の調査の目的は、遺物包含層及び遺構面の有無並びに検出高の確認であり、各区画に3m四方の調査区を設定した。表土及び近現代の堆積土を重機で掘削したのち、人力による掘削を行った。また、調査の進行状況に応じて、遺構の検出を目的とした調査区の拡張や断ち割りによる層序の確認を行った。

令和2年度の調査では、梅ノ木原遺跡と北野台遺跡及びその周辺に合計18箇所の調査区を設定した。調査区はK1-1・2trが北野台遺跡、K1-5~14trが梅ノ木原遺跡である。K1-3・4・15~18trは遺跡範囲の確認のための調査区である。令和3年度は、北野台遺跡の範囲内に合計19箇所の調査区を設定した。

(1) 梅ノ木原遺跡第1次・北野台遺跡第1次調査

K1-1 tr(第19図) 床土の下層に旧耕作土とみられる第3~7層を検出した。遺物は第5層から鉄釘が出土した。

K1-2 tr(第19図) 床土の下層に旧耕作土とみられる砂質土とシルトの堆積を検出した。第6層からは近世の陶器片が出土しており、旧耕作土は近世以降のものと判断できる。

K1-3・4 tr(第19図) 床土の下層に旧耕作土とみられるシルトの堆積である第3~5層を検出した。その下層にあたる第6層は砂質土の堆積であり、K1-4 trでは南から北へ傾斜して堆積する状況を確認した。第4層から施釉陶器、土師質土器片が出土した。

K1-5・6 tr(第19図) 表土、床土及び第4層の下層で、近世の堆積土(第5層)を検出した。第5層からは弥生土器、染付磁器が出土しているほか、上層で摩滅した瓦器の破片が出土している。第6層の土質は第5層とはほぼ同質であり、堆積時期の差は小さいものと推定できる。第7層は褐色砂質土であり、K1-7 tr第9層(中世の遺物包含層)に対応すると考えられる。

K1-7 tr(第19図) 第9層の上面で溝を検出した。溝は東西方向に延びており、埋土中から近世の磁器が出土した。近世溝のベースとなる第9層は、瓦器の破片が出土したことから、中世の遺物包含層と判断した。

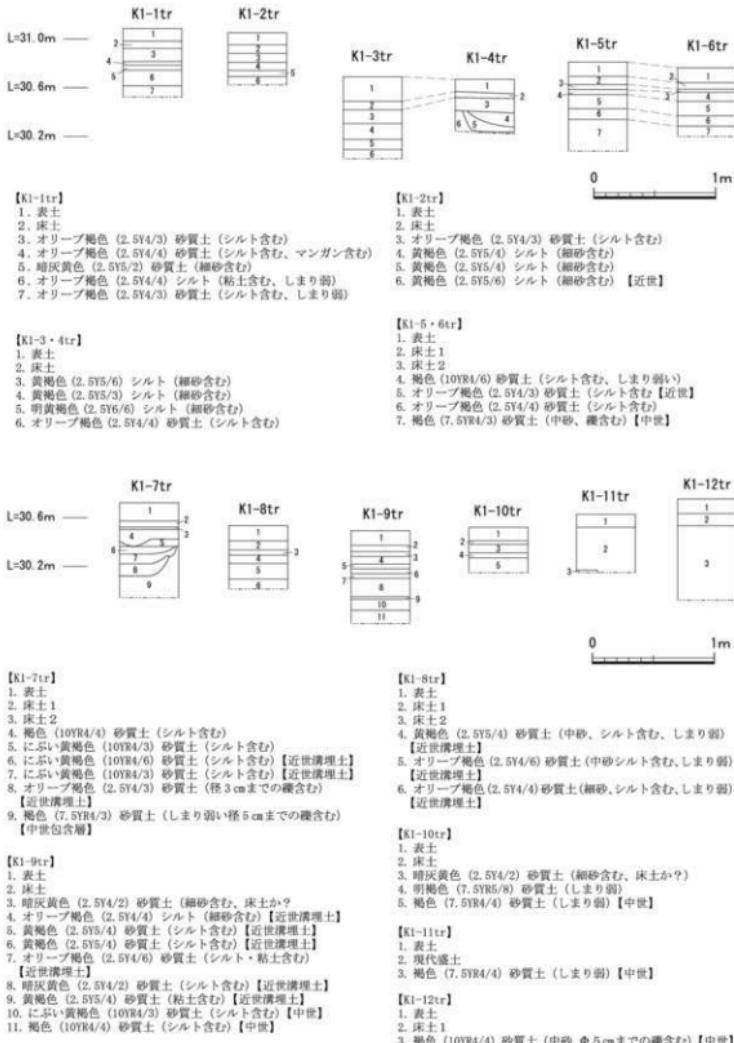
K1-8 tr(第19図) 床土の下層で、3層に分層できる砂質土の堆積を検出した。土質からK1-7 trで検出した近世溝の埋土に対応するものと考えられる。

K1-9 tr(第19図) 第4~9層は近世溝の埋土と考えられ、第4層から染付磁器、第8層から摩滅した土師器片が出土した。第10層及び第11層はK1-7 tr第9層に対応すると考えられる。

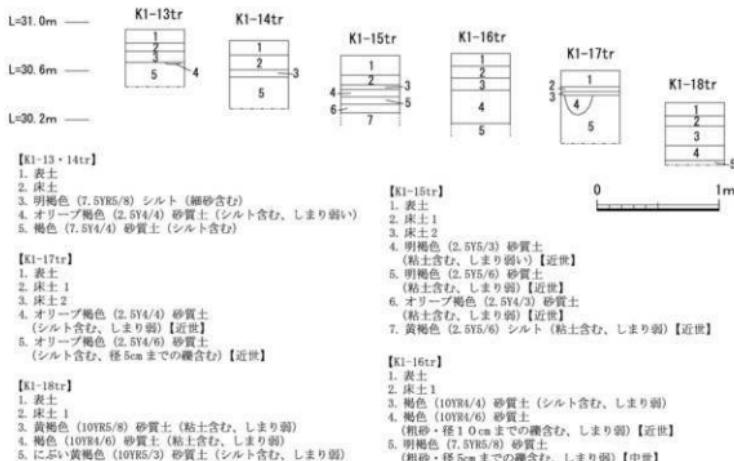
K1-10 tr(第19図) 第1~3層までの堆積状況は隣接するK1-9 trと共に通する。第5層は土質からK1-7 tr第9層(中世の遺物包含層)に対応すると考えられる。

K1-11 tr(第19図) 現在の耕作土である第1層及びプラスチック片を含む現代の盛土(第2層)の下層でK1-10 tr第5層に対応する層を検出した。

K1-12 tr(第19図) 床土の下層で褐色砂質土(第3層)を検出した。第3層から遺物の出土はなか



第 19 図 K1-1~12tr 土層柱状図 (1/40)



第20図 K1-13～18tr土層柱状図(1/40)

ったが、土質から調査区の北側に隣接するK1-7tr第9層に対応すると判断した。

K1-13・14tr(第20図) K1-13trとK1-14trの土層は共通である。第3層の下層でK1-7tr第9層と土色及び土質の類似した第5層を検出した。K1-13trでは、第5層上面で近世とみられる柱穴と溝を検出した。遺物は、第3層から須恵器B及び磨滅した土師器片が出土している。ただし第3層はK1-1・2tr第4層に対応すると見られ、近世の堆積土の上層に位置する。そのため、堆積時期は近世より新しいと判断され、出土した遺物については、下層の遺物が後世の掘削等により混入したものと判断される。

K1-15tr(第20図) 床土の下層で、砂質土とシルトからなる綺まりの弱い堆積土を検出した。土質はK1-1・2trで検出した旧耕作土と近似する。遺物の出土は無かった。

K1-16tr(第20図) 第4層上面で溝を検出したため、調査区を北側に拡張した。土層確認のため断ち割りを行ったところ、溝のベースとなる第4層の下で調査区の南側で検出した中世の遺物包含層と同一の堆積土である第5層を検出した。第4層はK1-5・6tr第5・6層の近世堆積土に対応し、遺構は近世以降のものであると考えられる。

K1-17tr(第20図) 床土の直下で近世の素掘り溝を検出した。素掘り溝のベースとなる第5層はK1-5・6・16trで検出した近世の堆積土と共通する。

K1-18tr(第20図) 床土の下層で、旧耕作土とみられる砂質土とシルトの堆積土(第3～5層)を検出した。

(2) 北野台遺跡第3次調査

K3-1～4tr(第21図) 第1～3層は、現在の耕作土と旧耕作土である。第4層は無遺物の砂質土であり、その下層から土師器片を含む中世の遺物包含層である第5・6層を検出した。標高の高い

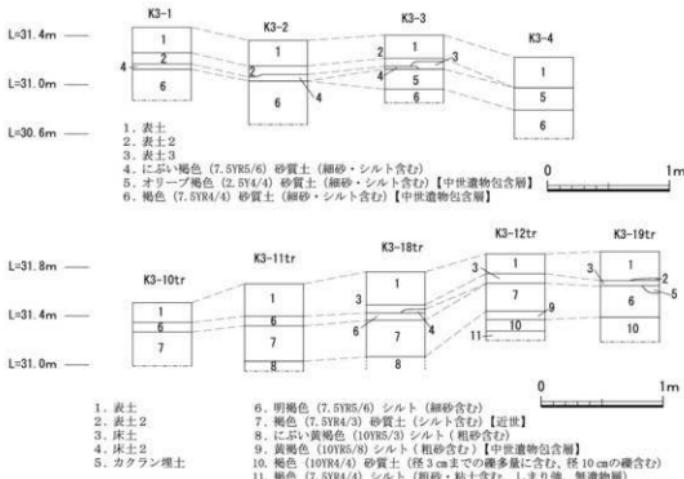
北側に位置するK3-1・2trでは、第5層が検出されず、既に第5層が削平を受けているものと判断した。第5層からは弥生土器の細片が出土している。

K3-5tr(第22図) 表土直下で弥生土器を含む砂質土の層である第2層を検出した。その下層で無遺物の安定した粘質土の堆積を3層にわたり検出した。調査区内で遺構は検出できなかったが、K3-7trで検出した溝S D030701のベースが同質の粘質土であることから、第2層を弥生時代以降の遺物包含層、第3層上面を遺構面と判断した。

K3-6tr(第22図) 表土直下で弥生土器を含む砂質土である第2層を検出した。第3層からは中世の土師器片が出土しており、第2層及び第3層が中世以降の遺物包含層であると考えられる。第4層から第7層は礫や木くずを含む粘質土または砂質土であり、K3-7trで検出した溝S D010701の埋土に対応する可能性がある。第4層から古墳時代以前と考えられる土師質土器の破片が出土している。

K3-7tr(第23図) 表土直下の第2～4層から土師器、須恵器、弥生土器が出土しており第2層は中世、第3・4層は古代の遺物包含層と考えられる。第3・4層については、隣接するK3-8tr第5層との対応関係を考えると中世段階の再堆積である可能性も考えられる。第5層は無遺物であり、調査区の南側でのみ検出した。

第4・5層の下層では、溝S D030701を検出した。溝S D030701はベースである第8・9層を掘り込んでおり、幅約4m、深さ約0.4m以上である。埋土の上層にあたる第6層から弥生土器壺(第24図4)や古墳時代前期の複合口縁壺の口縁部(第24図2)が出土したため、溝は弥生時代後期から古墳時代前期にかけてのものと推定できる。



第21図 K3-1～4・10tr・11tr・12tr・18tr・19tr土層柱状図 (1/40)

K3-8tr (第22図) 第3層から第5層までが遺物包含層である。含まれる遺物は、弥生時代から中世にかけてあり、弥生土器と須恵器が多く、須恵器の大多数が古代に属するが、わずかに古墳時代の高杯の脚部と考えられる小片も出土している。第5層から陶器すり鉢の破片が出土しており、第3～5層は中世段階の再堆積と推定される。第6・7層は礫を含む砂質土及び粘質土であり、溝S D 030701の埋土に対応する層と考えられる。

K3-9tr (第22図) 第3層が中世の遺物包含層であり、中世とみられる瓦片が出土している。第4層以下は無遺物の粘質土層であり、K3-7tr第8・9層に対応し、第4層上面が弥生時代から古墳時代の遺構面となる可能性がある。

K3-10~12、18・19tr (第21図) 第1層から第5層までが表土・床土及び擾乱土である。第7層から須恵器杯蓋や近世の陶器が出土したため、第6・7層は近世以降の堆積土であると判断される。第7層の下層では、シルトの堆積土である第8・9層を検出した。第9層はK3-12trでのみ検出しており、堆積土中から瓦器碗が出土したことから中世の遺物包含層と判断した。K3-11・18trで検出した第8層は、第9層と土色と土質が近似しており同一層である可能性が高い。第10層と第11層から遺物は出土しなかったが、第10層は礫を多量に含む砂質土であり、K3-14・15trで検出した谷の堆積土(第4・5層)に対応すると考えられる。

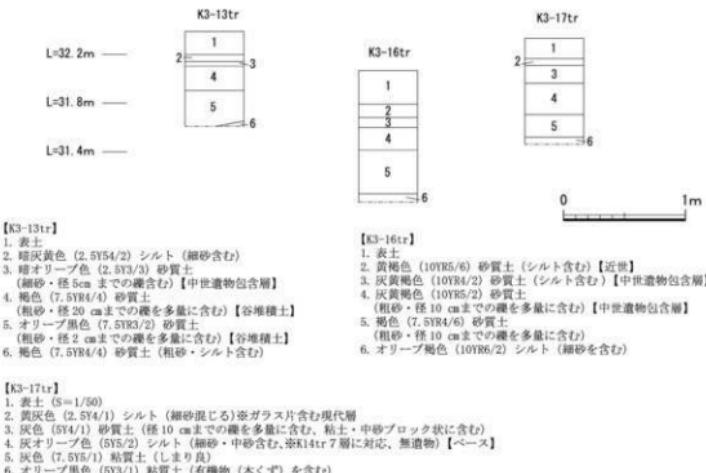
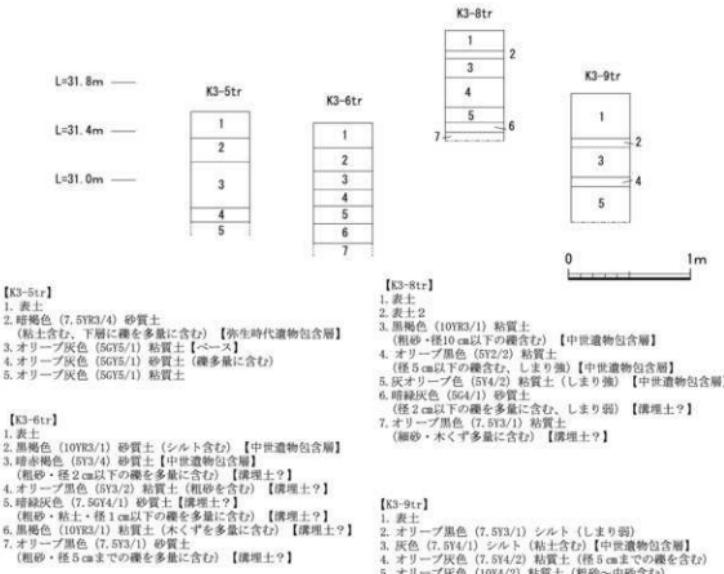
K3-13tr (第22図) 第3層で須恵器及び土師器を含む砂質土を検出した。その下層で、K3-14・15trで検出した谷の堆積土に対応する第4・5層を検出した。第5層から摩滅した弥生土器片が出土した。

K3-14tr (第23図) 表土及び近世の堆積土である第2層の下層で中世の遺物包含層である第3層を検出した。第3層からは、弥生土器、須恵器片が出土している。第4層は無遺物層であり、その下層で谷の堆積土と考えられる第5層と安定した砂質土の層である第6層を検出した。第6層は西に向かって落ち込んでおり、その上を覆うように第5層が堆積している状況から、調査区の西側に谷地形が存在していると考えられる。第6層上面で柱穴S P 031401を検出した。柱穴の深さは約0.26mで、埋土中には炭化物を多量に含む。中世の遺物包含層の下層にあたることから中世以前の遺構と判断できる。第7層は本くずを含む砂質土の堆積である。

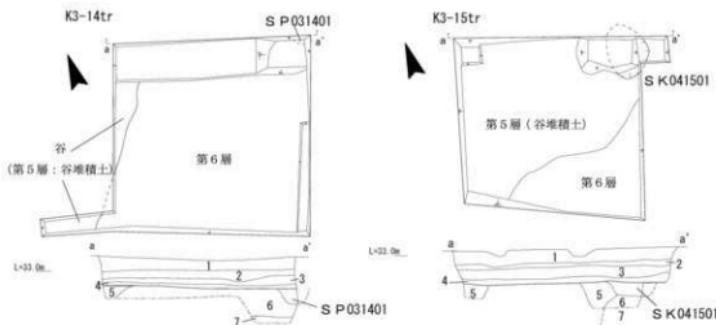
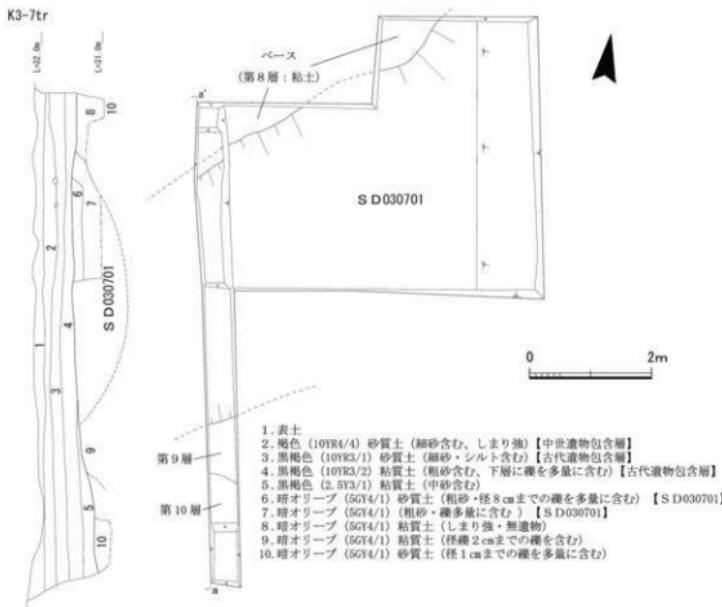
K3-15tr (第23図) 土層は、北側に隣接するK3-14trと共に通している。K3-14trで検出した第5層が当調査区でも検出でき、谷地形が南西方向に広がっている状況を確認した。第6層上面で土坑S K 031501を検出した。土坑は深さ約0.25mで、埋土はしまりの良いシルトである。

K3-16tr (第22図) 表土直下の第2層はK3-14・15tr第2層に対応し、近世の堆積土と考えられる。第3層及び第4層は中世の包含層であり、第3層より須恵器の破片、第4層より土師器の破片が出土した。第5・6層は谷の堆積土と考えられるが、この調査区では遺物が出土していない。

K3-17tr (第22図) 表土及びガラス片等を含む現代盛土(第2層)の下層で弥生土器(第24図11)及び土師器片を含む砂質土層(第3層)を検出した。この第3層は礫を多量に含み、谷の堆積土の一部であると考えられる。第4層はK3-14・15trで検出した遺構のベース面にあたる堆積土であり、第4層以下からの遺物の出土はなかった。



第22図 K3-5・6・8・9・13・16・17tr土層柱状図(1/40)



【K3-14・15】

1. 表土
2. 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土 (シルト含む) 【近世】
3. 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土 (シルト含む) 【中世遺物包含層】
4. 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土 (粗砂・径10cmまでの纏を多量に含む)
5. にふい黃褐色 (10TR4/3) 砂質土 (粗砂・径5cmまでの纏を多量に含む) 【谷堆積土】
6. 灰黄褐色 (10TR6/2) 砂質土 (粘土・シルト含む。しまり強) 【ベース】
7. 黒色 (7.5Y5/1) 砂質土 (粘土・シルト含む、木くず含む)

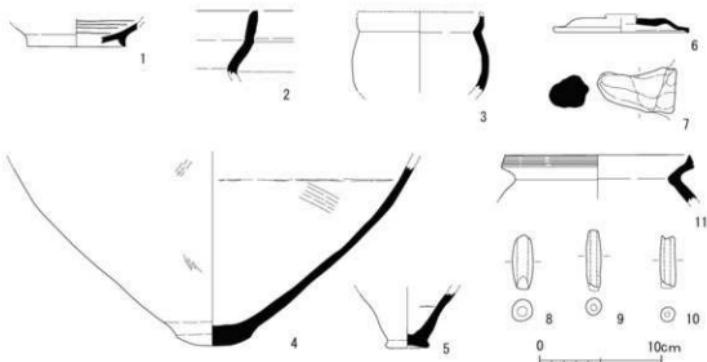
【S P031401】

- にふい黄色 (2.5Y6/3) 砂質土 (炭化物含む)
【S K031501】
褐色 (10TR4/4) シルト (細砂含む、しまり強)

第23図 K3-7・14・15tr平面図・土層断面図(1/80)

(3)出土遺物

梅ノ木原遺跡第1次調査及び北野台遺跡第1・3次調査では、弥生時代から中世の遺物が出土した。1は瓦器椀である。底部のみ残存しており、内面にミガキを施す。13世紀前半とみられる。2は複合口縁を有する壺の口縁部である。古墳時代前期と考えられる。3は小型丸底壺である。口縁部は短く、口縁端部はわずかに内傾する。4は弥生土器壺である。内外面は弱いハケ調整を施す。底部外面に強いナデを施し、突出底となり、弥生時代後期とみられる。5は弥生土器壺の底部である。底部は上げ底状になる。4と同じく弥生時代後期と考えられる。6は須恵器蓋である。口径は11.0cmで、つまみ部分を欠損する。7は土師器壺の把手で、表面に指頭圧痕が残る。8～10は土錘である。8と9は紡錘形となるが、10は円柱状を呈す。11は弥生土器壺の口縁部である。口縁部には擬凹線を施す。弥生時代後期に比定できる。



第24図 出土遺物実測図(1/4)

付表2 出土遺物観察表

報告 番号	種別	器種 器形	調査区	出土遺構 層位	法量(cm)			残存率	胎土	色調	焼成	備考	
					口径	器高	底径						
1	瓦器	椀	K 3 - 7	第2層	-	-	8.0	2/12	密	N4/10灰色	良		
2	土師器	壺	K 3 - 7	SD030301 (第6層)	-	-	-	1/12以下	やや粗	75YR6-6橙色	良	チャート、石英、長石含む	
3	土師器	小型 丸底壺	K 3 - 7	SD030301 (第6層)	-	-	-	2/12	やや粗	25Y7/3浅黄色	良	長石、石英、シャモット含む	
4	弥生土器	壺	K 3 - 7	SD030301 (第6層)	-	-	6.2	2/12	粗	10YR7/4にぶい黄褐色	良		
5	弥生土器	壺	K 3 - 7	SD030301 (第6層)	-	-	-	12/12	やや粗	25Y7/3浅黄色	良	チャート長石、石英、シャモット含む	
6	須恵器	杯蓋	K 3 - 8	第4層	11.0	-	-	3/12	密	N5-0灰色	良	石英含む	
7	土師器	壺?	K 3 - 8	第3層	-	-	-	やや密	25VR6-6橙色	把手、長石、石英含む			
8	土製品	土錘	K 3 - 8	第4層	-	-	-	密	5YR8-2灰白色	良			
9	土製品	土錘	K 3 - 8	第3層	-	-	-	密	25YR6-6橙色	良			
10	土製品	土錘	K 3 - 8	第5層	-	-	-	やや密	75YR4-1黒褐色	やや良			
11	弥生土器	壺	K 3 - 17	第3層	15.2	-	-	2/12	やや密	10R6-6赤褐色	やや良		

4 まとめ

今回は梅ノ木原遺跡・北野台遺跡における初めての発掘調査となり、遺構の分布状況についての一端が明らかとなった。

梅ノ木原遺跡第1次調査では、遺跡の中心部と考えられる微高地の北端を発掘し、K1-5~14trでは、ほぼ全ての調査区で中世の遺物包含層である砂質土を検出した。中世の遺物包含層は現況の地形と同様に、微高地の中心部から北に向かって落ち込んでおり、中世段階には、既に微高地が存在し、微高地上に集落が形成されていたものと推定される。ただし、出土した遺物の量は少なく、集落の中心部は今回の調査区よりさらに南の地点と想定する。また、近世以降の堆積土から須恵器杯が出土していることから、周辺に古代の遺構が存在する可能性も考えられる。

現在の梅ノ木原遺跡の北側及び、北野台遺跡の南端部に設定した調査区では、近世以降の旧耕作土と考えられる堆積土を広範囲で検出した。近世段階には、現況と同じく耕作地が広がっていたことが明らかになった。

北野台遺跡第3次調査では、現代の府道74号線より北側にあたる範囲を中心に調査を行い、中世以前の柱穴・土坑と弥生時代から古墳時代にかけての溝を検出した。中世以前の遺構は現況の瀬戸川右岸に近い位置で検出した。瀬戸川右岸の現況地形は、北東から南西に向かって傾斜しており、瀬戸川右岸の最も標高の高い範囲に中世以前の遺構が遺存していることが明らかとなった。遺構面となる安定した砂質土層は南西に向かって落ち込んでおり、西側には、谷地形が存在するものと想定できる。谷は、堆積土中に含まれる遺物の時期から古墳時代にはほぼ埋没しているものと推定される。弥生時代から古墳時代の溝は、谷の西側に位置しており、現在の集落域と水田域の境に沿って掘削しているものと想定される。今回の調査では、溝以外に同時期の遺構を検出できなかったことから、溝の性格については、評価を保留せざるを得ない。

以上のように北野台遺跡は、現在の瀬戸川右岸の標高の高い範囲に中世以前の集落が存在し、その西側の標高の低い範囲には、弥生時代から古墳時代前期にかけての遺構や谷が存在しているものと想定される。

今回の調査は、断片的な遺構の検出に限られたことから、遺構の性格など集落の詳細については今後の調査の進展に期待するところであるが、これまで一切不明であった遺構や遺物包含層の所在が明らかとなった点が調査の大きな成果である。

（川崎雄一郎）

参考文献

- 綾部市史編さん委員会 1976 「綾部市史」上巻 綾部市役所
綾部市教育委員会 2018 「綾部市遺跡地図改訂版」綾部市教育委員会
三好博喜 2005 「円墳群を從える前方後円墳—綾部市瀬戸18号墳—」『太閤波考古』第22号
両丹考古学研究会
京都府教育委員会 2013 「京都府中世城館跡調査報告書」第2冊丹波編 京都府教育委員会

3 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」 関係遺跡平成30・令和元・3年度発掘調査報告

亀岡盆地の中央を流れる桂川(大堰川)の右岸で、近畿農政局による国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」が計画された。対象となったのは、亀岡市千代川町、大井町、本梅町、曾我部町、余部町、蔵田野町、追分町にまたがる農地である。事業対象地では、多くの埋蔵文化財が調査対象となることが予想されたことから、近畿農政局、京都府、京都市教育委員会、亀岡市、亀岡市教育委員会の間で協議を重ね、切土施工等によりやむを得ず影響を受ける部分について、発掘調査を実施することで合意に達している。

平成26年度には、平成27年2月12日付けで近畿農政局、京都府知事、亀岡市長の3者間において『国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」における埋蔵文化財の発掘調査に関する覚書』を交換した。今年度は、この覚書に基づき、令和3年4月26日付けで近畿農政局長、京都府教育委員会教育長、亀岡市長の3者間において『令和3年度国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」における埋蔵文化財の発掘調査に関する協定書』を締結した上で、京都府教育委員会、亀岡市教育委員会、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターの3機関において発掘調査を分担して実施することになった。

本書では、平成30年度から令和元(平成31)年度に実施した余部遺跡第14・16次調査の成果を報告する。なお、令和2年度に実施した千代川遺跡第33次調査および、令和3年度に実施した西加舎遺跡第6次調査、千代川遺跡第34次調査、拝田14号墳第1次調査の成果は、現在整理作業中であるため令和3年度調査の概略のみを報告することとし、詳細は次年度以降に報告することとしたい。

各年度の調査組織および調査期間は以下のとおりである。調査に参加していただいた方々、ご協力をいただいた関係機関の方々および土地所有者の皆様には記して感謝したい。

《調査組織》

平成30年度～令和元（平成31）年度

調査主体 京都府教育委員会

調査責任者 京都府教育庁指導部理事 文化財保護課長事務取扱 磯野 浩光(～平成30年5月)

文化財保護課長 森下 衛(平成30年6月～)

調査担当者 京都府教育庁指導部文化財保護課記念物担当副課長 石崎 善久

主査 奈良 康正

副主査 中居 和志

技師 北山 大熙

技師 川崎 雄一郎

令和3年度

調査主体 京都府教育委員会

調査責任者 京都府教育庁指導部文化財保護課長 森 正

調査担当者 京都府教育庁指導部文化財保護課記念物係 課長補佐兼係長 藤井 整

主 壱 奈良 康正

副主壱 岡田 健吾

主任 桐井 理揮

技 師 北山 大熙

技 師 川崎雄一郎

調査事務局 京都府教育庁指導部文化財保護課

調査協力 亀岡市教育委員会、亀岡市経済部国営事業推進課、亀岡市千代川町自治会、

千代川町圃場整備委員会、亀岡市本梅町自治会、本梅町圃場整備委員会、近畿農政局、

京都府農林水産部農村振興課、京都府南丹広域振興局、京都府南丹教育局、

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

また、現地調査、ならびに整理作業に当たっては、多数の方々の協力を得た。心より感謝したい。

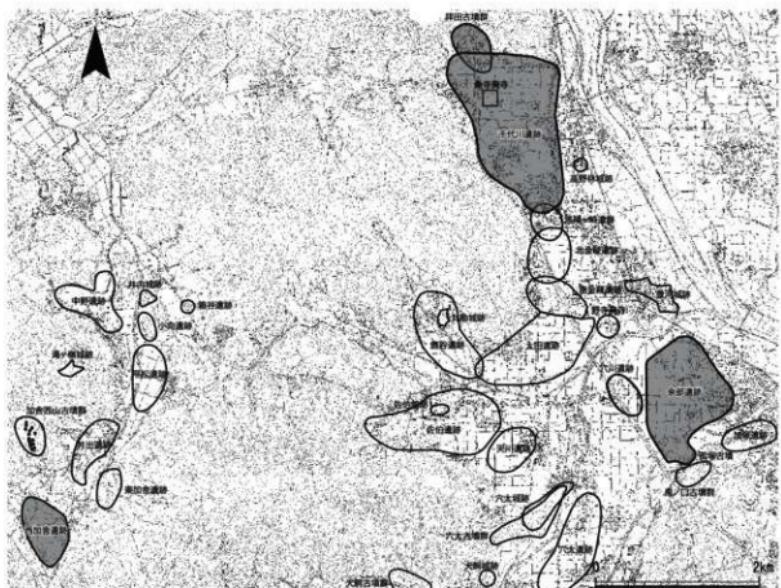
付表3 令和3年度調査遺跡一覧

1 京都府教育委員会が実施した調査（令和3年度）

遺跡名	所在地	現地調査期間
西加舎遺跡（第5次）	亀岡市本梅町西加舎地内	令和3年9月15日～令和3年11月30日
千代川遺跡（第33次）	亀岡市千代川町地内	令和3年12月1日～令和3年12月17日
拌田14号墳（第1次）	亀岡市千代川町拌田地内	令和3年12月2日～令和4年1月21日

2 その他の機関が実施した調査（令和3年度）

遺跡名	所在地	調査機関
西加舎遺跡（第6次）	亀岡市本梅町西加舎	亀岡市教育委員会
井手遺跡（第6次）	亀岡市本梅町井手	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
金生寺遺跡（第9・10次）	亀岡市曾我部町中地内・法貴地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
春日部遺跡（第5次）	亀岡市曾我部町春日部地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
犬飼遺跡（第11次）	亀岡市曾我部町犬飼地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター



第25図 調査対象遺跡および周辺遺跡位置図(1/60,000)



第26図 調査区および周辺の既往主要調査区位置図(1/10,000)

[1] 平成30・令和元（平成31）年度の調査 (余部遺跡第14・16次調査)

1 はじめに

余部遺跡は縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。これまでの調査によって弥生・古墳時代の集落跡や墓跡、中世の溝など様々な遺構が確認されている。次年度以降のは場整備事業に伴う工事に先立ち、第14・16次調査では、遺構の広がりを確認した調査区を拡張し、発掘調査を実施した。これまでの調査成果の報告を併せて行う。

2 位置と環境

(1) 地理的環境

余部遺跡は、亀岡盆地中央部に位置する亀岡市余部町に所在する。亀岡市は北東部に若丹山地、南西部を揖丹山地の両山地に囲まれて、中央部に亀岡盆地が広がっている。亀岡盆地は、中生代三疊紀末からジュラ紀末に形成された丹波帯に位置する。盆地中央部には北西から南東へ大堰川が流れおり、京都盆地を介して淀川に合流する。

余部町域は大堰川の右岸に位置し、低位段丘に現在の集落が立地する。

(2) 歴史的環境

亀岡盆地に所在する余部町周辺の様相から遺跡を概観する。

現時点において亀岡市域で確認されている最古の遺物は、鹿谷遺跡の槍先形尖頭器と楔形石器であり、縄文時代草創期とされる。縄文時代中期以降は、土器の出土数が増加し、遺構も確認される。

縄文時代晚期以降、太田遺跡では弥生時代前期の土坑墓が検出され、環濠集落が形成される。余部遺跡では、中期の竪穴建物・方形周溝墓などが検出され、玉作り関連遺物も出土している。墓域としては、千代川遺跡や余部遺跡・天川遺跡・南金岐遺跡などで方形周溝墓群が確認されている。

古墳時代については、有力な前期古墳は盆地東南部に多くみられ、中期以降には亀岡盆地でも保津車塚古墳や千歳車塚古墳など大型の前方後円墳が築造される。大堰川西岸では、古墳時代中期末以降の中小規模の群集墳が多数確認されている。200基以上の古墳からなり、府内最大の群集墳とされる小金岐古墳群や大堰川西岸最大の前方後円墳である押田16号墳など、石室に石棚や石障を伴う特異な古墳がみられ、当地域の古墳文化の特徴を示している。集落遺跡も中期から後期において多く存在し、余部遺跡で竪穴建物や掘立柱建物などが30棟以上見つかっているほか、鹿谷遺跡では100棟を超える竪穴建物が検出されている。

池尻遺跡・時塚遺跡・車塚遺跡では奈良・平安時代の大型掘立柱建物跡が多数検出されており、池尻庵寺、丹波国分寺・丹波国分尼寺の建立に伴い地域の開発が大きく進展したと評価されている。生産遺跡としては、盆地東南部の篠塙業生産遺跡群を挙げることができ、篠塙産の須恵器および綠釉陶

器は、平安京を中心に宮城県多賀城跡から宮崎県小山尻東遺跡までの広域で確認されている。

中世の遺構は大堰川西岸の広い範囲で検出されている。国道9号バイパス建設工事に伴い調査が行なわれた北金岐遺跡や太田遺跡では、中世の掘立柱建物跡や井戸等が見つかり、これらの遺跡から出土した瓦器椀は「丹波型瓦器椀」と呼称されている。

室町時代以降には市内北部・西部を中心に山城が多く築造される。亀岡・南丹両市にまたがる八木城跡は丹波守護代内藤氏の拠点として機能していた。その後、丹波平定の命を受けた明智光秀によつて改修されたが、明智光秀の丹波平定以降、丹波支配の拠点は八木城から亀山城へと移ることとなる。

以上のように、亀岡盆地では、縄文時代草創期から遺跡が確認でき、弥生時代には低位段丘や扇状地を中心に集落跡が展開していく。とくに余部遺跡は弥生時代から古墳時代にかけての集落跡・墓域が分かれる貴重な遺跡である。

3 調査の経過と方法

(1) 調査の経過

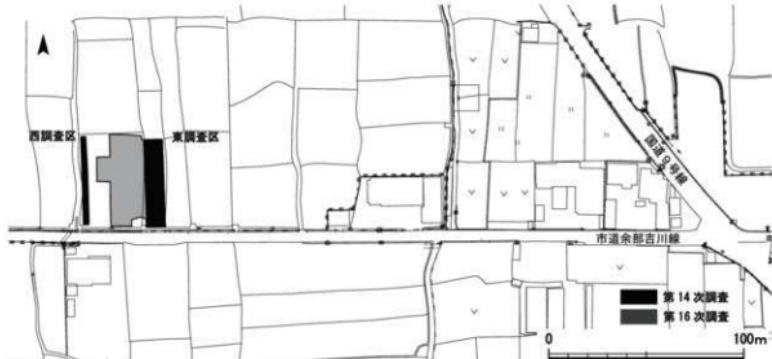
第14次調査は、亀岡市が平成25年に実施した第12次調査の成果に基づき、切土施工により遺構に影響がおよぶ地点に設定した。また、遺構の広がり・深さ等を確認するため、小規模調査区を2箇所設定した(西・東調査区)。

調査期間は平成30年11月1日から平成31年2月13日で、調査面積は585m²である。

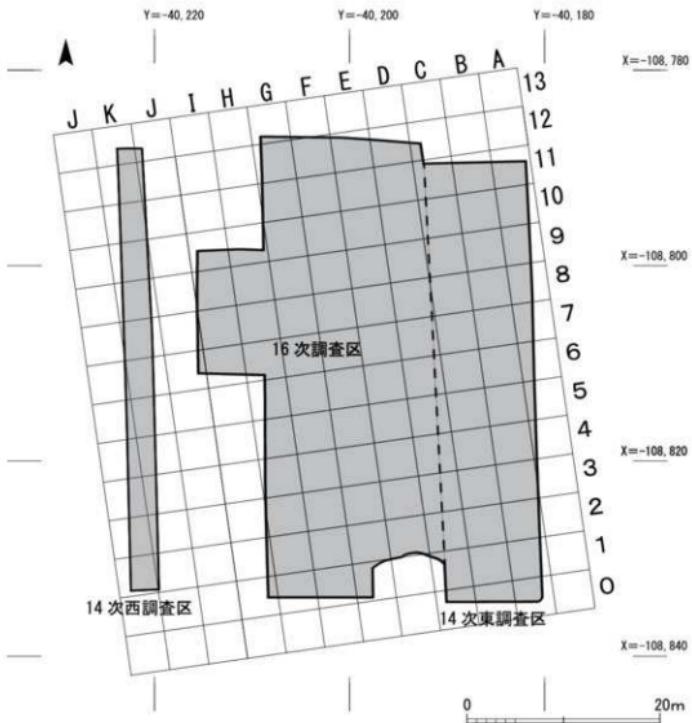
第16次調査では、第14次調査において遺構を検出した東調査区を拡張し、面的に調査を行うこととなった。令和元年7月13日に現地説明会を行い、約70名の参加者を得た。調査期間は令和元年5月27日～8月31日で、調査面積は1,306m²である。

(2) 調査グリッドの設定

調査にあたっては、検出遺構と出土遺物の位置を記録する目的で調査グリッドを設定した。調査グリッドは調査区を覆うように、遺構の主軸方向に沿って設定し、4m四方のグリッドを1つの区画と



第27図 調査区配置図(1/2,500)



第28図 調査区グリッド配置図(1/500)

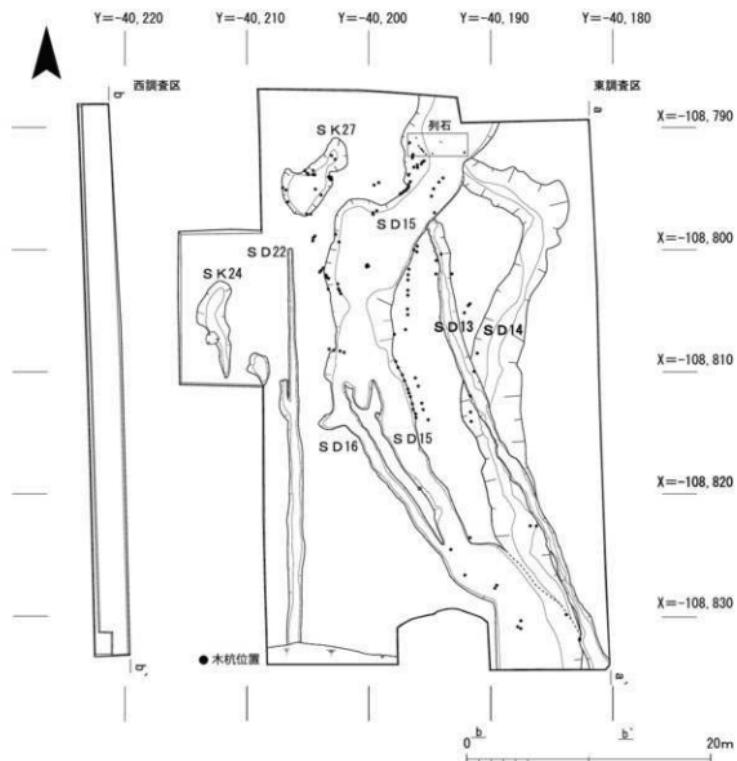
した。本調査区を南北の基準線に沿って、4m毎に算用数字を、東西方向の基準線には4m毎にアルファベット大文字を用い、その組み合わせによって地区名とした(第28図)。

4 調査の成果

(1) 第14次調査

調査区は、重機によって耕作土を除去した後、2箇所設定した(第27図)。以下では、各調査区の概要について報告する。

西調査区(第29・30図) 幅3m、長さ45mの長方形の調査区である。現地表下0.35mで近世の遺物を含む包含層(Ⅲ層)を確認し、さらに下層で粘質土の安定面(VI層)を検出したが、顕著な遺構を検出できなかった。下層の安定面の有無を確認するため、調査区南端を断ち割ったところ、下層まで安定面が堆積していることを確認した。

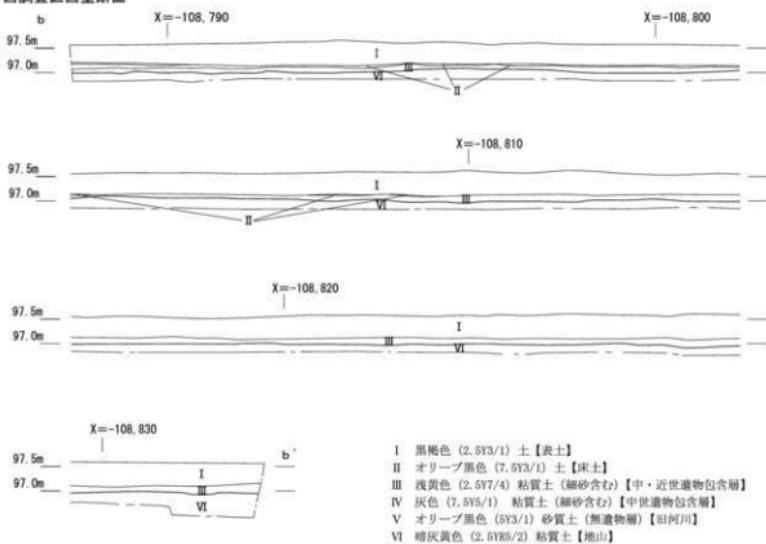


第29図 調査区平面図(1/400)

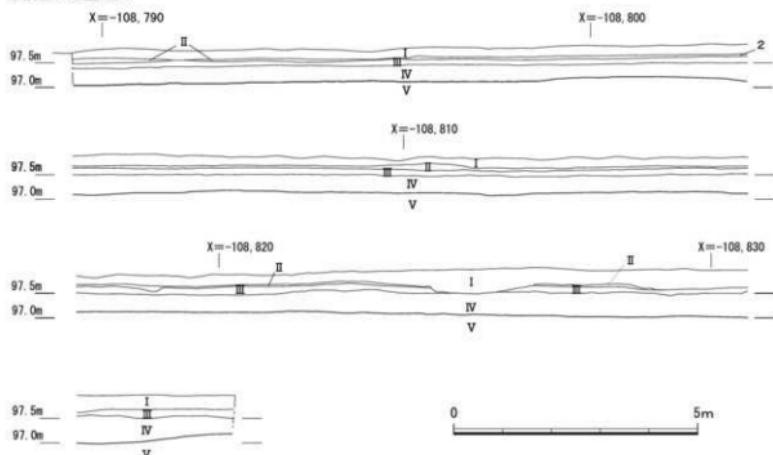
東調査区(第29・30図) 幅約10m、長さ45mの長方形の調査区である。現地表下0.1mで近世・中世遺物を含む包含層(Ⅲ層)を確認し、さらに0.1m下で古代から中世にかけての遺物を含む包含層(Ⅳ層)を検出した。Ⅳ層直下で安定面(VI層上面)を検出した。さらに調査区南端を断ち割った際に、VI層を掘りこむ溝状構造を2条検出し、調査区外に延びていく状況を部分的に確認した。一部を掘削したところ、埋土から多量の古墳時代の遺物が出土した。

以上の結果を受け、今回の調査によって遺構の広がりと大量の遺物を含んでいることを確認した東調査区を拡張し、面的な調査を行うこととなった。

西調査区西壁断面



東調査区東壁断面



第30図 西・東調査区土層断面図(1/100)

(2)第16次調査

第14次調査の結果を受け、遺構の広がりを確認した東調査区を拡張し、調査を実施した。

1)基本層序

東調査区の標高は97.8mである。地山を含めて6層に大別できる(第30図)。I層は表土、II層は床土を含む耕作土である。III層は近世から中世遺物を含む包含層である。IV層は中世の遺物を多く含む包含層で、上面で遺構を検出した。V層は、しまりがなく、砂質土や粘質土が互層状に堆積し、有機質を多量に含む。VI層は暗灰黄色シルト質土で安定して堆積している。東調査区西側ではV層が確認できず、IV層の下でVI層を検出した。V層・VI層ともに無遺物層である。

調査区内で平面的にV層・VI層が変化しており、V層の堆積状況から対流していたか不明ではあるが、旧河川の可能性が考えられる。

2)検出遺構

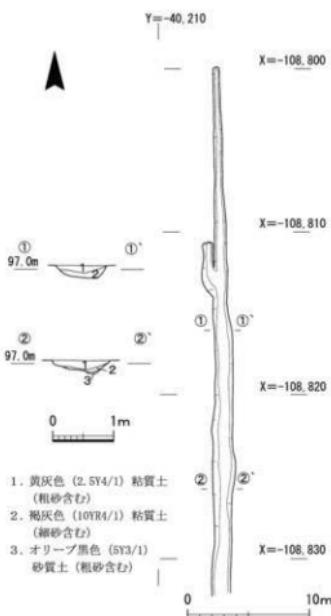
①中世(第IV層上面)

溝S D22(第31図) 調査区西端で検出した溝である。検出全長は35.6m、幅0.3~1m、ほぼ真北に延び、溝の中央部で二又に分かれれる。溝の底はやや北に向かって傾斜している。南端部は擾乱により失われている。瓦器碗や土師器が出土しており、時期は13世紀前半である。

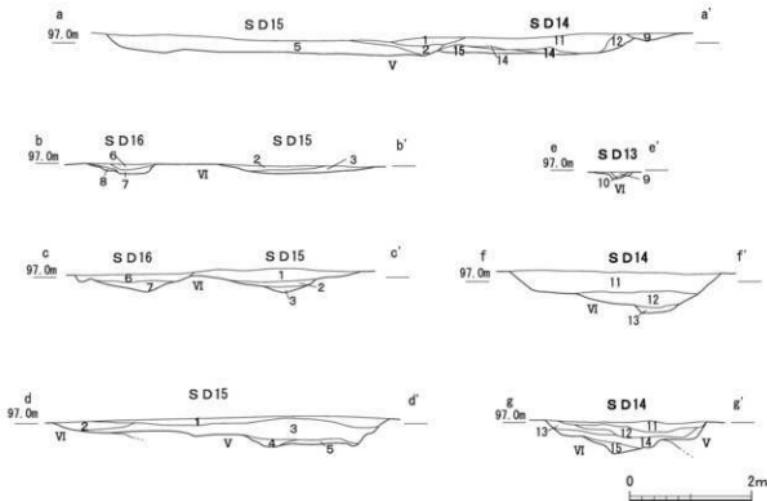
②弥生時代～古代(第V・VI層上面)

溝S D14(第29・32図) 調査区東南隅から北に延び、北部で北西方に向て湾曲する溝である。検出全長約45mで、幅2.5~4.9m、最大深度0.65mを測る。断面形状は緩やかなU字形を呈する。北端と南端では、多くの部分が溝S D15に削られている。北に向かって深くなっているため、南から北に水が流れているものと考えられる。北端を除くと第V層を掘りこんで形成されている。溝S D14の中央部の西端のみで遺構に沿って、杭が打ち込まれている。出土遺物には、弥生土器が多く含まれ、弥生時代中期から後期に帰属する。

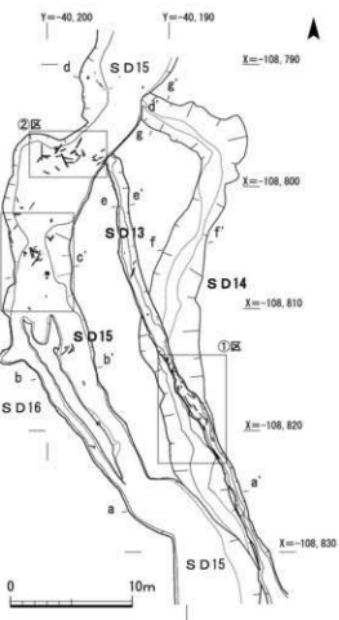
溝S D13(第29・32図) 調査区東南隅から北西に向かって延びる溝である。検出全長39.3m、幅1m、最大深度0.15mを測る。断面形状が浅く、緩やかなU字形を呈し、溝の主軸は真北から西に22度振る。埋土は砂質土(第9・10層)である。溝S D14より新しく、遺構北端で溝S D15に切られている。遺物が集中する①区において部材や曲柄平鉗などの木製品が集中して出土している(第33図)。弥生土器や古式土師器が出土していることから弥生時代後期から古墳時代前期に機能していたと想定できる。



第31図 溝S D22土層断面
図・平面図(1/80・1/400)



1. 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質土 (砂含む) 【SD15 埋土上層】
2. 灰色 (5Y5/1) 砂質土 【SD15 埋土中層】
3. 灰色 (N6/1) 砂質土 (粗砂含む) 【SD15 埋土下層】
4. 青灰色 (5B5/1) 粘質土 【SD15 埋土最下層】
5. 墓緑灰色 (B83/1) 粘質土 (粗砂含む) 【SD15 埋土最下層】
6. 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質土 (粗砂含む) 【SD16 埋土上層】
7. 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土 (粗砂含む) 【SD16 埋土下層】
8. オリーブ灰色 (5Y3/1) 砂質土 (礫含む) 【SD16 埋土最下層】
9. 明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土 (礫含む) 【SD13 埋土上層】
10. 黑褐色 (2.5Y3/1) 砂質土 (細砂含む) 【SD13 埋土下層】
11. 黑褐色 (2.5YR3/2) 粘質土 (中砂含む) 【SD14 埋土上層】
12. 黑褐色 (2.5YR3/2) シルト質土 (中砂含む) 【SD14 埋土下層】
13. オリーブ黒色 (7.5Y3/1) シルト質土 (細砂含む)
【SD14 埋土下層 2】
14. 灰色 (7.5Y4/1) 砂質土 (シルト含む) 【SD14 埋土最下層】
15. 灰色 (7.5Y5/1) 砂質土 (粗砂・礫含む) 【SD14 埋土最下層 2】



第32図 溝SD13~16土層断面図(1/80・1/400)

溝 S D15(第29・32図) 調査区南端から北西に延びる溝で、中央部で2つに分かれ、15m先で合流してさらに北東に屈曲する。検出全長約51m、幅1.7~7.1m、最大深度0.47mを測る。断面形状は緩やかなU字形を呈する。北の方が深く、南から北に向かって流れていたと考えられる。

北東に屈曲する部分(②区)では、古墳時代前期の木製の農具や部材等がまとまって出土している(第34図)。溝 S D16と合流する部分(③区)では、机などの木製品が集中して出土し、さらに布留形甕などがほぼ完形状態で出土している点から、付近で祭祀が行われていた可能性が想定できる(第35図)。

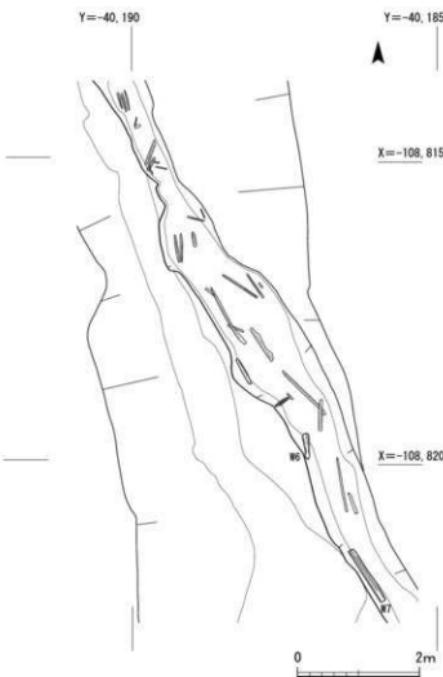
また、溝 S D15 の中央東側には杭が遺構に沿って2列に並ぶ(第29図)。一列は、遺構の端に位置し、もう一列は遺構の外側に位置している。

弥生時代から飛鳥時代までの遺物が出土した。

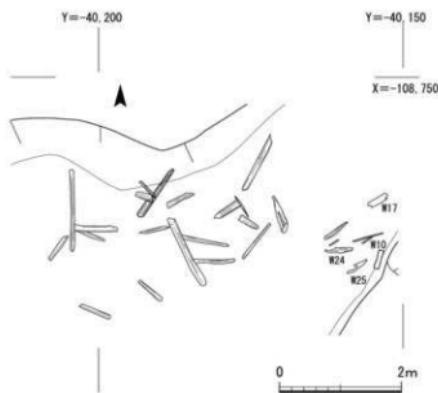
溝 S D16(第29・32図) 溝 S D15から二又に分かれた西側の溝である。検出長16m、幅0.8~2.5mで、最大深度が0.25mと浅く、上面は溝 S D15と同様に削平されたものと考えられる。

弥生土器や古式土器、須恵器など幅広い時期の遺物が含まれ、下層からは古代の土器の杯や須恵器の杯が出土しており、古墳時代前期から飛鳥時代まで機能している。

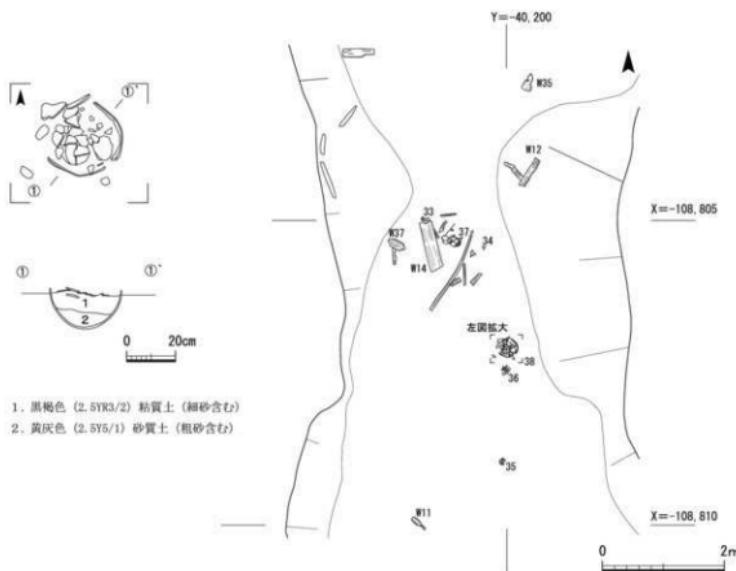
土坑 SK24(第36図) 東調査区西端で確認した。やや北に長い楕円形を呈し、長辺8m、短辺2.5m、最大深度



第33図 ①区木製品出土状況(1/80)



第34図 ②区木製品出土状況(1/80)



第35図 ③区遺物出土状況(1/20・1/80)

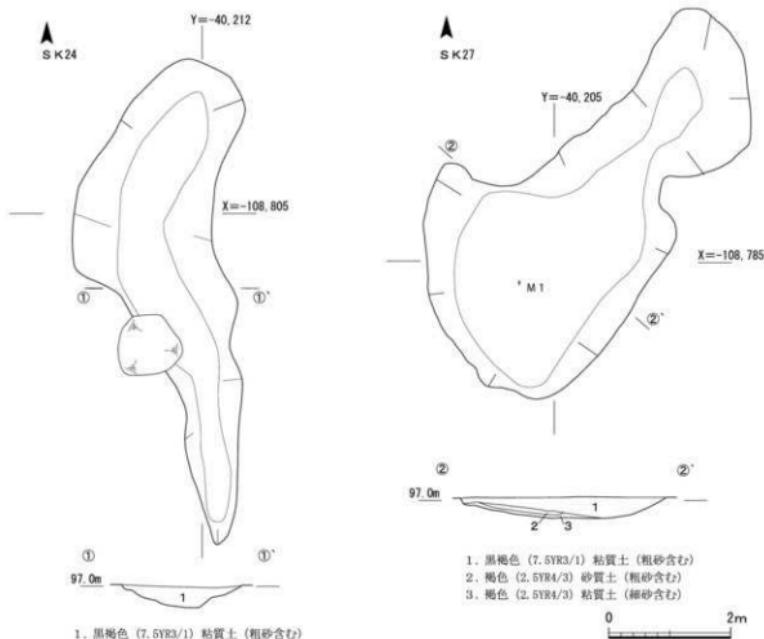
0.35mを測る。一部、近代の攪乱により失われている。小型丸底壺が出土しており、古墳時代前期に帰属する。

土坑SK27(第36図) 東調査区北西で検出した不整形の土坑である。長辺6.4m、短辺1.4m、最大深度0.25mを測る。上層は黒褐色粘質土に覆われ、下層には褐色砂質・粘質土が堆積していた。また、杭が計20本打たれており、土坑SK24とは異なる利用方法がなされたと考えられる。土層から勾玉と鉄鎌が各1点出土している。また、布留形甕が出土しており、古墳時代前中期に帰属する。

杭(第29図)

東調査区内では計100本の杭を検出し、土坑SK27で20本、溝SD13・14内で15本、溝SD15内及び周辺で65本を検出した。特に土坑SK27内と②・③区周辺に集中しており、木製品が集中して出土する点と関係があると考えられる。杭は安定面より最大深度0.5mまで打ち込んでいる箇所もあり、多くの杭が深く打設されていた状況であった。

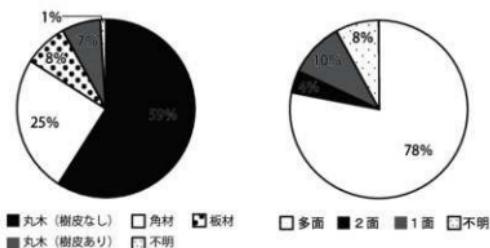
多くの杭の先端は、鋭利に加工されており、鉄製品による加工と考えられる。素材は板材、角材、丸木材(樹皮なし)、丸木材(樹皮あり)が確認できた。約60%は丸木(樹皮なし)が使用され、次に角材が25%を占めている。杭の先端部は、多面切削、2面切削、1面切削の加工が認められた。約80%が多面的に加工され、1面切削が10%を占めている。同様な素材を同様な加工方法で用いているため、まとめて作られたものと考えられる。また、溝SD15に伴う杭のうち6本が建築部材の転用とみられ、



第36図 土坑SK24・27平面図・土層断面図(1/80)

他の部材と結合するための欠き込みが確認できた。周辺に存在した建物を解体した際の部材を杭や矢板に転用していたものと推定できる。

(北山大熙)



素材	点数
丸木(樹皮なし)	59
角材	25
板材	8
丸木(樹皮あり)	7
不明	1

加工	点数
多面	78
2面	4
1面	10
不明	8

第37図 杭の素材と先端加工痕

3)出土遺物

今回の調査では、コンテナ35箱の土器、石器・石製品、金属器、木製品が出土した。報告は、出土遺物の種類ごとに行う。

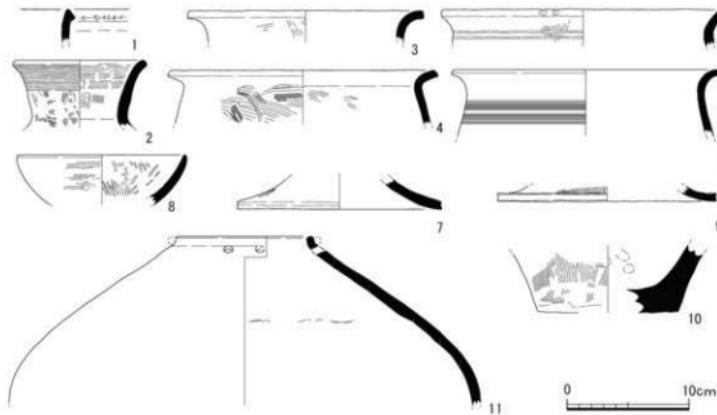
①土器

溝S D14(第38図) 上層(第11層)と下層(第12層)から土器が出土しており、下層2(第13層)から土器は出土していない。出土した土器は弥生時代後期以前の土器に限られ、上層と下層で出土遺物に目立った差異は確認できないことから、まとめて報告を行う。

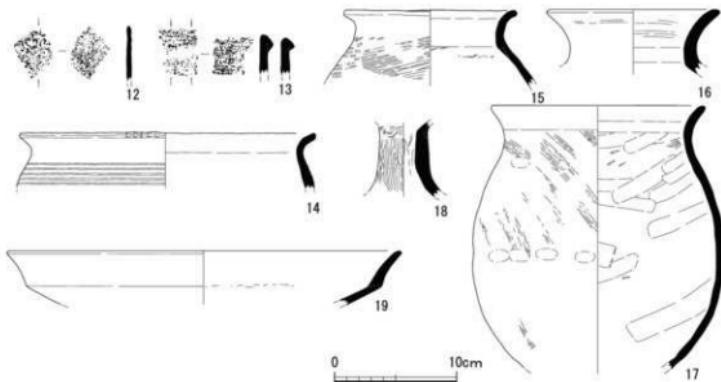
1は縄文土器の深鉢である。口縁部に刻み目のある貼り付け突帯を施した縄文時代晚期の突帯文土器である。2は弥生土器壺の口縁である。口縁端部から外面にかけて赤色顔料が付着する。3~6はいずれも弥生土器壺の口縁である。5は外反する口縁端部に刻み目を有し、体部にヘラ描き直線文が最低2条確認できる。6は体部に櫛描き直線文が施される。3・4は無文であり、ともに外面はハケ調整である。5は内面にもハケ調整を施す。5は弥生時代前期、3・4・6は弥生時代中期と考えられる。7は弥生土器の蓋である。口縁端部に沈線が施される。8は弥生時代後期の椀もしくは椀型高杯である。内面は縦方向のヘラケズリ、外面は横方向のヘラケズリ調整を施す。9は弥生土器高杯の脚部である。脚部外面にはハケとナデ調整が施される。10は弥生土器の壺の底部である。内面にユビオサエの痕跡が残り、外面は縦方向のハケで調整されている。11は弥生土器の無頸壺である。口縁部に2個一対の穿孔が確認される。外面はハケ調整の後にナデ調整を施している。

溝S D13(第39図) 縄文時代から古墳時代前期までの土器が出土している。

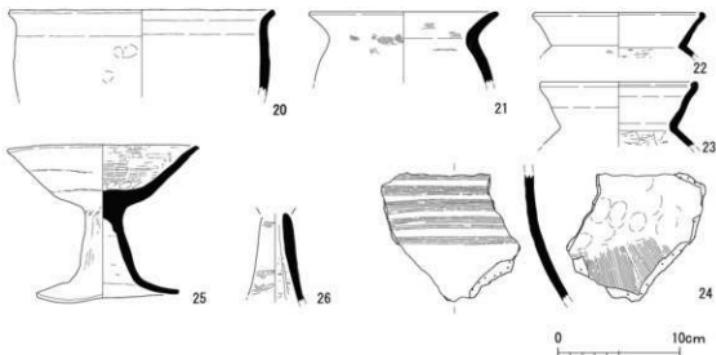
12・13は縄文土器深鉢である。12は口縁部に半截竹管状工具を使用したC字刺突を連続して施している。北白川下層II b式期と考えられる。13は口縁部に貼り付け突帯を施した、縄文時代晚期の突帯文土器である。14・15は弥生土器壺の口縁部である。14は口縁端部に刻み目を施し、体部に5条以上



第38図 溝S D14出土土器実測図(1/4)



第39図 溝S D13出土土器実測図(1/4)



第40図 溝S D14・15・16出土土器実測図(1/4)

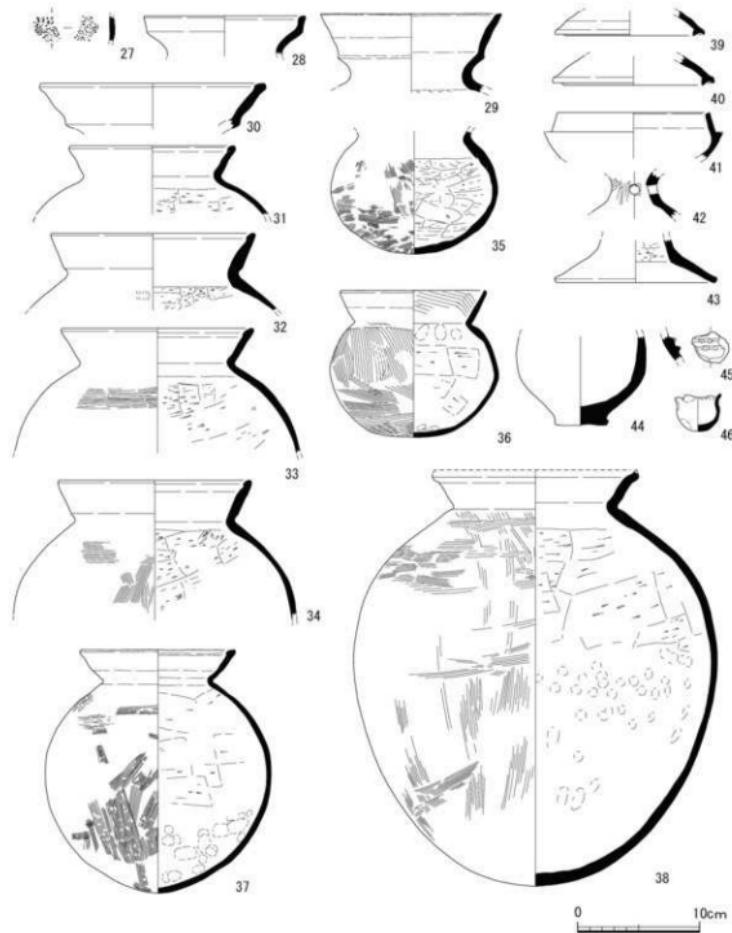
のヘラ描き直線文を施す。15は外反する口縁を持ち、胴部は外面にタキ調整を施す。14は弥生時代前期、15は弥生時代後期と比定できる。16は弥生土器壺の口縁部である。内外面ともにナデ調整を施す。17は土師器壺である。体部はやや長胴化しており、古墳時代前期頃と考えられる。18は高杯の脚部である。外面には縦方向のヘラミガキが施される。19は弥生土器の有稜高杯である。口縁部が大きく外反し、弥生時代後期と考えられる。

この他、細片のため図化できなかったが、庄内形壺とみられる薄手の土師器片が出土している。

溝S D14・15・16(第40図) 溝S D14~16は当初、同一の遺構と認識していたため、溝が重複する箇所から出土した遺物は遺構との対応関係が不明確である。そこで、調査グリッドの2より南にあたり、溝が重複する箇所から出土した土器を一括して報告する。

20は弥生土器壺の口縁部である。弥生時代前期と考えられる。21・22・23は土師器の壺である。21

は外面ハケ調整で口縁部にナデを施す。22は庄内併行期の甕である。口縁を内側に折り返し、体部内面をケズリにより調整し薄手に仕上げている。23は布留形甕で、口縁端部を内側に折り返し、体部内面はケズリにより調整する。24は弥生土器壺である。外面はナデ調整の後に体部に横書き直線文を施文する。弥生時代中期と考えられる。内面はユビオサエの後、ハケ調整を施す。25・26は土師器の高杯である。25はほぼ完形であり杭(W20)や丸木材の集中する近辺で出土した。内外面ともにはハケ調整である。



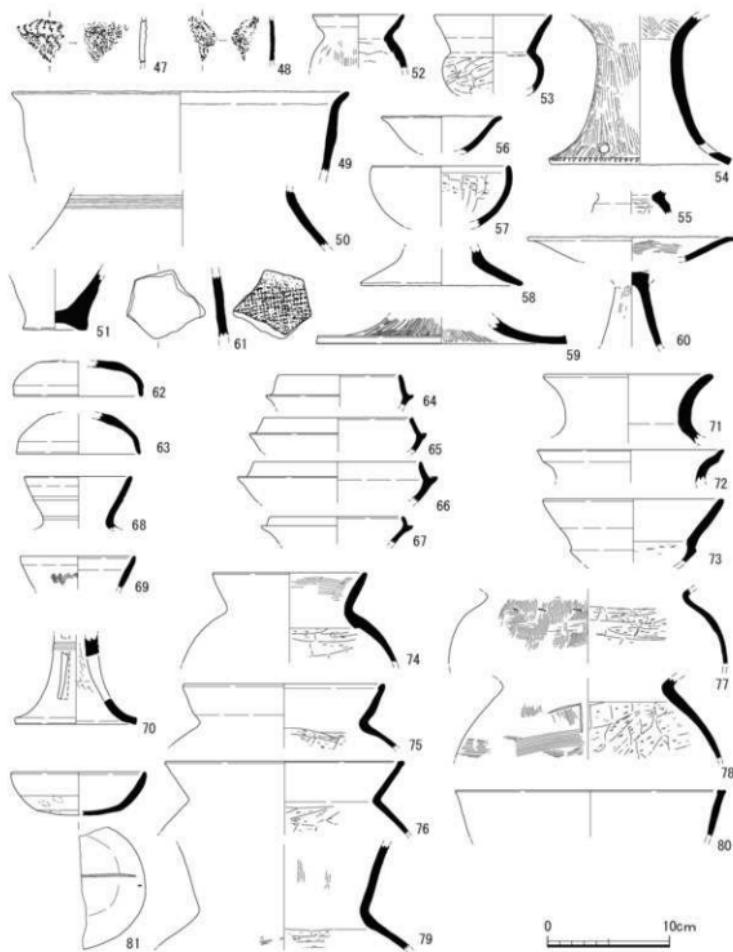
第41図 溝SD15・16上層 出土土器実測図(1/4)

溝 S D15・16上層（第41図） 溝 S D15・16の上層は粘質土であり、溝の埋没が進み、流れが弱くなった埋没の最終過程で堆積した層である。なお、溝 S D15と溝 S D16は調査区の南部ではほぼ一体化しており、中央部で一旦分岐するが、北側では再び合流し一体の溝となる。そのため、溝 S D15と溝 S D16から出土した遺物はまとめて報告する。⁽²²⁾

27は縄文土器である。半裁竹管状工具を用いた連続刺突文が確認できる。器種は判然としないが深鉢と推定する。28は弥生土器壺の口縁部で受口状口縁を有する。29～38はすべて土師器の壺である。29は複合口縁を有する山陰系壺である。30から38はいずれも布留形壺である。30は口縁端部を肥厚させ、複合口縁を有する。36・37・38は完形か完形に近い形で出土している。30・33・34・37は机や木材などの木製品と共に出土している。36と38は木製品が集中する地点から南側へ1mほど離れた地点で並んで出土した（第35図）。37は底部がやや突出しており突出底となる。36は他の布留形壺と比較してやや小型で、口縁端部の折り返しはない。表面のハケ調整も他のものに比べて目の粗いハケを使用している。38は大型の布留形壺で体部はやや長胴化する。完形の37・38の形態から古墳時代中期とみられ、同一地点から出土した土器も同様の時期と推定する。39・40は須恵器杯蓋である。いずれも杯Gの蓋でありTK217型式段階である。41は杯身である。口径は12.4cmと大型化する前段階のものであり、TK47型式以前の所産とみることができる。42は土師器器台の脚部である。外面はやや粗いヘラケズリで調整される。43は土師器高杯の脚部である外面ともにナデ調整を施す。44・45は弥生土器壺である。44は底部であり、底部は厚く突出気味である。体部の器壁は厚く、外形は球体状を呈す。45は刻み目のある貼り付け突帯を有する前期の壺の一部と考えられる。46は土師器のミニチュア土器である。手づくねで成形され、体部は丸底の球体状を呈し、口縁部は指でつまみ外反させている。

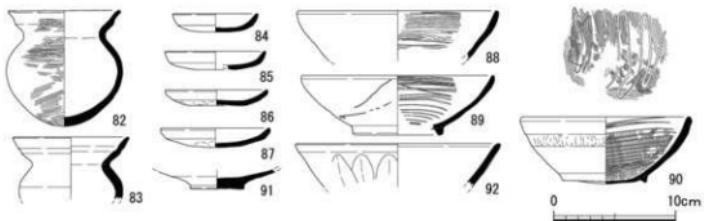
溝 S D15・16下層（第42図） 溝 S D15中層から最下層、溝 S D16下層および最下層から出土した土器を溝 S D15・16下層出土土器としてまとめて報告する。

47・48は縄文土器深鉢である。いずれも連続したC字刺突文を施す。47は刺突文の下部に縄文が施文される。いずれも北白川下層II b式期と考えられる。49は弥生土器の無文の壺である。50は弥生土器壺の頸部である。頸部には3条のヘラ描き直線文を有する。49・50は胎土が粗く、焼成も軟質で質感が類似しており、いずれも弥生時代前期と考えられる。51は弥生土器壺の底部である。底部は上げ底状を呈す。52・53は小型丸底壺である。52は口縁部内外面をナデ、体部の外面はハケで調整する。52は体部に対して大きく広がる口縁部を有する。外面にはヘラケズリが施される。54は弥生土器の器台である。外面を縱方向のヘラケズリで調整する中空器台である。脚部の端部に刻み目を施す。弥生時代後期の所産である。55は鼓形器台である。56は椀形の土師質土器である。薄手で外面に白色の化粧土を施す。57は土師器の椀である。内面にケズリを施したのちに縱方向のヘラケズリを加える。58・59は高杯の脚部である。59は脚部外面をヘラケズリした後、縁辺部のみナデ消している。60は弥生土器高杯である。脚部と杯部は接合しないが同一個体である。61は軟質の壺である。体部に格子目タキを施す。62・63は須恵器杯Hの蓋である。頂部に回転ヘラケズリを施す。いずれもTK217型式段階に比定できる。64～67は杯Hの杯身である。64・65は薄手で、口径も小さく口縁の立ち上がりも強い。TK23型式期とみられる。66は口径が13cmを超える大型化した杯Hである。67は口径が小さく、

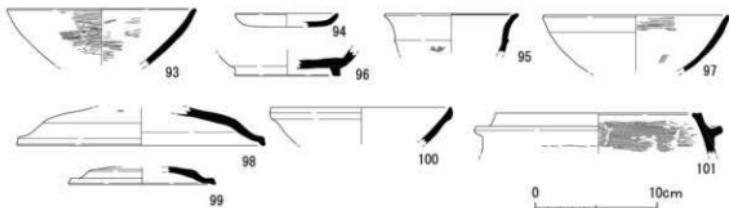


第42図 溝S D15・16下層出土土器実測図(1/4)

口縁部も著しく退化している。66・67はTK217型式期と考えられる。68は須恵器壺の口縁部である。69は波状沈線文を有する須恵器の口縁部である。70は須恵器高杯の脚部である。長脚で3方向からの2段透かしを有する。71は弥生土器壺の口縁部である。72は受口状口縁の壺である。73は小型丸底壺の口縁部である。口縁部の内外面は丁寧なナデが施され、体部内面はケズリ調整が施される。74は土師器の壺である。口縁内部に粗いハケ調整を行い、体部は口縁部との境に段差ができるほど強くケズ



第43図 土坑SK24・27、溝SD22、中世遺物包含層出土土器実測図(1/4)



第44図 断ち割り・遺物包含層出土土器実測図(1/4)

りを加える。75～78は布留形壺である。77は体部に等間隔で刺突文を加える。78は体部に線刻があり、直線を2本でへの字状の線刻を施す。79は土師器の壺である。内面にケズリを加える。80は土師器壺の口縁である。81は土師器の杯である。底部に直線のヘラ書きを有する。おおよそ7世紀代、飛鳥時代の所産と考えられる。

土坑SK24(第43図82) 82はほぼ完形の小型丸底壺である。外面は粗いハケ調整を施す。口縁部は二重口縁となる。土坑SK24の唯一の出土遺物である。

土坑SK27(第43図83) 83は小型丸底壺である。外面にはナデ調整が施される。口縁部の中央部分が内外面ともに凹んでおり沈線状を呈する。体部に比して口縁の開きが大きく、土坑SK24出土資料より古い時期の特徴を示している。

溝SD22(第43図84～90) 84～87は土師器皿である。おおよそ13世紀前半に位置付けられる。88～90は瓦器椀であり、いずれも丹波型である。88は内外面ともにミガキが施される。90は完形であり、ミガキは内面にのみ施される。見込みの暗文はジグザグである。外面にユビオサエが強く残る。いずれも13世紀前半と考えられる。

中世遺物包含層(IV層)(第43図91・92) 91は緑釉陶器皿である。底部には糸切痕が残る。92は青磁碗である。外面に花弁文が施される。

東調査区IV層精査(第44図93) 93は丹波型瓦器椀である。内外面ともにミガキを施す。

東調査区拡張(第44図94～98) 東調査区を西側に拡張した際に出土した遺物である。94は土師器皿である。13世紀前半とみられる。95は須恵器の無蓋高杯の口縁である。体部に波状沈線文を施す。96は須恵器杯Bの底部である。体部には自然釉がかかる。97は瓦器椀である。丹波型瓦器椀であり、内面にのみミガキを施す。98は須恵器杯蓋である。

西調査区（第44図99～101） 99・100は西調査区IV層から出土した。99は須恵器の蓋である。100は白磁碗である。口縁は玉線状を呈する。101は瓦質土器の羽釜である。

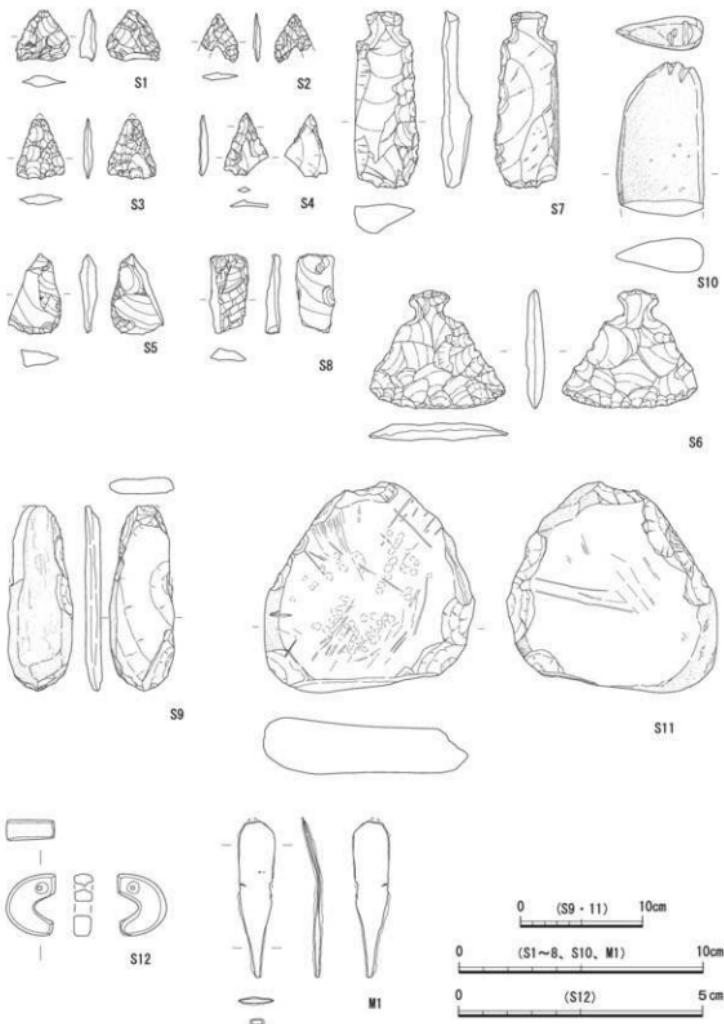
②石器・石製品（第45図）

石器は、溝S D13、14、15・16埋土中および遺構面精査時に出土している。出土した石器は石鎚や石匙などの定型的な石器のほか二次加工のある剥片などの不定形石器を含む。その他に石鎚未成品や、剥片類も出土している。ただし、今回出土した石器はS 11の台石を除き、遺構に伴う遺物ではなく、一括性に乏しい。そのため、本報告においては遺構から出土した定型的な石器を中心に報告を行い、必要に応じて不定形石器や未成品についても報告する。また単なる剥片や表採資料については報告を割愛する。

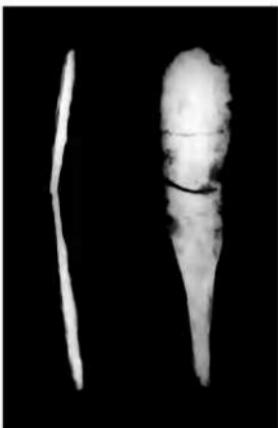
S 1は打製石鎚である。赤色チャートを用いた、平面形が三角形になる平基式の石鎚である。S 2は凹基式の石鎚であり、二股に開いた基部の先端が尖る。石材はサスカイトを用いる。S 3は平基式の石鎚であり、サスカイトを用いたものである。先端部は欠損している。S 4は剥片の片面にのみ押圧剥離による二次加工を加えている。二次加工は側縁を全周せず、一部は未加工のままである。剥片の大きさや、二次加工により尖端部と茎部を作出していることから、石鎚の未成品と判断した。S 5は削器である。S 1と同質の赤色チャートの剥片を素材とし、片方の側縁から端部にかけて刃部を作出している。S 6・7は、石匙である。S 6は横型の石匙であり、器形は三角形を呈し、頂点につまみ部を作出する。刃部はつまみ部に相対する一辺に押圧剥離を加えることで作出されている。S 7は縦型の石匙であり、原石となるサスカイトの層状の節理を利用して剥ぎ取った板状の剥片を素材とする。S 6に比べて二次加工を施す範囲は限定的で、つまみ部と刃部にのみ施される。S 8は二次加工のある剥片である。S 1やS 5と同質の赤色チャートを用いている。押圧剥離による長く伸びた剥離痕が連続している様は、有舌尖頭器の斜状平行剥離にも似ており、他の石器には見られない特徴である。S 9は打製石斧である。粘板岩の横長剥片を素材としており、側縁と端部の一部に二次加工が確認される。S 10は石錘である。自然礫の端部に擦りによって紐かけ用の溝を作出した切目石錘である。S 11は砥石を転用した台石である。元々は安山岩の円礫を使用した砥石であり、側縁に粗い剥離を施し成形している。研磨対象物は細い棒状または縁の尖った板状を呈していたものとみられ、作業面には幅2mm以内の溝状の研磨痕が確認される。凹面側を台石として転用しており、直径5mm程度の円形の敲打痕が確認できる。S 11は、円礫を素材とした形態から弥生時代以前のものと推定され、溝S D14に伴う遺物である可能性が高い。

この他、遺構埋土からは剥片石器に用いられるサスカイトや赤色のチャートの剥片が出土しており、調査区の周辺で石器の加工が行われていた可能性が考えられる。

石製品は、土坑SK27出土のS 12の1点のみである。S 12は翡翠製の半玦形勾玉であり、穿孔は両面から施される。穿孔部の断面はすり鉢状を呈しており、石製工具を使用したものと考えられる。



第45図 出土石器・石製品・金属器実測図(1/1・1/2・1/4)



③金属器(第45図M1)

金属器は鉄鎌 1 点 (M 1) のみで、土坑 SK27 から出土した。柳葉形の鉄鎌であり、中央部分で折れ曲がっている。鎌のため目視では確認できなかったが、X 線透過撮影により、折れ曲がった箇所から器体が破壊していることが判明した。⁽³³⁾

④木製品(第46~50図)

本製品は溝 S D13~16、および中世包含層から出土している。
本製品の時期は各溝の土器の帰属時期に従い、溝 S D14が弥生時代中期から後期、溝 S D13が弥生時代後期から古墳時代前期、溝 S D15・16が古墳時代前期から飛鳥時代と考えられる。

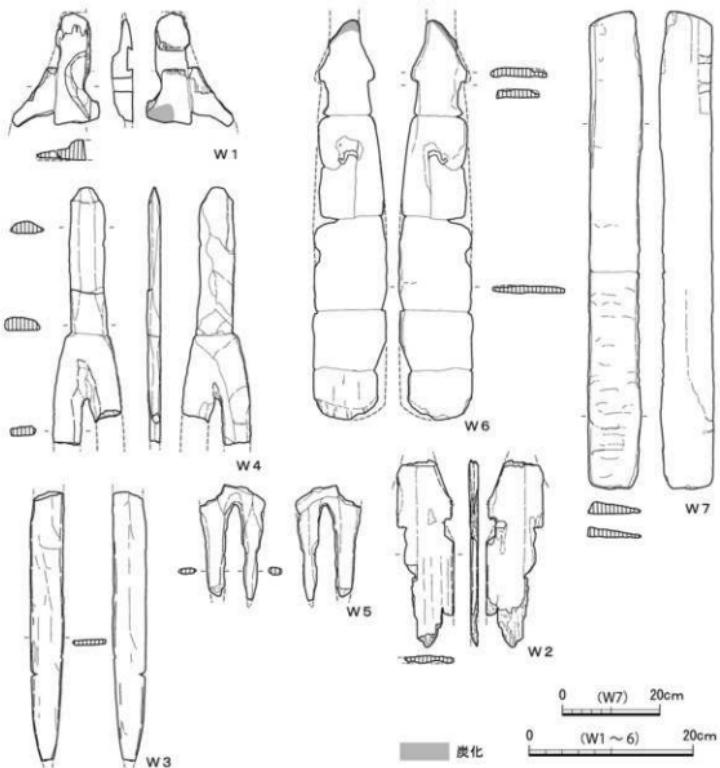
報告にあたって、基本的な器種分類は「木器集成図録近畿原
始編」(注3)に従って記述する。

溝SD14(第46図) W1は直柄平鍬である。いわゆる広鍬

M 1 (X線透過撮影写真) であり、柄孔の周辺のみが残存している。後面の柄孔の周間に隆起が作出されており、隆起は下方が尖る舟形である。前面には柄孔の上部に泥除け装着用の蟻溝が彫られており、幅2.8cm、深さ0.5cmである。弥生時代後期とみられる。W 2は鍔の破片である。曲柄鍔の肩部と推定できる。W 3は又鍔とみられる破片である。W 3を除き、本遺跡から出土した又鍔の刃先は全て左右非対称であるのに対し、本資料は刃先がほぼ左右対称の剣先型に復元できる点が異なる。W 4は曲柄又鍔である。軸部と刃部の上半部が残存している。軸部の後面側は側縁の面取り加工が施されているが、前面は平坦となる。柄への装着を想定した平坦面の作出と考えられ、軸部後面下半部には紐かけと見られる0.1cm程度の段が作出される。軸部と刃部の転換点の張り出しあは緩く、弱い肩部が形成される。W 5は直柄又鍔刃先である。本来は3本以上の刃先を有する多又鍔であるが、そのうち2本のみが残存している。

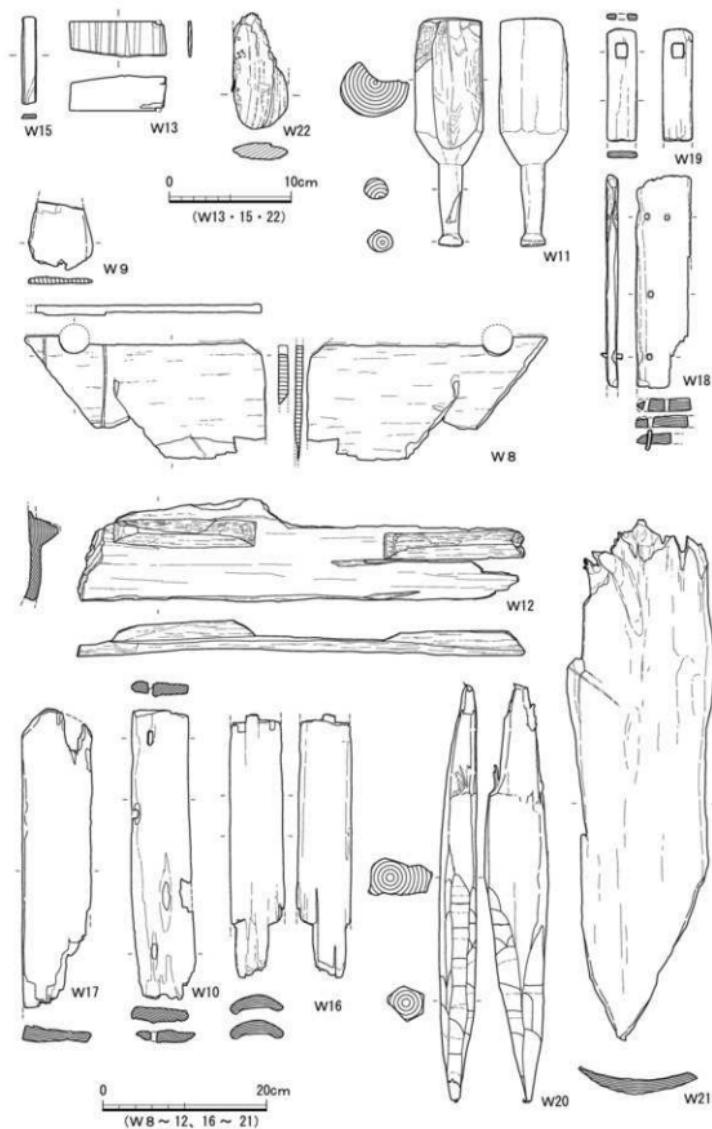
満SD13(第46図) W6は曲柄平鉋である。刃部はほぼ全て残存しているが、軸部が大きく欠損している。欠損部が炭化していることから、焼損したものと推定される。W7は板材である。W6に近接した地点から出土している。W6と同質の樹種であり、みかん削によって製材されている。仮にW6と同形の鍬の姿と見れば、長さ、幅、厚みと全ての条件を満たしている。

満SD15・16上層(第47・48図) W8は直柄横鍬である。柄孔の中心を軸に復元すると幅47cmになる。柄孔の周囲には幅7cm、高さ0.4cmの隆起が作出される。W9は鋸片と考えられる。W10は、針葉樹の板目材に複数箇所の穿孔が施されている。遺存状況は悪いが、田下駄の足板の一部であると判断した。W11は横槌である。丸木材を用いており、敲打部は円柱状で、握り部に向けて徐々に径を減していく。敲打部は一部を欠損しているが、上部に階段状の凹みが確認できる。このほかに凹みは確認できないため、この階段状の凹みを使用による潰れと判断した。W12は盤である。残存しているのは底部の一部のみであるが、底部には2箇所に突起状の脚部が作出されている。本来は同様の脚部を合計4箇所に有する四脚盤であったと考えられる。W13は曲物の側板の破片である。表面に無数の



第46図 溝SD14・13出土木製品実測図(1/6・1/10)

線条痕が確認でき、上端部に固定に用いたとみられる穿孔が確認できる。W14は机である。天板と脚部の一部が残存している。天板は上面は平坦に成形し、下面是縁から約8cmの部分を全周にわたって切削しており、中央部が厚く、縁辺部が薄くなる。下面には板状の脚を装着するための蟻溝が2箇所に施されており、片方の蟻溝には、折れた脚部の上端部分が嵌め込まれたまま残っている。W15は残存長7.2cm、幅1.2cmの細い角材状の木製品であり、目立った加工痕はないが、表面は丁寧に整えられている。形状から籠木と判断した。W16～19は部材である。本遺跡では、本来の器種が判別不可能な加工材が多数出土しているが、その中には特定の木製品の一部を構成していた部材や建築の部材、または製品化以前の素材などが混入しているものと考えられる。ただし、これらの全てを、完成品の部材と素材に分別することは困難であったことから、本報告では、加工材のうち、ほぞ穴や緊縛痕・木釘など、明らかに他の部材と組み合わせて使用したことが明確なもの、または器体の一部に単

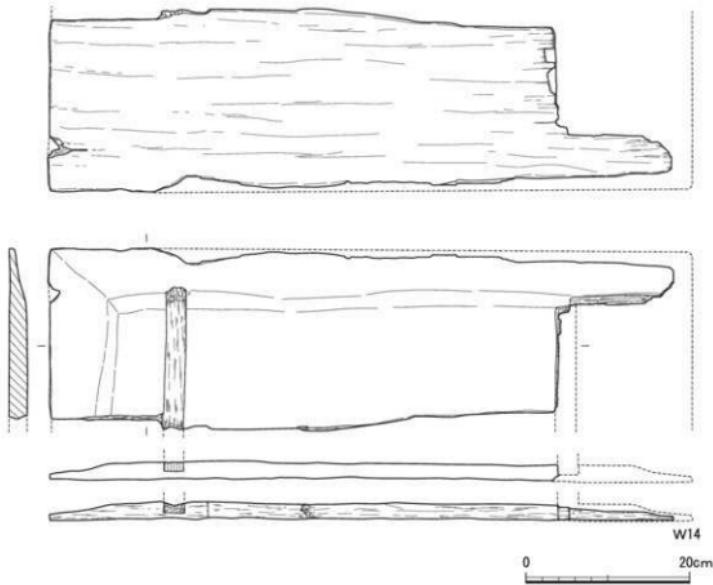


第47図 満SD15・16上層出土木製品実測図1(1/4・1/6)

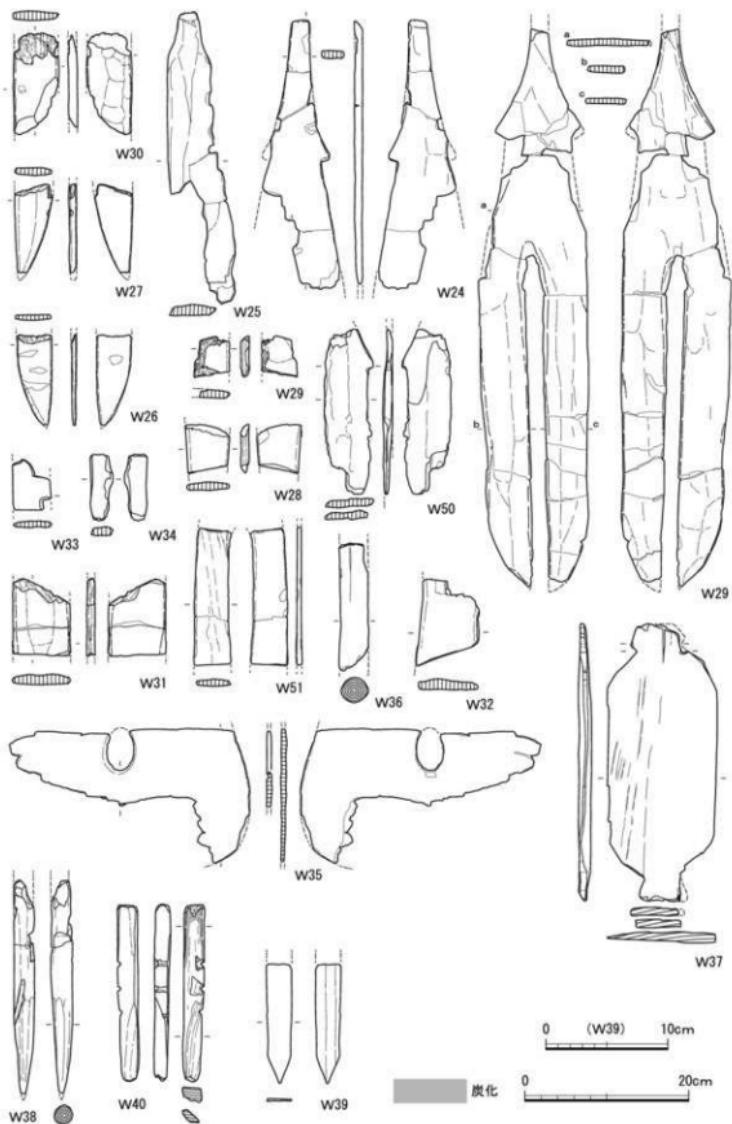
なる平坦面の作出以外の特徴的な加工が確認できるものを部材として抽出し、報告する。

W16は極端な湾曲した板材である。側縁を丸く面取りする。W17は板材の端部を山形に加工したものである。W18は木釘の残存する部材である。木釘の孔は合計4箇所あり、そのうち1箇所に横断面方形の木釘が残存している。W19は方形のはぞ穴がある部材である。W20は杭である。丸木材の先端を鉄斧とみられる鋭利な刃物で他方向から切削した杭である。切削面の一部に刃こぼれ痕が残るなど遺存状態が良い。W21は矢板である。丸木材の外縁部の年輪に沿って板材を剥ぎ取ったもので、内面には製材の際の工具痕の可能性のある凹みが確認された。W22は竹管文のある板材である。竹管文は不規則であり、施文が本来の目的ではなく、竹管状工具を別の対象に押し当てる際の當て具の可能性が考えられる。

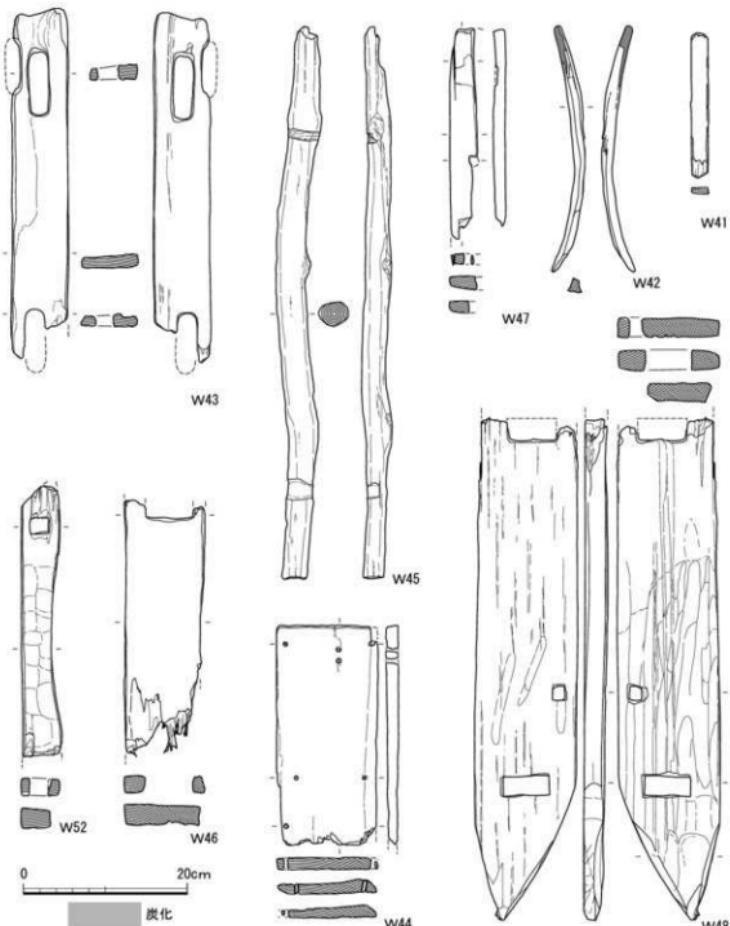
溝S D15・16下層(第49・50図) W23は曲柄又鍬である。軸部の一部を欠損するものの、刃部の大部分が残存する。笠部から刃部への転換部の残りは悪いものの、刃部の上部は、笠部から内湾しながら左右に向かって開き、やや肩を張った刃部平面形態となる。刃部は、肩部で最大幅となり刃先に向かってほぼ真っ直ぐに伸びる。機能部と推測される刃部先端に目立った摩耗は確認されず、表面には明確な切削痕が残存している。W24、W25は共に曲柄鍬であるが、いずれも刃部を欠損するため平鍬か又鍬の区別はつかない。W26～34は全て鍬の破片である。W26とW27は又鍬の刃先と推定できる。またW27～31、W32・33は同じ地点から出土している。接合関係は無いが、W27とW30は同一個



第48図 溝S D15・16上層出土木製品実測図2(1/6)



第49図 満SD15・16下層出土木製品実測図1(1/4・1/6)



第50図 溝SD15・16下層出土木製品実測図2(1/6)

体と見られる。またW35は泥除けである。柄孔は梢円形となり、側縁は湾曲する。W36は鍔柄の一部と推定される丸木材である。W24の真下に重なって出土している。W37は田下駄である。端部の突出した梢円形の板であり、突出部の割り込みに紐をかけて固定する無孔組合型足板である。W38は先端を尖らせた棒材である。同様の形状を有する出土遺物としては杭があるが、杭の先端部は切削による平坦な切前面が残るのに対し、W38は丁寧な面取り加工により先端部は円錐形となる点において明確な差異を見出せる。また杭に比べて径が小さく、細く鋭い先端部は刺突を目的にした形態と考え、

ヤスと分類した。W39は直串である。厚さ0.2cmの薄い板材の先端を剣先状に加工している。W40は火鑄臼である。表面に火鑄杵を押し当てるための台形の浅い凹みを削り出している。凹みは側縁に接する位置にあり、凹みの位置に合わせて側縁側からV字の切り込みを入れている。側面の切り込みから3箇所の凹みがあったものと推定できるが、1箇所は欠損している。残存している凹みのうち1箇所は使用済みであり、火鑄杵で摩擦した直径約1cmの穴が開く。穴の内面は炭化している。W41は、籌木である。W42は燃えさしである。残材と見られる切削痕のある湾曲した角材の先端部が炭化している。W43~48は部材である。W43は梢円形のほぞ穴がある板材である。W44は木釘の刺さった板材である。木釘穴は7箇所あり、うち2箇所に木釘が残存する。W43とW44は同一地点で出土している。W45は、緊縛痕のある部材である。丸木材の両端に幅2.5~1.1cmの帯状の凹みが確認できる。樹皮等での緊縛が想定できる。W46は方形のほぞ穴がある板材である。W47は2箇所に隅丸方形のほぞ穴を有する部材である。W48は平面形が台形となる板材の中央部分に接合用のほぞ穴を有する部材である。W49は矢板である。建築部材を矢板に転用したもので、長方形のほぞ穴を2箇所と正方形のほぞ穴を有する。両面をヤリガンナで切削し平坦面を作出している。出土した木製遺物のうちヤリガンナの使用が確認できるものは、この資料が唯一である。

その他 W50は曲柄鉤、W51は鉤の破片である。溝S D15・16から出土したものであるが、この2点は出土層位が明確ではないため、分けて報告する。W51は又鉤の刃部の破片と考えられる。

W52は正方形のほぞ穴がある部材である。重機掘削の際に出土したものであり、溝S D15・16の範囲外の地点から出土したが、出土地点で遺構は検出できなかった。

また、溝S D14からは樹皮製品(図版16)が出土している。幅約3cm程度であり、目立った加工は確認出来なかった。

5まとめ

今回の調査で確認した遺構・遺物は大きく分けて、縄文時代から弥生時代前期、弥生時代中期から古代、中世の3時期に分けられる。

まず、縄文時代から弥生時代前期までの遺物は全体的に数が少なく、各遺構においても、弥生時代中期以降の新しい時期の遺物に少量混じる程度である。そのため、調査区の周辺に同時期の遺構が存在する可能性は高いが、遺構との関係を積極的に評価することは難しい。ただし、注目すべき点として縄文時代前期の北白川下層式の土器が出土したことが挙げられる。器形全体を復元できるものは少ないものの、北白川下層II b式期と推定できる土器が存在する。亀岡盆地内でこの時期の土器が出土したのは初めてであり、重要な資料である。また土器だけではなくS2の石錐、S6の石匙は形態的特徴から北白川下層式期のものと判断され、この時期の土器と石器が揃うことから今回の調査区の近辺に集落が存在する可能性が高いと考えられる。

次に、弥生時代中期から古代にかけての時期について検討する。この時期は溝S D13~16と、南から北に流れる溝が断続的に掘削される時期である。

まず、弥生時代中期に溝S D14が開削される。溝S D14が他の遺構と重複していない範囲からは、

主に弥生時代中期から後期までの土器が出土することから、最終埋没時期は弥生時代後期と考える。本製品に関してもW1、W4、W5は弥生時代の資料であり、土器の年代と整合する。溝SD14のベースの一部は無遺物の河川堆積土のV層であることから、段丘上に存在した自然流路または、自然流路が埋没した谷状の地形に沿って掘削されたものと考えられる。ただし、調査区北半では安定した粘質土のベースを掘り込むことで西に向かって流れを変えており、意図的に流路を制御した水路と判断できる。出土した本製品は、いずれも農具としての用途が推定される鍬であり、近くに水田等の生産域が存在した可能性が窺える。また、土坑SK27は最終埋没は古墳時代前期と考えられるが、出土した勾玉の製作時期や鉄鏃は弥生時代に遡り、溝SD14と並行する時期と考えられる。

溝SD14の埋没後、新たに溝SD13が開削される。溝SD13からは弥生時代後期から古墳時代前期までの土器が出土している。図化した土器はタタキ調整の甕など弥生時代後期のものが主体であるが、庄内形甕や布留形甕と考えられる土師器片も出土することから、最終埋没は古墳時代前期と考えられる。溝SD13も延長方向から、溝SD14と同様に自然地形に沿うように掘削したものと考えられる。埋土は砂質土であり、流れのある水路であったと考えられる。出土した木製品は角材、板材、丸木材に加え自然木等が多く、水路の進行方向に対して長軸を揃えるような状態で埋没している。具体的な器種が判明する木製品は少ないが、完成品の曲柄平鉗とその素材と見られるみかん割の板材が同時に出土した。これは、鍬の廃棄の場に素材も同時に存在していたことを示しており、木製品の製作と消費の場が近接していた可能性を示すものである。

溝SD13が埋没すると、その直後に溝SD15・16が開削される。溝SD15と溝SD16は土層の観察の結果、明確な切り合いが認められず、それぞれを別の遺構として区別することが難しい。ただし、溝SD16の下層から出土遺物の中では最も新しい7世紀代の土師器・須恵器が出土していることから、溝SD15の最終段階に流路が西側に逸れたものと考えられ、遺構としては一連のものであると判断した。溝の延長方向は溝SD14・13と一致していることから、自然地形に沿って掘削された溝と評価できる。埋土は上層と最下層に粘質土を含むものの、中間層は砂質土となることから、同じく一定の流れを有する水路と判断される。また、溝SD15と溝SD16の合流地点の北側には、溝の延長方向に対して並行する杭列や直行する杭列があり、その先で急激に溝が深くなる。さらに、その北側には杭列を伴う列石が確認されたことから、堰のような水利施設を備えていた可能性がある。

溝SD15・16からの出土遺物は古墳時代前期末から中期と、古墳時代後期末から古代にかけての2時期に集中する傾向がある。土器の出土が少なくなる古墳時代後期の一時期に溝が放棄されている可能性もあるが、溝SD15・16には明確な再掘削の痕跡が確認できないことから、完全に埋没することはなかったと考えられる。

出土した土器は、甕が圧倒的に多く、布留形甕が目立つ。特に溝SD15のC区からは完形やそれに近い布留形甕がまとまって出土している。溝SD15・16からはミニチュア土器や机、斎串なども出土していることから、近辺で祭祀行為が行われたことは確實であり、布留形甕の一部も溝や溝の周辺で行われた祭祀に関連する可能性がある。ただし、前述のように溝SD15と溝SD16の合流地点の北側には、何らかの構造物があったものと想定され、構造物に流れを遮られ、濁んだ箇所に大型の遺物が

集中している可能性もある。そのため、その全ての遺物を祭祀と関連づけることは難しいものの、水路と祭祀の関係を考える上で、注目すべき資料である。また、溝S D14・13に比べると出土した木製品の量も多く、器種も豊富である。特に鍬や泥除け、田下駄、横槌といった農具に分類される木製品が目立つことは、溝S D14の状況と似ており、同様に生産域に隣接する水路という性格が想定できる。また、出土する鍬が曲柄又鍬やその破片に集中する状況は、この遺構から出土する木製品の特徴である。

溝S D15・16の埋没後、再び遺構が確認されるのは、中世に入ってからである。この時期の溝S D22は溝の延長方向こそ古代以前の溝と同じであるが、直線的な溝のあり方は条里区画を意識したものと考えられる。溝から出土した瓦器椀は、およそ13世紀前半のものである。

最後に、既往の調査で判明している余部遺跡における集落の変遷を元に、本調査区の位置付けについて考察する。まず、今回の調査で余部遺跡における集落の成立が縄文時代前期にまで遡る可能性が明らかになった。縄文時代から弥生時代前期の居住域については不明であるが、遺物の存在から未発掘の地点に集落の存在を想定したい。弥生時代中期から後期にかけては、今回の調査区から北東に約600mほど離れた地点で居住域や環濠の一部、方形周溝墓群が見つかっている。時期的な共通点から、溝S D14や溝S D13に関しては、北東部に集落を営んだ集団が関与している可能性があるが、今回の調査区と集落域の中間地点の状況が分からぬいため、確証は得られない。第5次調査時点では、古墳時代前期に集落が一旦途切れるものの、中期前半に再び集落が出現し、余部1号墳が築造されたとされ、中期段階に新たに盆地中央部の開発を担う集団の存在が想定されている。しかし、今回の調査で検出した溝S D13の機能時期や溝S D15の開削時期は古墳時代前期であり、弥生時代後期から継続的に余部遺跡での活動の痕跡を確認できた。これは、余部遺跡の変遷を考える上で重要な成果である。

溝S D15・16が埋没する7世紀以降の集落の状況については、遺物が出土しているのみで不明な点が多いが、中世に入ると再び遺構が確認される。亀岡市教育委員会が行った第15・17次調査では、本調査区の北側で13世紀前半の溝と建物跡が検出され、中世の集落の存在が明らかにされている。^(註7) 鎌倉時代以降この地域の開発が進むと考えられ、溝S D22もその際に掘削されたものと考えられる。

（川崎雄一郎）

注1 溝S D14下層の出土遺物は、調査時は中層として取り上げたものである。

注2 溝S D16は調査区の中央部ではS D15から分岐しているため、単独の遺構として認識できるが、分岐前と合流後の範囲では溝S D15と一体の溝となっており、出土遺物を遺構ごとに分けて取り上げることが出来なかった。そのため、溝S D16の分岐前および合流後の範囲で出土した遺物を「溝S D15・16」出土とする。ただし、土層の観察から溝S D15・16に新旧関係は認められず、一体の溝であった可能性が高い。

注3 株式会社吉田生物研究所に委託して実施した。

注4 調査時には、加工痕のある木製遺物はすべて取上げたため、出土量は膨大なものとなった。しかし、その大半は平坦面の作出などの単純な加工のみが確認される板材、角材、丸木材、燃えさし、残材、杭、矢板等であり、ここでは加工技術に特徴のあるものや建築部材の転用品など一部の木製品について報告する。

注5 奈良国立文化財研究所 1993『木器集成図録近畿原始編』 奈良国立文化財研究所

- 注6 石器の時期については、上峯氏の編年研究（上峯2018）を参照した
- 注7 野々口陽子 1999 「4. 余部遺跡第5次調査概要」『京都府遺跡調査概報』第88冊 財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 注8 飛鳥井拓 2020 「1国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡発掘調査報告書」『亀岡市文化財調査報告書』第97集 亀岡市教育委員会

参考文献

- 上峯篤史 2018 「縄文石器 その視角と方法」 京都大学学術出版会
- 亀岡市史編さん委員会 1995 「新修亀岡市史本文編」 第1巻
- 亀岡市史編さん委員会 2004 「新修亀岡市史本文編」 第2巻
- 亀岡市史編さん委員会 2000 「新修亀岡市史資料編」 第1巻
- 黒須亜希子 2008 「西日本の農耕具 近畿」『季刊考古学』第104号 同成社

付表4 出土土器観察表

掲載番号	種類	器種	地区	出土遺構	層位	法量 (cm)			残存率	胎土	焼成	色調	備考
						口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	東	SD14	下層	24			1/12以下	粗	やや歓	10YR6/2灰黄褐	
2	弥生土器	壺	東	SD14	上層	103	55		25/12	やや粗	良	10YR6/2灰黄褐	
3	弥生土器	甕	東	SD14	下層	190	26		1/12	やや粗	良	5YR6/3にぶい橙	
4	弥生土器	甕	東	SD14	下層	215	44		15/12	やや粗	やや歓	25Y5/1黄灰	
5	弥生土器	甕	東	SD14	下層	228	30		1/12以下	やや密	良	10YR5/1褐色	
6	弥生土器	甕	東	SD14	上層	199	55		1/12以下	やや密	良	10YR4/1褐色	
7	弥生土器	蓋	東	SD14	上層	225	45		1/12以下	粗	やや歓	10YR6/2灰黄褐	
8	弥生土器	高杯か	東	SD14	上層	135	41		3/12	やや密	やや歓	5YR7/4にぶい橙	
9	弥生土器	高杯	東	SD14	下層		12	178	15/12	やや粗	やや歓	5YR7/4にぶい橙	
10	弥生土器	壺	東	SD14	上層		55	116	3/12	やや歓	10YR6/3にぶい黄橙		
11	弥生土器	無頭壺	東	SD14	-	110	139		4/12	やや粗	良	10YR7/2にぶい黄橙	断ち割り(?)
12	縄文土器	深鉢	東	SD13	-		44		1/12以下	やや密	やや歓	25Y5/1黄灰	
13	縄文土器	深鉢	東	SD13	-		32		1/12以下	やや粗	やや歓	N20黒	
14	弥生土器	甕	東	SD13	-	235	48		1/12以下	粗	やや歓	10YR6/2灰黄褐	
15	弥生土器	甕	東	SD13	-	138	62		12/12	やや粗	良	10YR8/2灰白	取上6
16	弥生土器	壺	東	SD13	-	134	52		3/12	やや粗	良	10YR8/2灰白	
17	土師器	甕	東	SD13	-	172	216		2/12	密	良	10YR7/4にぶい黄橙	
18	土師器	高杯	東	SD13	-		61		12/12	やや密	良	25Y6/1黄灰	
19	弥生土器	高杯	東	SD13	-	318	44		1/12以下	やや粗	やや歓	10YR7/3にぶい黄橙	
20	弥生土器	甕	東	SD14・15・16	-	215	71		1/12	やや粗	良	10YR4/1褐色	
21	土師器	甕	東	SD14・15・16	-	135	58		2/12	密	良	75YR7/3にぶい橙	
22	土師器	甕	東	SD14・15・16	-	135	37		15/12	密	やや歓	10YR3/1黒褐	
23	土師器	壺	東	SD14・15・16	-	126	53		15/12	やや密	良	75YR6/4にぶい橙	取上精査
24	弥生土器	壺	東	SD14・15・16	-		103		1/12以下	やや粗	良	25Y6/2灰黄	
25	土師器	高杯	東	SD14・15・16	-	157	129		8/12	やや粗	やや歓	75YR8/3浅黄橙	取上1
26	土師器	高杯	東	SD14・15・16	-		73		12/12	やや密	やや歓	10YR6/2灰黄褐	

掲載番号	種類	器種	地区	出土遺構	層位	法量(cm)			残存率	胎土	焼成	色調	備考
						口径	器高	底径					
27	繩文土器	深鉢	東	SD16	上層	22		1/12以下	やや密	やや軟	10YR3/2黒褐		
28	弥生土器	壺	東	SD16	上層	130	33	2/12	密	良	75YR6/3にぶい黄褐		
29	土師器	壺	東	SD15・16	上層	147	63	3/12	密	良	10YR6/2灰黄褐		
30	土師器	壺	東	SD15	上層	182	37	2/12	やや密	良	10YR5/2灰黄褐	取上19	
31	土師器	壺	東	SD15	上層	132	56	2/12	やや粗	良	10YR8/2灰白		
32	土師器	壺	東	SD16	上層	164	63	4/12	やや密	良	10YR6/2灰黄褐		
33	土師器	壺	東	SD15	上層	154	102	3/12	やや密	良	10YR6/2灰黄褐	取上18	
34	土師器	壺	東	SD15	上層	156	114	5/12	やや密	良	10YR5/2灰黄褐	取上20	
35	土師器	壺	東	SD15	上層	101		3/12	やや密	やや軟	10YR6/2灰黄褐	取上17	
36	土師器	壺	東	SD15	上層	120	120	10/12	やや粗	やや軟	N3/0暗灰	取上16	
37	土師器	壺	東	SD15	上層	126	199	8/12	やや粗	良	25Y6/3にぶい黄	取上19	
38	土師器	壺	東	SD15	上層	164	340	6/12	やや密	良	10YR6/2灰黄褐	取上15	
39	須恵器	杯蓋	東	SD16	上層	121	20	1/12	密	軟	75YR8/3浅黄橙		
40	須恵器	杯蓋	東	SD16	上層	130	24	15/12	密	やや軟	5Y8/1灰白		
41	須恵器	杯身	東	SD16	上層	124	38	2/12	密	やや軟	10Y5/1灰		
42	土師器	器台	東	SD15	上層		38	3/12	やや密	やや軟	10YR7/3にぶい黄橙		
43	土師器	高杯	東	SD15	上層	35	132	2/12	やや粗	良	75YR7/3にぶい黄橙		
44	弥生土器	壺	東	SD15	上層	73	43	10/12	やや粗	軟	10YR7/2にぶい黄橙	取上9	
45	弥生土器	壺	東	SD15	上層		23	1/12以下	やや粗	やや軟	10YR6/2灰黄褐		
46	土師器	ミニコニアル壺	東	SD15	上層	37	31	12/12	密	やや軟	10YR5/4にぶい黄褐		
47	繩文土器	深鉢	東	SD15	下層		37	1/12以下	やや粗	やや軟	10Y2/1黒		
48	繩文土器	深鉢	東	SD16	下層		37	1/12以下	やや密	やや軟	10YR3/2黒褐		
49	弥生土器	壺	東	SD15	下層	274	66	1/12以下	粗	軟	10YR6/2灰黄褐		
50	弥生土器	壺	東	SD15	下層		46	1/12	粗	軟	10YR7/2にぶい黄橙		
51	弥生土器	壺	東	SD16	下層	53	50	12/12	粗	やや軟	10YR6/2灰黄褐		
52	土師器	小型丸底壺	東	SD15	下層	72	44	3/12	密	やや軟	10YR7/2にぶい黄橙		
53	土師器	小型丸底壺	東	SD16	下層	98	64	5/12	密	良	25YR7/6橙		
54	弥生土器	器台	東	SD16	下層	121	148	8/12	やや粗	良	10YR8/2灰白		
55	土師器	器台	東	SD15	下層		19	25/12	やや密	やや軟	75YR7/6橙		
56	土師器	か	東	SD15	下層	96	30	1/12以下	やや密	軟	75YR7/3にぶい橙		
57	土師器	楕	東	SD15	下層	110	50	4/12	やや粗	やや軟	10YR6/4にぶい黄橙		
58	土師器	高杯	東	SD16	下層	132	30	15/12	やや粗	やや軟	75YR7/2明褐色		
59	土師器	高杯	東	SD15・16	下層	204	22	3/12	やや密	良	25Y8/1灰白		
60	弥生土器	高杯	東	SD16	下層	170	90	1/12	やや粗	軟	25YR6/4にぶい橙		
61	土師器	壺	東	SD16	下層		56	1/12以下	やや粗	やや軟	5YR4/4にぶい橙		
62	須恵器	杯蓋	東	SD16	下層	104	29	15/12	やや密	良	N6/0灰		
63	須恵器	杯蓋	東	SD15・16	下層	100	33	2/12	やや密	良	N6/0灰		
64	須恵器	杯身	東	SD16	下層	99	26	15/12	やや密	やや軟	25Y8/1灰白		
65	須恵器	杯身	東	SD16	下層	121	28	15/12	密	やや軟	N4/0灰		
66	須恵器	杯身	東	SD15・16	最下層	137	33	2/12	密	良	N7/0灰白		
67	須恵器	杯身	東	SD16	下層	108	23	15/12	密	良	5PB5/1青灰		
68	須恵器	壺	東	SD16	下層	86	43	3/12	やや密	良	N7/0灰白		
69	須恵器	壺	東	SD16	下層	93	27	15/12	密	良	N3/0暗灰		
70	須恵器	高杯	東	SD16	下層	73	100	2/12	密	堅緻	75Y4/3暗オリーブ		
71	弥生土器	壺	東	SD16	下層	132	56	3/12	やや粗	良	10YR7/2にぶい黄橙		
72	土師器	壺	東	SD15	下層	151	27	15/12	やや密	やや軟	10YR7/2にぶい黄橙		
73	土師器	小型丸底壺	東	SD15	下層	154	52	1/12	やや密	やや軟	75YR6/6橙		
74	土師器	壺	東	SD15	下層	123	74	3/12	やや密	やや軟	5Y7/2灰白		
75	土師器	壺	東	SD15	下層	164	52	15/12	やや密	良	10YR7/2にぶい黄橙		
76	土師器	壺	東	SD15	下層	192	60	1/12	やや密	やや軟	10YR6/2灰黄褐		
77	土師器	壺	東	SD15	下層		61	15/12	やや密	良	N2/0黒		

掲載番号	種類	器種	地区	出土遺構	層位	法量 (cm)			残存率	胎土	焼成	色調	備考
						口径	器高	底径					
78	土師器	壺	東	SD15	下層	66			3/12	粗	良	10YR7/2にぶい黄橙	
79	土師器	壺	東	SD15	下層	86			25/12	密	良	10YR4/1褐灰	
80	土師器	壺	東	SD15	下層	220	38		1/12	密	やや軟	10YR6/1褐灰	
81	土師器	杯	東	SD16	下層	110	45		4/12	密	良	5YR7/4にぶい橙	線刻
82	土師器	小型丸底壺	東	SK24	-	89	95		3/12	やや粗	軟	10YR8/3浅黄橙	
83	土師器	丸底壺	東	SK27	-	92	51		3/12	密	やや軟	5YR7/4にぶい橙	
84	土師器	皿	東	SD22	-	68	15		15/12	密	良	10YR7/2にぶい黄橙	
85	土師器	皿	東	SD22	-	80	15		6/12	密	やや軟	10YR7/3にぶい黄橙	
86	土師器	皿	東	SD22	-	88	16		15/12	密	良	75YR6/2灰褐色	
87	土師器	皿	東	SD22	-	82	13		5/12	やや密	やや軟	75YR7/2明褐色	
88	瓦器	輪	東	SD22	-	160	41		25/12	密	良	10YR6/6明黄褐色	
89	瓦器	輪	東	SD22	-	153	49	74	1/12	密	良	N5/0灰	
90	瓦器	輪	東	SD22	-	136	55	69	10/12	密	良	N3/0暗灰	
91	縄袖陶器	皿	東	中世遺物包含層	IV層	16	44		12/12	密	やや軟	輪	緑色
92	青磁	輪	東	中世遺物包含層	IV層	185	36		15/12	密	良	輪	緑灰
93	瓦器	輪	東	IV層精査	-	152	46		1/12	密	やや軟	N3/0暗灰	
94	土師器	皿	東区 披張	中世遺物包含層	IV層	82	11		3/12	密	やや軟	75YR7/1明褐色	
95	須恵器	高杯	東区 披張	中世遺物包含層	IV層	107	32		25/12	密	良	N5/0灰	
96	須恵器	杯身	東区 披張	中世遺物包含層	IV層		22	86	25/12	密	良	5PE7/1青灰	排水溝掘削時出土
97	瓦器	輪	東区 披張	中世遺物包含層	IV層	137	46		1/12	密	やや軟	N4/0灰	
98	須恵器	杯蓋	東区 披張	中世遺物包含層	IV層	204	31		2/12	密	良	5PB7/1明青灰	
99	須恵器	杯蓋	西	中世遺物包含層	IV層	120	14		1/12以下	密	良	5PB6/1青灰	
100	白磁	碗	西	中世遺物包含層	IV層	147	30		1/12	密	良	10Y7/1灰白	
101	瓦器	羽釜	西	中世遺物包含層	IV層	168	30		2/12	やや密	やや軟	N3/0暗灰	

付表5 出土石器・石製品観察表

掲載番号	器種	出土遺構	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	石材	備考
S 1	打製石鏟	遺構面精査	IV層	21	23	7	チャート	SD13か
S 2	打製石鏟	遺構面精査	IV層	20	15	3	サヌカイト	
S 3	打製石鏟	SD15	下層	24.5	19	4	サヌカイト	
S 4	打製石鏟未成品	SD16	下層	26	18	3.5	サヌカイト	
S 5	削器	SD15	上層	32.5	21	7	チャート	
S 6	石匙	SD13	-	48.5	55.5	7.5	サヌカイト	
S 7	石匙	SD15・16	下層	79	26	13	サヌカイト	
S 8	二次加工ある剥片	SD16	下層	32	15	6	チャート	
S 9	打製石斧	SD15・16	下層	152	53	13	粘板岩	
S10	石錘	SD15・16	下層	63	36	14	砂岩?	
S11	台石	SD14	下層	173	173	46	鞍山岩	
S12	勾玉	SK27	-	13	10	4	ヒスイ	

付表6 出土金属器観察表

掲載番号	器種	出土遺構	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	材質	備考
M 1	鉄錐	SK27	-	64	15	3	鉄	柳葉

付表7 出土木製品観察表

掲載番号	器種	遺構	層位	グリッド	法量(cm)			樹種	備考
					長	幅	厚		
W1	直柄平鉢	SD14	上層	C7	(14.0)	(10.6)	(2.6)		広葉
W2	曲柄平鉢	SD14	上層	C3	(23.0)	(7.0)	(1.2)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	D II
W3	鉢片	SD14	上層	C3	(33.0)	(4.1)	(0.6)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
W4	曲柄又鉢	SD14	下層	C7	(31.5)	(8.3)	1.7	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	C II
W5	直柄又鉢	SD14	下層	D2	(14.2)	8.0	(0.9)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
W6	曲柄平鉢	SD13	-	-	(47.1)	8.5	1.1	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	D II
W7	板材	SD13	-	-	97.9	10.8	2.5		
W8	直柄楕鉢	SD15・16	上層	C11	(14.3)	(29.2)	(1.1)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
W9	鉢片	SD15	上層	E6	(8.4)	(7.9)	(0.9)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
W10	田下駄	SD15・16	上層	D10	(35.6)	7.4	2.0	ヒノキ科ヒノキ属	
W11	横槌	SD15・16	上層	F7	28.1	8.8	6.6	ツバキ科ツバキ属	
W12	盤	SD15・16	上層	F8	(54.4)	(12.7)	(4.5)	スギ科スギ属スギ	
W13	曲物側板	SD16	上層	F4	(29)	(7.9)	(0.3)	ヒノキ科ヒノキ属	
W14	机	SD15・16	上層	F8	(76.9)	(22.4)	(2.3)	ヒノキ科アスナロ属	
W15	籌木	SD15	上層	F6	(7.2)	1.2	0.3	ヒノキ科ヒノキ属	
W16	部材	SD15・16	上層	F7	(32.4)	(6.7)	(2.5)	ヒノキ科アスナロ属	
W17	部材	SD15・16	上層	D10	(36.8)	8.6	2.0	ヒノキ科ヒノキ属	
W18	部材	SD15・16	上層	F9	(26.1)	(6.8)	(1.6)		
W19	部材	SD15	上層	E6	(13.9)	3.6	(0.8)	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	
W20	杭	SD15・16	上層	D2	(51.5)	(7.9)	(4.5)		K 3
W21	矢板	SD15	上層	E5	(64.0)	(18.0)	3.5		
W22	板材	SD15	上層	F6	95	(4.5)	(1.3)	マツ科モミ属	
W23	曲柄又鉢	SD15・16	下層	E9	(68.6)	(13.4)	(0.9)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
W24	曲柄鉢	SD15・16	下層	D10	(32.4)	(9.3)	1.0		
W25	曲柄鉢	SD15・16	下層	D10	(35.8)	(8.1)	(1.4)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
W26	鉢片	SD15	下層	E3	(11.2)	(4.1)	(0.6)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
W27	鉢片	SD15・16	下層	E10	(10.8)	(4.7)	(1.0)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	W30と同一個体
W28	鉢片	SD15・16	下層	E10	(6.0)	(5.4)	(1.0)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
W29	鉢片	SD15・16	下層	E10	(5.1)	(4.4)	(1.1)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
W30	鉢片	SD15・16	下層	E10	(12.5)	(5.5)	(1.1)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	W27と同一個体
W31	鉢片	SD15・16	下層	E10	(9.3)	(7.1)	(1.3)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
W32	鉢片	SD15・16	下層	F8	(10.6)	(7.9)	(1.3)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	W33と同地点出土
W33	鉢片	SD15・16	下層	F8	(6.2)	(4.7)	(1.0)		W32と同地点出土
W34	鉢片	SD15・16	下層	C12	(8.2)	(2.8)	(1.3)		
W35	泥除	SD15・16	下層	E8	(16.4)	(29.2)	0.6	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
W36	柄	SD15・16	下層	D10	(15.7)	(3.4)	(3.0)		
W37	田下駄	SD16	下層	F4	(34.2)	(13.5)	(1.5)	ヒノキ科アスナロ属	
W38	ヤス	SD16	下層	G6	(26.1)	(2.7)	(2.7)	ツバキ科サカキ属サカキ	
W39	串串	SD15	下層	E3	(9.8)	(2.1)	(0.2)	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	
W40	火薬臼	SD15・16	下層	F8	(21.7)	(2.5)	(1.9)	ヒノキ科ヒノキ属	
W41	籌木	SD15・16	下層	C12	(17.8)	2.2	0.8		
W42	燃えさし	SD15	下層	E4	30.0	1.8	2.0		
W43	部材	SD15・16	下層	C11	(43.0)	(7.0)	(1.9)	スギ科スギ属スギ	
W44	部材	SD15・16	下層	C11	(27.0)	(12.5)	(1.6)	ヒノキ科ヒノキ属	
W45	部材	SD15・16	下層	C11	73.1	5.1	3.7		
W46	部材	SD15・16	下層	E10	(31.2)	(9.9)	2.6	ヒノキ科ヒノキ属	
W47	部材	SD16	下層	F6	(25.8)	(3.4)	(1.6)	ヒノキ科ヒノキ属	
W48	部材	SD15・16	下層	F7	50	41.4	1.6	ヒノキ科アスナロ属	
W49	矢板	SD15・16	下層	E9	(61.8)	125	3.7		
W50	曲柄鉢	SD15	-	E6	(20.3)	(6.0)	(1.1)		
W51	鉢片	SD15・16	-	-	(16.9)	(4.6)	(0.9)		
W52	部材	-	-	G3	(33.2)	(4.8)	(2.5)	ヒノキ科ヒノキ属	ベルト k・k' サブトレンド振削時出土

※出土木製品の樹種同定は、株式会社吉田生物研究所に委託した。

[2] 令和3年度の調査（西加舎遺跡第5次調査・
千代川遺跡第34次調査・拝田14号墳第1次調査）

1 はじめに

令和3年度の調査は亀岡市本梅町西加舎および千代川町地内において実施した。

本梅町西加舎で実施した西加舎遺跡第5次調査では、事業で切土施工による遺構面への影響が確実な範囲に、8箇所の小規模調査区を設定し、遺構および遺物包含層の検出を行った。調査期間は令和3年9月15日から令和3年11月30日で、調査面積は約780m²である。

千代川遺跡第34次調査では、事業で切土施工による遺構面への影響が確実な範囲で、なおかつ発掘調査の同意を得られた耕作地に調査区を設定した。調査は3m四方のグリッド調査区を設定し、遺構および遺物包含層の検出を行った。調査区は千代川町拝田、北ノ庄に合計6箇所設定した。調査期間は令和3年12月1日から12月17日で、調査面積は合計54m²である。

拝田14号墳第1次調査では、事業予定地内に所在する拝田14号墳の測量調査および墳丘規模確認のための調査区を設定した。調査期間は令和3年12月1日から令和4年1月31日で、調査面積は30m²である。

調査期間、整理期間等の関係から、詳細は次年度以降に報告することとし、今年度の報告では調査の概要のみを記す。

2 調査の概要

(1) 西加舎遺跡第5次調査

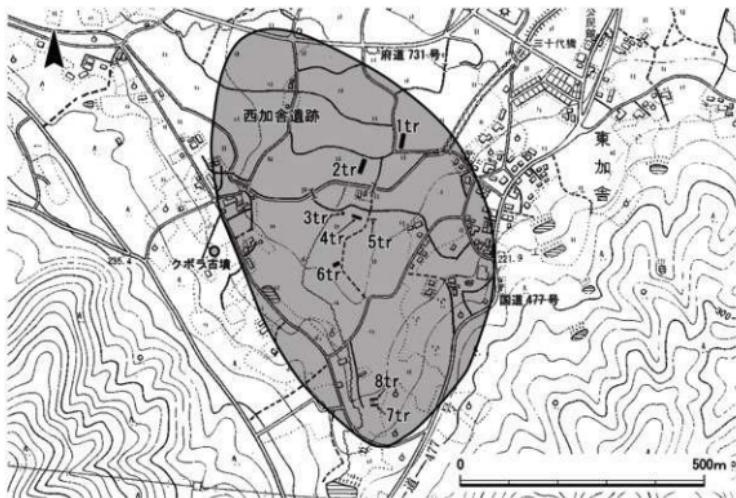
今回の調査では、施工計画の予定掘削深度を目安に、重機および人力による掘削を行い遺構面の検出を行った。その結果1trで中世遺物包含層および中世の遺構面、2trで弥生・古墳時代の遺物包含層を検出した。また、3～6trで中世遺物包含層および中世の遺構面を検出した。

(2) 千代川遺跡第34次調査

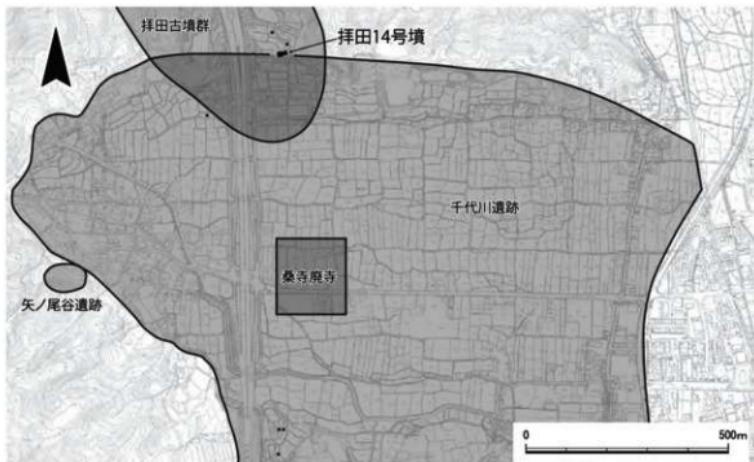
各調査区では重機および人力による掘削を行い、遺構面の検出をした。北ノ庄に設定した調査区では、第33次調査で検出した弥生時代の遺構面と類似した土層を確認したが、遺構は検出できなかった。拝田長者垣内に設定した調査区では、中世遺物包含層及び中世の土器溜まりを検出した。

(3) 拝田14号墳第1次調査

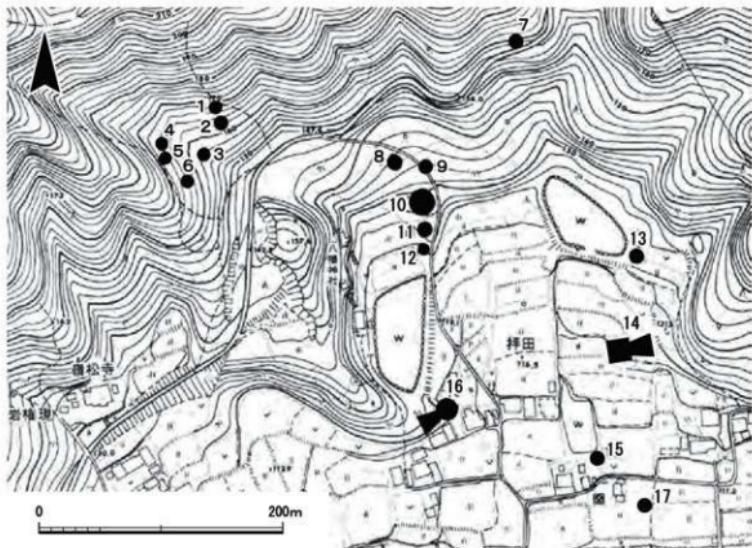
拝田古墳群は亀岡市千代川町拝田に所在する17基からなる古墳群である。国道9号バイパス建設に先立ち8～10号墳の調査が行われ、古墳時代中・後期の木棺直葬あるいは横穴式石室を主体とする古墳が検出されている。また、発掘調査は行われていないが、16号墳は全長35mの前方後円墳であり、内部に石棚を有する両袖式の横穴式石室が知られている。今回調査を行った14号墳は、上述の支群とは別の丘陵裾にあり、16号墳から北東約200mの位置にある。これまでには、古墳時代後期の円墳とさ



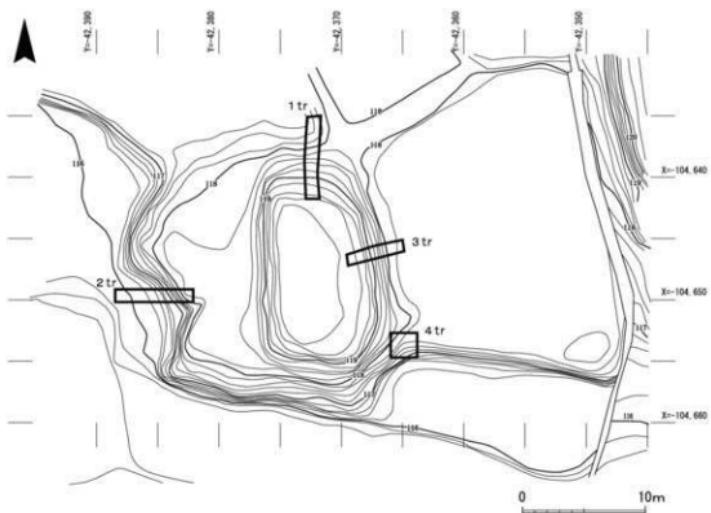
第51図 西加舍遺跡第5次調査トレンチ配置計画図(1/10,000)



第52図 千代川遺跡遺跡第34次・拝田14号墳第1次調査地点(1/12,000)



第53図 拝田古墳群分布図(1/4,000)(京都府教育委員会1979に加筆)



第54図 拝田14号墳埴丘測量図(1/400)

れてきたが、周辺の地形図と現地表面の観察の結果、前方後方墳である可能性が浮上した。

調査の経過 令和3年12月2日に古墳周辺の草刈、樹木の伐採に着手し、その後、墳丘および周辺の地形の測量を行った。その後、墳丘に4箇所の調査区を設定し、人力で掘削を行った。その結果、墳丘斜面で葺石や埴輪片を検出した。また、4トレンチではくびれ部の可能性がある地形を確認した。今回の調査では前方部墳裾は確認できていないが、前方後方墳だとすると、全長約40mに復元できる。

（桐井理揮）

3 まとめ

西加舎遺跡第5次調査では、遺跡が所在する谷の中央部に中世以前の遺構が存在することが明らかになった。また、本梅川の北側で、弥生・古墳時代の遺物包含層が検出されたことにより、西加舎遺跡の成立が弥生時代に遡ることが明らかになった。

千代川遺跡第34次調査では、拝田地区の中でも、京都縦貫自動車道の西側に中世の遺構が良好に遺存していることが明らかとなった。

拝田古墳群の調査では、これまで後期の方墳と考えられていた14号墳から前期末の円筒埴輪が出土し、前方後方墳である可能性が高まった。

（川崎雄一郎・桐井理揮）

参考文献

京都府教育委員会 1976「国道9号バイパス関連遺跡」『埋蔵文化財発掘調査概報(1976)』

京都府教育委員会 1978「国道9号バイパス関連遺跡」『埋蔵文化財発掘調査概報(1978)』

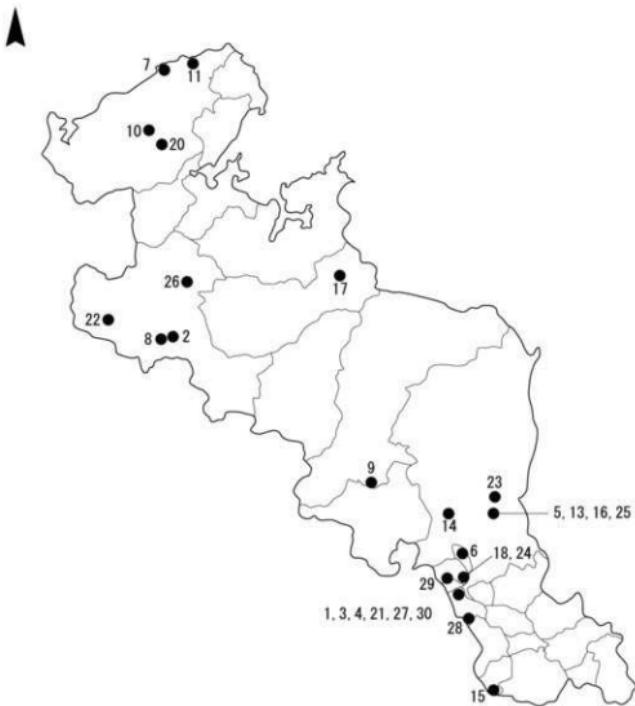
京都府教育委員会 1979「国道9号バイパス関連遺跡」『埋蔵文化財発掘調査概報(1979)』

4 令和3年府内遺跡試掘・確認調査等報告

京都府教育委員会では、埋蔵文化財包蔵地における開発事業に伴い、各事業主体者の協力を得ながら、国庫補助事業府内遺跡として試掘・確認調査、分布調査等を実施している。

令和3年1月から12月にかけて当教育委員会では、第55図、付表8に示す総数30件の試掘・確認調査等を実施した。

次項では、特に成果の得られた試掘・確認調査について記載する。



第55図 令和3年試掘・確認調査位置図(番号は付表8に対応)

付表8 令和3年試掘・確認調査等一覧

	調査月日	遺跡名称	所在地	概要	調査原因	備考
1	1月12日	木津川河床遺跡	八幡市	顯著な遺構・遺物なし	公園事務所解体	
2	1月20日	前田遺跡	福知山市	顯著な遺構・遺物なし	堤防新設	
3	3月29日	木津川河床遺跡	八幡市	顯著な遺構・遺物なし	下水道施設建設	
4	3月29日	木津川河床遺跡	八幡市	近世・近代遺物出土	府道改修	
5	3月29日・ 4月2日	平安京跡	京都市	遺構確認	庁舎建設	p.88 参照
6	4月6日	長岡京跡	向日市	顯著な遺構・遺物なし	電話線配管	
7	4月21日	竹野遺跡	京丹後市	顯著な遺構・遺物なし	府道改修	
8	5月10日・ 11日	福知山城跡	福知山市	安定面を確認、瓦出土	国道無電柱化	p.83 参照
9	7月9日	八木城跡	南丹市	顯著な遺構・遺物なし	ダム建設	p.86 参照
10	6月15日	鶴尾遺跡	京丹後市	人形等出土	道路新設	p.75 参照
11	6月24日	平城跡	京丹後市	顯著な遺構・遺物なし	急傾斜地崩落対策	
12	6月30日・ 9月28日	鳴岩城跡	福知山市	顯著な遺構・遺物なし	国道改修	
13	7月8日・ 9日	平安京跡	京都市	顯著な遺構・遺物なし	庁舎建設	
14	8月4日	大覺寺古墳群	京都市	顯著な遺構・遺物なし	学校改修	
15	8月24日	乾谷城山遺跡	精華町	顯著な遺構・遺物なし	国道拡幅	
16	9月17日	平安京跡	京都市	顯著な遺構・遺物なし	警察署解体	
17	9月30日	光明寺境内	綾部市	顯著な遺物なし	歩道整備	p.84 参照
18	10月15日	長岡京跡・雲宮遺跡	長岡京市	顯著な遺構・遺物なし	下水道新設	
19	10月20日・ 11月2日	志高遺跡	舞鶴市	顯著な遺構・遺物なし	河川整備	
20	10月21日・ 11月8日	佐屋利遺跡	京丹後市	遺構確認	道路新設	p.78 参照
21	10月26日	木津川河床遺跡	八幡市	顯著な遺構・遺物なし	堤防改修	
22	10月27日	小倉田遺跡隣接地	福知山市	顯著な遺構・遺物なし	府道新設	p.81 参照
23	11月8日・ 9日	植物園北遺跡	京都市	遺構面、ピット検出	交番新築	
24	11月12日	長岡京跡・開田遺跡	長岡京市	顯著な遺構・遺物なし	府道拡幅	
25	11月15日	平安京跡	京都市	顯著な遺構・遺物なし	交番建替	
26	11月30日	河守遺跡・河守北遺跡	福知山市	顯著な遺構・遺物なし	国道拡幅	
27	12月15日	木津川河床遺跡	八幡市	顯著な遺構・遺物なし	公園整備	
28	12月20日	美濃山遺跡	八幡市	顯著な遺構・遺物なし	学校改修	
29	12月22日	長岡京跡閻連遺跡	長岡京市	顯著な遺構・遺物なし	学校改修	
30	12月27日	木津川河床遺跡	八幡市	顯著な遺構・遺物なし	緊急用河川敷道路建設	

たんごこくぶんじ [1] 史跡丹後国分寺跡試掘・確認調査（第1次調査）

1 はじめに

史跡丹後国分寺跡は、宮津市国分に所在する寺院跡である。古代に創建された丹後国分寺は位置も含めて不明だが、中世に再建された丹後国分寺は、建武元(1334)年の再興にかかる経過や法会について重要文化財「丹後国分寺再興縁起」に詳細な記載があり、建武元年の再興伽藍跡が良好に残されていることから、昭和5(1930)年に史跡に指定されている。また、再興伽藍の建物は戦乱や災害で失われたが、16世紀初頭の雪舟筆の国宝『天橋立図』には失われる以前の様相が描かれている。

現在の史跡範囲内には、金堂跡基壇及び塔跡基壇が残存しており、それぞれの基壇に伴って礎石が計50石露出している。また、中門跡には2石の礎石が確認できる。

これまで発掘調査は行われておらず、丹後国分寺に隣接する国分遺跡において発掘調査が実施されたのみである。国分遺跡では、溝や土壇状の遺構などが検出され、古代の遺物が出土している。

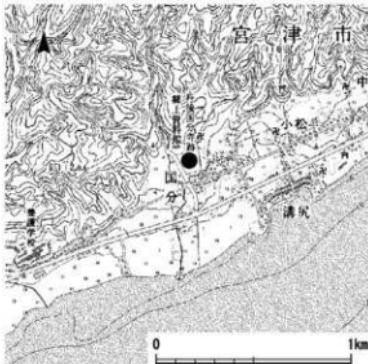
令和3年度の調査では、金堂跡・塔跡・中門跡の計9箇所に小規模な調査区を設定し、発掘調査を実施した。調査は令和3年11月8日から12月24日まで実施し、調査面積は80m²である。調査にあたっては京都府立丹後郷土資料館の協力を得た。調査・整理期間の関係から、詳細は次年度以降の報告を予定しているため、今年度は調査の概要のみを記す。

2 調査の概要

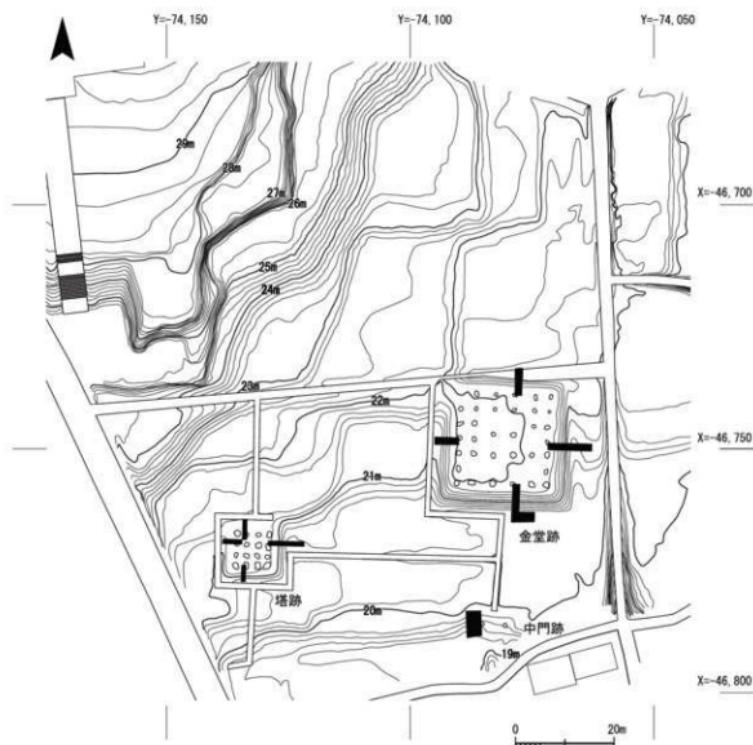
本調査では、まず史跡範囲内の詳細な測量を行い、次に金堂・塔・中門基壇等の残存状況や規模を確認するための調査区を設定し、発掘調査を実施した。金堂跡・塔跡では表土と真砂土が厚く堆積しており、真砂土下層より基壇盛土と整地層を検出した。中門跡では、基壇は確認できず、中世段階の安定面を検出した。

3 おわりに

今年度の調査では、史跡丹後国分寺跡の地形測量や発掘調査によって中世の丹後国分寺跡の主要な建物となる金堂・塔の基壇跡の規模や構築方法などを考古学的に初めて確認することができた。今後も調査を進め、地表面に顕在化した遺構以外の付属施設等も含め確認していきたい。(北山大熙)



第56図 史跡丹後国分寺跡調査位置図
(国土地理院 1/25,000「宮津」)



第 57 図 調査区配置図(1/1,000)

参考文献

宮津市教育委員会1993「史跡丹後国分寺跡隣接地遺跡 第5次発掘調査概要」『宮津市文化財調査報告』第26集

[2] 鶴尾遺跡試掘・確認調査（第1次調査）

1 はじめに

今回の調査地は、府道掛津峰山線の建設の事業地内で、丹波丸山古墳群の隣接地にある。丹波丸山古墳群は京丹後市峰山町丹波に位置する古墳群である。平成28年度から令和2年度にかけて、府道掛津峰山線の建設に伴い公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターにより発掘調査が行われ、古墳時代前期の円墳や、経塚等が検出されている。

府埋文センターの調査中に、遺物の散布が認められたため、遺跡の有無を確認するために4箇所のグリッドを設定し、試掘調査を行った。調査日は令和3年6月14日で、調査面積は17.9m²である。

調査に当たっては、丹後土木事務所の協力を得た。

2 調査の成果

(1) 各調査区の概要

1グリッド 南東側に設定した南北1.6m、東西2.7mの調査区である。地表下約2mで地山と考えられる灰白色の粘土層を検出した。粘土層を切り込むように、自然流路と考えられる堆積を断面で確認した(5層)。湧水が著しく、平面では明確な堤防は確認できていない。また、遺物も出土しなかった。

2グリッド 北東側に設定した南北1.3m、東西2.5mの調査区である。地表下1.7mまで掘削したが、砂層を確認したのみで、地山は検出できなかった。砂層の下層には、他のグリッドでは検出してない礫層が厚く堆積する。砂層と礫層の層境では、やや大ぶりの自然木を含む。

3グリッド 中央部に設定した南北2.2m、東西2.0mの調査区である。地表下約2mで地山と、流路状の落ち込みを検出した(6層)。6層は西側に落ち込むように堆積する黒色の砂質土で、有機質や遺物を多く含む。この層から、燃えさし、人形、土器等が出土している。

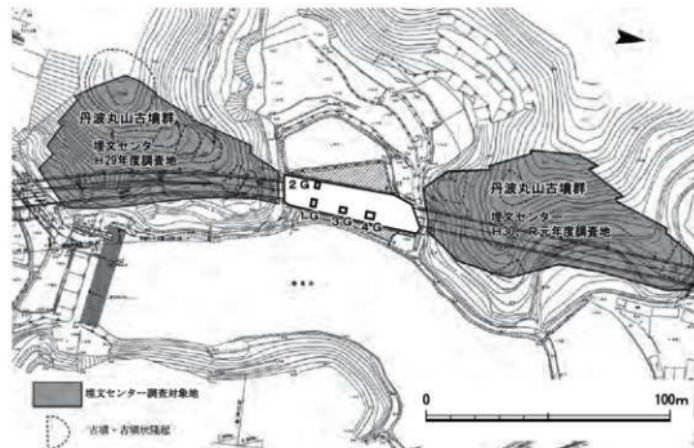
4グリッド 西側に設定した南北2.8m、東西2.1mの調査区である。地表下約2mで黒色砂質土(6層)を検出した。肩部は確認できていないが、3グリッドで検出した落ち込みの一部と考えられる。埋土中から燃えさしや須恵器片等が出土した。

(2) 出土遺物

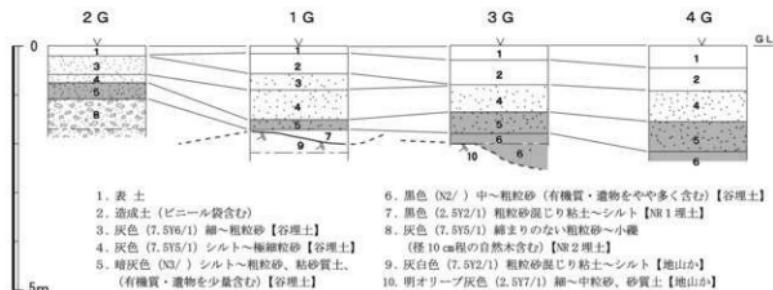
3・4グリッドでは遺物がやまとまって出土している。



第58図 鶴尾遺跡調査位置図
(国土地理院 1/25,000「峰山」)



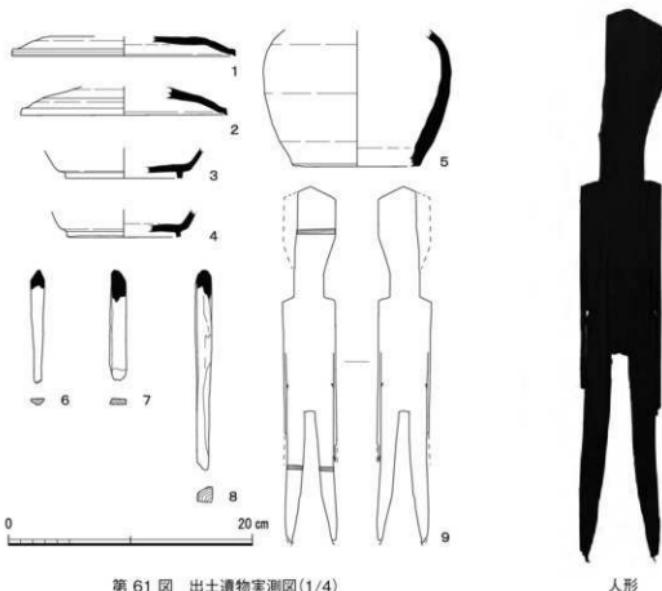
第59図 調査区配置図(1/2,000)



第60図 各グリッド土層柱状図(1/100)

1、2は須恵器蓋である。1は復元口径が18.4cmとやや大形のもので、端部外面には一条の沈線が認められる。焼き上がりは黒灰色を呈する。2はわずかにかえりの痕跡を認めるもので、天井部外面はヘラケズりが施される。3、4は須恵器杯Bである。3は内面にナデによる凹凸を顕著に残す。4はヘラ切り後に高台を貼り付けるもので、薄手の仕上がりとなる。5は広口壺の体部であろうか。内面にはナデによる凹凸の痕跡を顕著に残す。

6～8は燃えさしである。いずれも、割り裂いた破材の先端に火を受けた痕跡が残る。9は人形である。イカリ肩気味となり、腰部には切り込みによってくびれを表現している。



第 61 図 出土遺物実測図(1/4)

人形

3 まとめ

南側の調査区では顯著な遺構・遺物は確認できなかったが、自然流路の可能性がある。北側は、流路中から、古代の土器に伴って人形や燃えさしなどの祭祀遺物を確認しており、水辺の祭祀に関わる遺跡の可能性がある。なお、人形については、丹後では定山遺跡(町田1985)、古殿遺跡(平良1978)に次いで3例目の出土例となった。

以上の成果を受け、京丹後市教育委員会と協議を行った結果、「鶴尾遺跡」として新規の埋蔵文化財包蔵地として周知することとなった。

(桐井理揮)

注 公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター2017『京都府埋蔵文化財情報』第131冊

公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター2019『京都府埋蔵文化財情報』第135冊

公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター2020『京都府埋蔵文化財情報』第137冊

参考文献

町田 章編 1985『木器集成図録』近畿古代篇、奈良国立文化財研究所

京都府教育委員会 1978『埋蔵文化財発掘調査概報(1978)』

[3] 佐屋利遺跡試掘・確認調査（第2次調査）

1 はじめに

佐屋利遺跡は京丹後市新町に位置する集落遺跡である。令和3年度に国道建設に伴い公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターにより発掘調査が行われ、弥生時代から中世の遺構・遺物が確認されている。

今回の調査地は、前述の府埋文センターの調査地点に隣接しており、その調査成果から遺跡が現在の周知された範囲から拡大する可能性が予想されたため、その確認を目的に8箇所の調査区を設定し、試掘調査を行った。調査日は令和3年10月21日、同11月8日である。

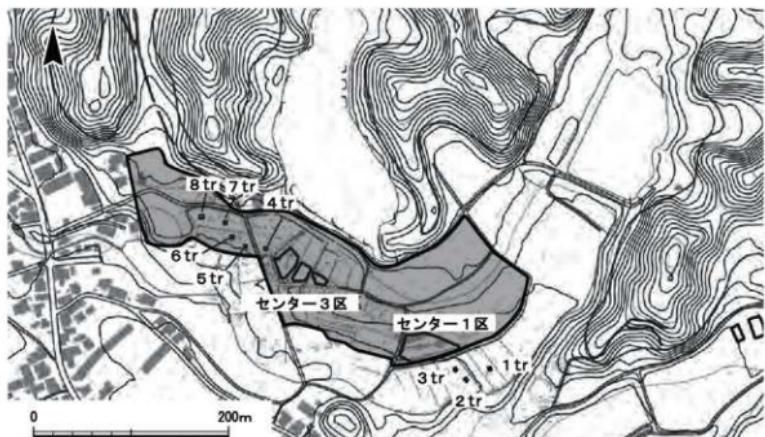
2 調査の成果

（1）各調査区の概要

東区 包蔵地の範囲の南東側で1～3trの3箇所の調査区を設定した。いずれの調査区でも、現地表面から1.5～2.0m掘削を行ったが、砂層の堆積を確認したのみで、遺構、遺物は確認されなかった。いずれの調査区でも湧水が著しく、掘削時から壁面の崩落が認められるような状況であったため、写



第62図 佐屋利遺跡調査地位置図
(国土地理院 1/25,000「峰山」)



第63図 トレンチ配置図(1/5,000)※トーンは拡大後の遺跡範囲

真での記録のみを行い、断面図の作成は断念した。

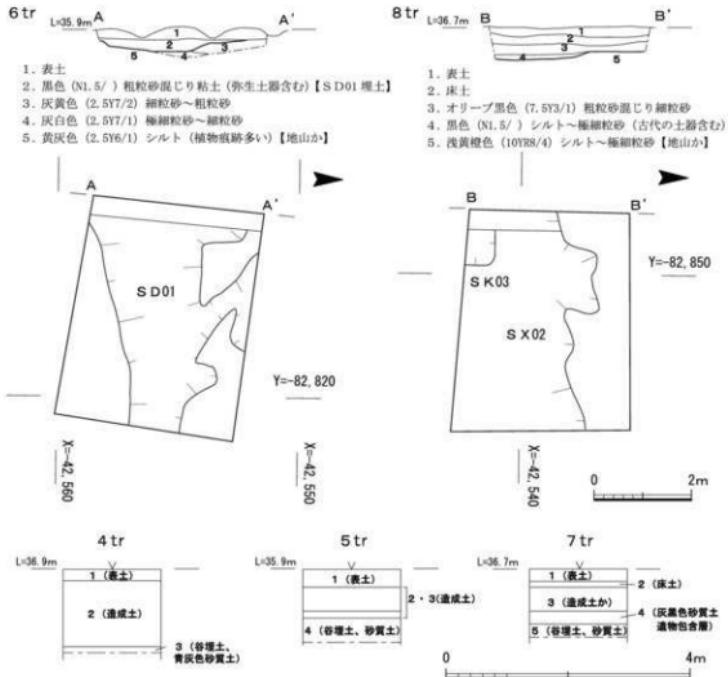
これらの調査区は現在でも周囲の地形よりも一段低い地点に相当し、地形の谷部に相当すると考えられる。

西区 包蔵地の範囲の北西側で5箇所に調査区を設定した。

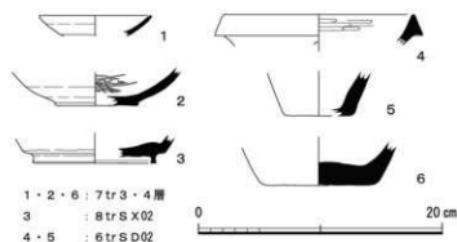
4 trは埋文センターが行った1次調査の3区から、水路をはさんで西側に位置する。現地表面から1.3m下までは近代以降の造成土が堆積し、その下層には砂層からなる谷埋土が確認された。谷の埋土は東から西へ傾斜する。遺構・遺物は確認されなかった。

5 trでは、現地表面から1.3m下までは近代以降の造成土が堆積し、その下層には砂層からなる谷埋土が確認された。谷の埋土は西から東へ傾斜する。遺構・遺物は確認されなかった。

6 trは5 trの北西約10mの位置に設定した調査区である。表土直下で、砂層からなる安定地盤を検出し、その面で幅約2m、深さ0.3mの溝SD01を検出した。SD01は南東から北西に方位を傾けて掘削されており、断面形状は緩い字「U」字状を呈する。埋土は黒色粘砂質土で、弥生時代中期の土器片を少量含む。



第64図 トレチ平面図・断面図(1/80・100)



第65図 出土遺物実測図(1/4)

た。4層は土器の他、加工痕跡のある木材も含む。また、4層最下層から中世とみられる土器の小片が出土するなど、層位毎に遺物が堆積したのではなく、ある段階で、周辺から流れ込んだ2次包含層と判断した。しかし、土器の器面の摩滅が少ないとから、周辺に居住域が存在した可能性が高い。その下層では、遺物を含まない谷地形を検出した。谷の埋土は西から東へ傾斜する。

8trは7trと同一の場に設定した調査区で、今回設定した調査区の中では最も西側に位置する。表土、耕作土の下には遺物をわずかに含む黒色土が薄く堆積し、その下層で地山とみられる黄褐色の土層(5層)を確認した。この面で、落ち込みS X02を検出した。S X02は一部を検出したのみで、さらに南及び東西に広がると考えられる。埋土中からは飛鳥時代から古代の土器が出土した。また、南端で検出した土坑S K03は、3層から掘り込まれている。

(2)出土遺物

今回の調査では、6～8トレンチでコンテナ1箱分の遺物が出土した。遺物の内容は、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、輸入陶磁器、木製品等があり、弥生時代から中世まで広い時期の遺物が得られている。

1～3は7tr 3・4層から出土した。弥生時代から中世まで各時期の遺物を含む。1は白磁皿の口縁部である。Ⅷ類とみられ、中世前期のものか。2は内黒の黒色土器である。底部外面には糸切痕を残す。6は弥生土器の壺底部である。器壁が厚く、混和剤を多量に含む。前期から中期のものであろう。

4は弥生土器の壺底部である。5は弥生土器壺口縁部である。4、5は6tr溝S D02の断ち割りの際に出土したもので、中期後半のものとみられる。

3は須恵器杯B底部である。8trの落ちこみS X02から出土した。

3 まとめ

今回の試掘調査の結果、佐屋利遺跡の東側には遺構の広がりは認められなかった。一方、西側については、遺物包含層や遺構を確認することができた。小規模な調査区では確認しきれなかった大小の谷地形が多く存在すると考えられ、その谷地形を避けるように弥生時代から中世までの居住域が営まれたと判断される。以上の成果を受け、京丹後市教育委員会と協議を行った結果、周知の埋蔵文化財包蔵地である佐屋利遺跡の範囲を拡大した。

7、8trは4～6trよりも1mほど標高が高い地点の場に設定した。7trでは、現地表面から0.3m下まで近代以降の耕作に伴う土が堆積し、その下層には遺物を含まない粗砂層が地表下0.7mまで堆積する。さらにその下層では、弥生時代から中世までの遺物を多量に含む黒色の包含層(4層)を検出した。

[4] 小倉田遺跡隣接地試掘・確認調査

1 はじめに

小倉田遺跡は、福知山市夜久野町今西中に所在する弥生時代から古墳時代の散布地である。今回の調査は、府道小坂青垣線のバイパス道路の新設に伴って、小倉田遺跡隣接地において、遺跡の広がりの有無を確認するために行った。

調査は令和3年10月27日に実施した。調査面積は18haである。調査にあたっては、中丹西土木事務所の協力を得た。

2 調査の概要

新設されるバイパス道路予定地と現道の合流地点付近に、3m四方のトレンチを2箇所設定した。

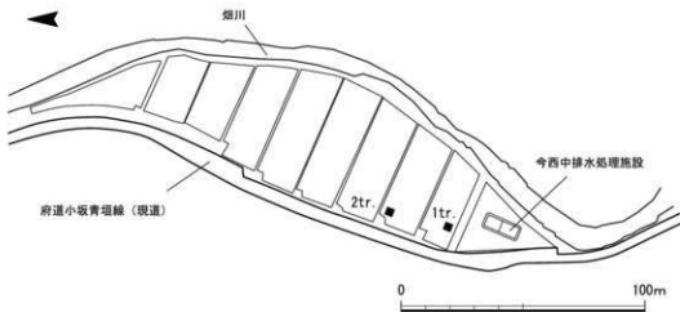
1トレンチは現地表下23m付近まで掘削した。

盛土や旧耕土の堆積があり、その下層では河川堆積とみられる層が続くことを確認した。2トレンチは現地表下1.5m付近まで掘削した。2トレンチにおいても、1トレンチと近似した堆積が見られた。現地表下1.5m付近まで掘削した段階で湧水が激しかったため、それ以上の掘削は行わなかった。

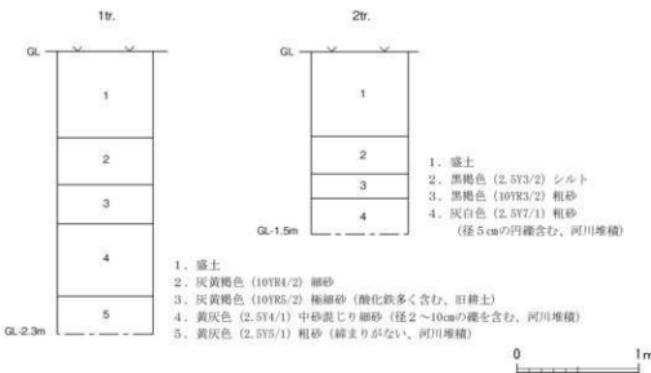
2トレンチの第2層からは縄文土器や埴輪の細片が出土した。ただし、この層からはビニール片も出土しており、現代の二次包含層であると判断される。



第66図 小倉田遺跡隣接地調査地位置図
(国土地理院 1/25,000「福知山西部」)



第67図 小倉田遺跡隣接地トレンチ配置図(1/2,000)



第68図 小倉田遺跡隣接地土層断面図(1/40)

3 まとめ

今回の調査では、盛土や旧耕土の下層では河川堆積層を確認したのみで、顕著な遺構は発見されなかった。当該地は畠川の氾濫原に当たっているとみられ、安定した生活面が形成される環境にはなかったと考えられる。

一方、二次堆積ではあるが、縄文土器や埴輪の細片が出土していることは注目される。周辺には小倉田遺跡をはじめ、先ノ段遺跡、小倉田古墳、先ノ段古墳などがあり、これらの遺跡から流入した可能性が考えられる。今後の周辺遺跡の調査が期待される。

調査の結果、当該地における本発掘調査は必要ないと判断した。

(岡田健吾)

ふくちやまじょう [5] 福知山城跡試掘・確認調査

1 はじめに

福知山城跡は、福知山市大字内記に所在する中世から近世の城館跡である。今回の調査は、昨年度と同様に府道24号の無電柱化工事に伴う堅坑部分の調査を実施した。調査は令和3年5月10・11日に行った。調査面積は約15m²である。調査にあたっては、中丹西土木事務所の協力を得た。

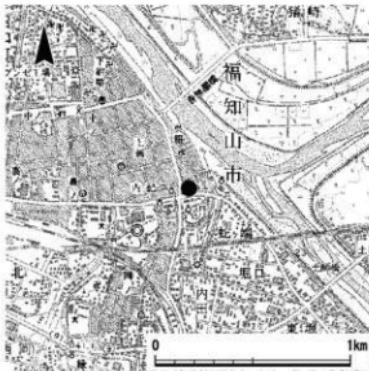
2 調査の成果

工事に伴って地下掘削を行う部分について調査を実施した。調査地点は、福知山城北側の府道55号線の歩道部分である。第1・2調査区には、ともに厚く現代盛土が堆積していた。第1調査区でのみ、近世遺物を含む包含層(第4層)が堆積しており、さらに下層より安定面(第5層上面)を確認した。時期は不明であるが、溝S D01と柱穴S P02を検出した。今回の事業では、安定面(第5層上面)までの掘削が行われないため、検出にとどまり、遺構の時期や性格については不明である。包含層(第4層)からは近世の瓦が出土した。第2調査区では、現代盛土のみが確認でき、さらに下層に安定面(第5層上面)があると想定され、北東に位置する由良川に向かって低くなっていくものと考えられる。

3 おわりに

今回の調査は限られた面積の調査であったが、遺構・遺物が認められた。福知山城跡の構造等を考える上で、重要な成果となった。

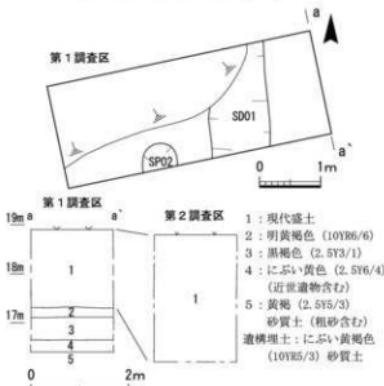
(北山大熙)



第69図 福知山城跡調査地位置図
(国土地理院 1/25,000「福知山西部」「福知山東部」)



第70図 調査区配置図(1/1,000)



第71図 平面図・土層柱状図(1/80・1/100)

[6] 光明寺境内詳細分布調査

1 はじめに

光明寺は、綾部市睦寄町君尾に所在する真言宗醍醐派の寺院である。寺伝では聖徳太子の創建と伝え、延喜年間(901~923年)に理源大師によって再興されたという。大永7(1527)年に兵火にかかり、二王門を残して焼失した。その後、近世にかけて復興し現在に至る。二王門は鎌倉時代中期の建築で、京都府北部唯一の国宝建造物である。また、境内は京都府暫定史跡に登録されている。

今回の調査は、公園施設整備にあたり、既設U字溝の取替えと車止めの設置のための事前調査である。調査は令和3年9月30日に実施した。調査にあたっては京都府自然環境保全課の協力を得た。

2 調査の概要

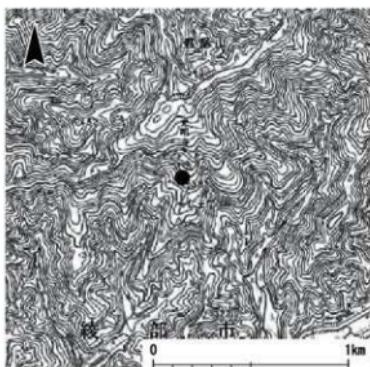
調査地は、二王門から本堂へつながる未舗装通路である。既設U字溝3箇所を除去した上で、掘削予定深度まで掘削し、遺構等の有無を確認した(1~3区)。また、本堂前階段下に設置する車止め設置箇所でも同様に確認を行った(4区)。なお、通路改修はU字溝と車止め以外に掘削を行わず、全て盛土による施工である。

調査の結果、いずれの調査区でも遺構・遺物は確認できなかったが、1区では既設U字溝の下層より炭化物混りの締まりの良い黄褐色シルト土(3層)を、2区では締まりのやや弱い褐色シルト土(2層)を検出した。3区は近現代盛土のみ、4区は近現代盛土下から地山を検出した。

1区の3層は、ほぼ水平で炭化物が混じることから人工的な整地土と判断できる。坊跡の間で傾斜地に位置する1区に水平な3層が確認できることから、3層は通路に関係する堆積であろう。一方、2区の北東側の坊跡では、第1次調査で15世紀の遺構面を埋め立てて平坦面を広げていることが判明している。⁽⁸¹⁾ 2区の2層は締まりが弱く、第1次調査地の平坦面を拡張した際の盛土の可能性が高い。

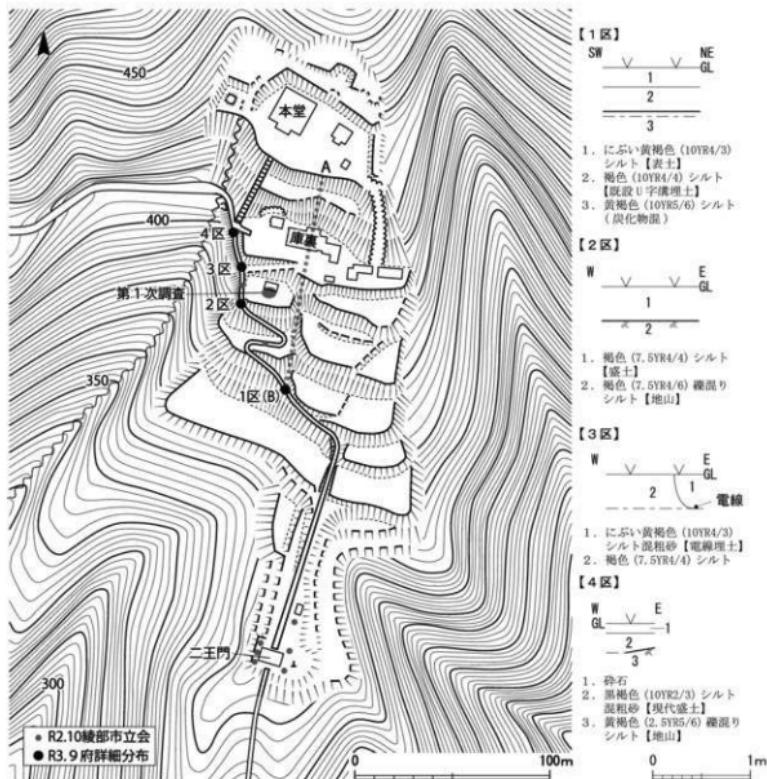
3 まとめ

今回の調査では、1区で通路の整地土を確認し、2~4区では明確な通路痕跡を確認できていない。今回の調査と第1次調査の成果を総合すると、15世紀以前と現在で坊や通路の配置が異なっていた可能性が高い。中世山寺では、最高所に本堂の平坦面を配し、そこから山麓に向かう通路の両側に坊を配置することが多い。光明寺では、本堂の平坦面へ続く石段が西に偏る一方で、本堂の平坦面の中央(A)から今回の1区(B)にかけて谷状の緩い



第72図 光明寺境内調査地位置図

(国土地理院 1/25,000「和知」)



第73図 光明寺境内平面略図(1/2,500)、調査区柱状図(1/50)※当教育委員会作図

(注2)

地形が続いている。なお、庫裏の建つ平坦面は大正5(1916)年に整備されたものである。そのため、元々はA-Bを直線的に結ぶ通路があった可能性が高く、1区の3層はこの通路の遺構といえるであろう。出土遺物のない中ではあるが、改変時期の候補となるのは、大永の兵乱後に本堂が再建された天正19(1591)年、現本堂が寄進された天保11(1840)年、現庫裏が現在地に再建された大正5年を挙げることができる。今後の調査の進展を期待したい。なお、今回検出した1区の3層はU字溝の設計を変更することで保護しており、本発掘調査の必要はないと判断した。

(中居和志)

注1 京都府教育委員会 2019「光明寺境内試掘・確認調査(第1次調査)」「京都府埋蔵文化財調査報告書(平成30年度)」

注2 京都府教育委員会 2019「国宝光明寺二王門修理工事報告書」

[7] 八木城跡試掘・確認調査（第3次調査）

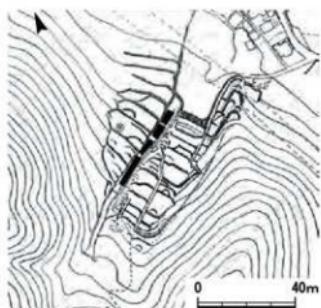
1 はじめに

八木城跡は、南丹市八木町と亀岡市千代川町に所在する、室町時代の丹波守護代内藤氏の居城として著名な山城跡である。京都府下で最大級の規模を誇り、山頂の主郭をはじめ、広範囲に多数の曲輪を配する。これまでに八木城跡北東山麓が京都縱貫自動車道建設に伴い発掘調査され（第1・2次調査）、一説では、大手口といわれる「天神口」や武家屋敷地が検出されている。なお下層で古墳時代の須恵器窯が確認されている。

調査は令和3年4月2日から5月19日まで実施し、調査面積は59m²、調査にあたっては南丹広域振興局農林商工部森づくり振興課の協力を得た。

2 調査の成果

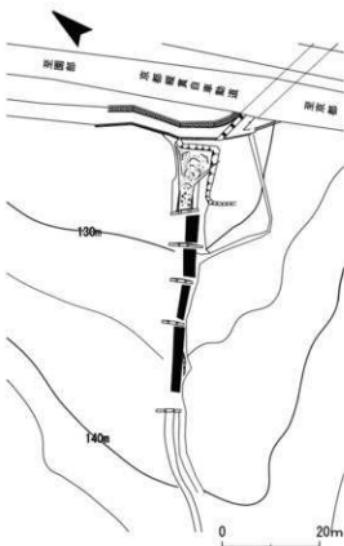
周知の埋蔵文化財包蔵地内で、治山工事の予定地、八木城跡への登り口となっている付近に4つの調査区を設定し、遺構・遺物の有無を確認した。



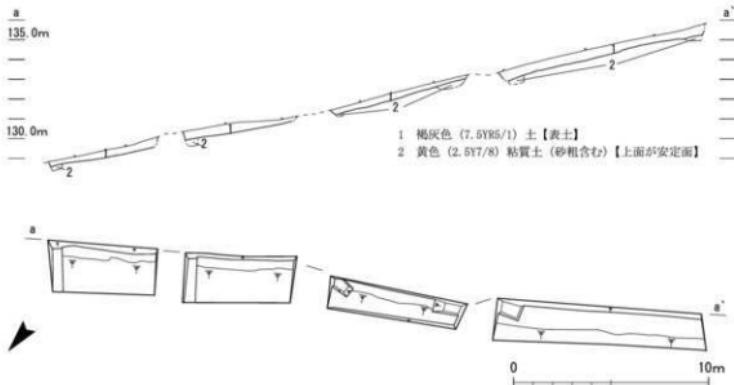
第75図 調査地と付近の縄張り図
(1/2,000 高橋成計作図に加筆)



第74図 八木城跡調査地位置図
(国土地理院 1/25,000 「亀岡」)



第76図 調査区配置図(1/1,000)



第 77 図 調査区平面・断面図(1/250)

基本層序として、表土下0.2mの深さで安定面(2層上面)を確認した。遺構・遺物は確認できなかった。各調査区でさらに下層の確認のために断ち割りを行ったが、下層で安定面を確認することができなかった。また、各調査区の一部では安定面が確認できたが、大部分が攪乱を受けており、包含層や遺構はすでに削平されていた。

3 おわりに

今回の調査では、大部分が削平を受け、その後、流土によって埋没していた状況を確認した。調査区の一部で安定面が確認できたことから、周辺に関しては遺構が残っている可能性が高く、今後、近接地での開発行為に際しては、適切な対応が必要となる。

(北山大熙)

参考文献

財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター1992『京都府埋蔵文化財情報』第44冊

財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター1994『京都府遺跡調査概報』第54冊

[8] 平安京跡（左京一条三坊三町）試掘・確認調査

1 はじめに

調査地は京都市上京区萩之内町内に所在し、京都府都府廳旧本館の東側に位置する。隣接地において平成30・31年度に公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターによって発掘調査が実施され、平安時代から幕末までの遺構が1,485基検出された。^(注1) 調査は令和3年3月18日から4月2日まで実施し、調査面積は83m²である。調査にあたっては総務部府有資産活用課及び府埋文センターの協力を得た。

2 調査の成果

今回の調査は、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターが調査を実施した調査範囲の南東隅に隣接した地点で発掘調査を実施した（第79図）。

（1）基本層序

これまでの調査によって安定面は大きく3層に分けられている。第1面は幕末から近代にかけての遺構検出面、第2面は安土・桃山時代から江戸時代中期の遺構検出面、第3面は平安時代から室町時代にかけての遺構検出面である。今回の調査では、第3面で遺構検出を行った。

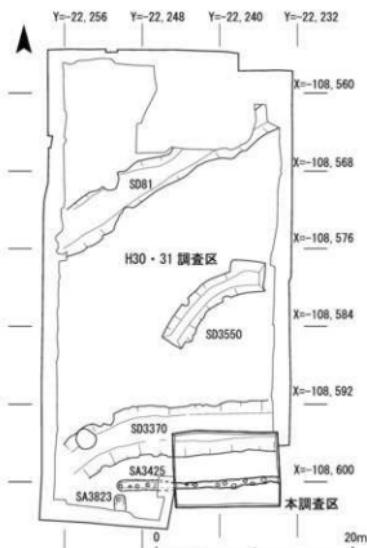
（2）検出遺構

今回検出した遺構については平成30・31年度に調査された遺構に接続するものであるため、すでに報告された遺構番号に準拠する。

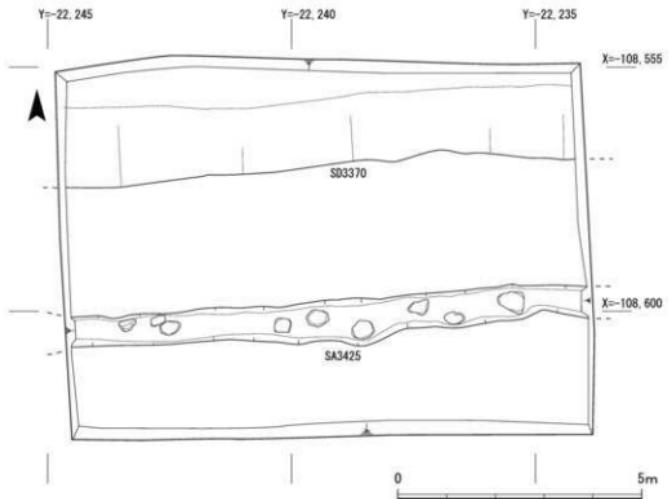
柱列SA3425 調査区中央部で検出した東西方向の布堀りの柱列である。検出長は10.5m、幅0.9mであり、深さは1.2mを測る。前年度調査において西側4.3m分が検出されており、計約15m以上の柱列となる。今回の調査区内では、東端を検出できなかったことから、さらに東に続くものと考えら



第78図 平安京跡調査位置図
(国土地理院 1/25,000「京都東北部」)



第79図 調査区配置図(1/500)



第80図 調査区平面図(1/100)

れる。床面では9基の礎石とを確認した。埋土中から15世紀末から16世紀初頭の土師器皿(第81図1～3)が出土した。

(3) 出土遺物

1～3は土師器皿である。柱列S A3425下層より出土している。15世紀末から16世紀初頭の遺物である。他にも土師器の小片が多く出土している。



第81図 出土遺物実測図(1/4)

3 おわりに

今回の調査では、前年度までに検出された遺構の続きを検出し、さらに東側に広がっていくことを確認することができた。平成30・31年度に検出されたS A3823を含めると、堀などの構築物が想定され、今後、周辺の調査成果をふまえて検討していく必要がある。

(北山大熙)

注1 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 2021『京都府遺跡調査報告書』第182冊

5 和束井手線防災・安全交付金事業関連遺跡 令和3年度発掘調査報告

京都府教育委員会では、府建設交通部が進める和束井手線防災・安全交付金事業に係る埋蔵文化財の取扱いについて同部道路管理課と協議を行い、埋蔵文化財の保護と同事業との調整を図っている。府道拡幅工事に伴い、事業地内における埋蔵文化財泡蔵地に対し、やむを得ず本調査の必要な部分については、京都府教育委員会が発掘調査を実施した。

令和3年度の調査組織は以下のとおりである。

《調査組織》

調査主体 京都府教育委員会

調査責任者 京都府教育庁指導部文化財保護課長 森 正
調査担当者 京都府教育庁指導部文化財保護課記念物係 課長補佐兼係長 藤井 整
主 査 奈良 康正
技 師 北山 大熙

調査事務局 京都府教育庁指導部文化財保護課



1 : 大堀遺跡 2 : 飯田遺跡 3 : 尾ノ山遺跡 4 : 大堀遺跡 5 : 上井手遺跡 6 : 小玉岩古墳群 7 : 玉津丘神社裏神社古墳群
8 : 水無遺跡 9 : 山緑古墳群 10 : 井手寺跡 11 : 桜木遺跡 12 : 西高月遺跡 13 : 石橋瓦窯跡群 14 : 野神遺跡 15 : 宮ノ本遺跡
16 : 植田遺跡 17 : 稲木道跡 18 : 間田池瓦窯跡 19 : 間田遺跡 20 : 南開道跡 21 : 弥勒古墳群 22 : 井手城跡

第 82 図 調査対象遺跡及び周辺遺跡位置図(国土地理院 1/25,000 「田辺」)

かやのき 柏ノ木遺跡（第15次調査）

1 はじめに

柏ノ木遺跡は、綴喜群井手町の西部、木津川右岸の河岸段丘上に位置する。周知の埋蔵文化財包蔵地である井手寺跡は古くから円堤寺(井堤寺)跡と称され、山背大兄王が創建したのち橘諸兄が再建し、のちに氏寺として伝えられる。大正年間には一辺5m、高さ1mの土壇がみつかり、これまでの調査によって雨落ち溝や掘立柱建物跡などが検出されている^(注1)。また、昨年、寺域東限の隣接地での発掘調査によって一辺15mの塔基塗跡を検出するなど大きな話題となった^(注2)。

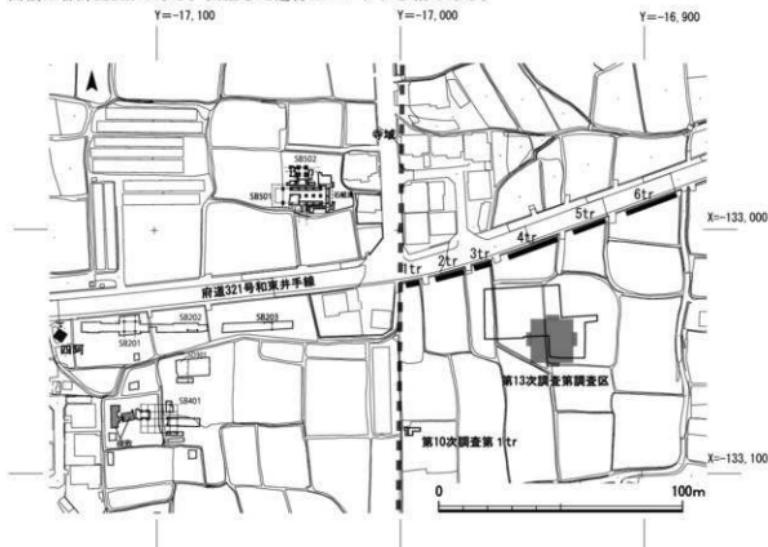
今回の発掘調査地は、綴喜郡井手町大字井手小字宮ノ前他に位置しており、発掘調査は昨年度検出された塔跡の北側で実施した。調査期間は令和3年7月14日から8月31日までである。今回の調査にあたっては、京都府山城北土木事務所をはじめ井手町教育委員会には多大なご協力をいただいた。

なお、調査及び報告刊行に係る費用は、すべて京都府建設交通部が負担した。

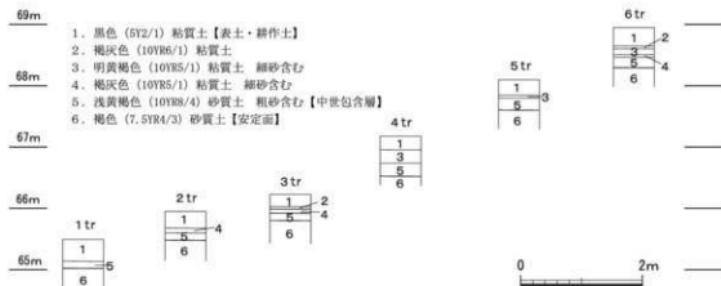
2 調査の概要

(1) 調査の概要と基本層序

今回の調査では幅1.5~2mの長方形のトレンチを府道321号線に沿って、6箇所に設定した。調査面積は合計135m²である。出土した遺物はコンテナ5箱である。



第83図 調査区配置図(1/2,000)



第84図 各トレンチ土層柱状図(1/80)

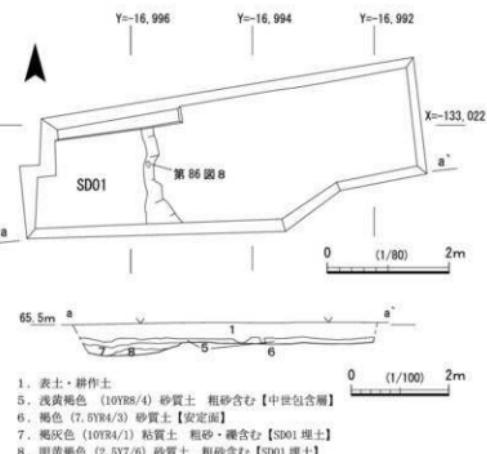
基本層序は、表土・耕作土である黒色粘質土(第1層)を除去すると褐灰色粘質土(第2層)が堆積し、近世遺物を含む明黄褐色粘質土(第3層)や褐灰色粘質土(第4層)が堆積している。さらに下層にはわずかではあるが、中世遺物を含む浅黄褐色砂質土(第5層)がすべてのトレントレンチで確認できた。この第5層を除去すると、安定面となる褐色砂質土(第6層)となる。第6層を一部断ち割ったが、遺物等は出土しなかった。

(2) 第1トレントレンチ

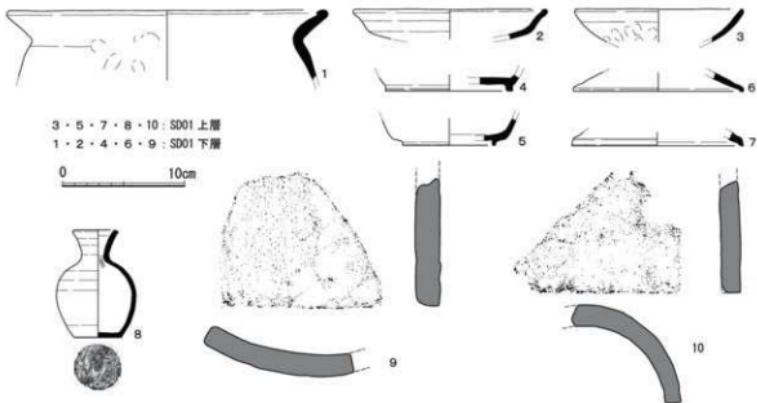
第1トレントレンチは、今回の調査地の中で西端に位置し、推定寺域の東限に隣接する部分である。井手町教育委員会が南側を調査した際には、北に延びる溝が確認されている(第10次調査第1 tr)。

1) 検出遺構

溝SD01 調査区西半部で検出した。南北方向に延びる雨落ち溝と推定される。南北の検出長は1.6m、幅は2.2mであり、最大深度は0.25mを測る。埋土は上層が褐灰色粘質土、下層が明黄褐色砂質土である。SD01の東肩部では完形の須恵器瓶子(第86図8)が出土している。上層・下層とともに瓦や土器類が多く出土している。出土遺物から溝は8世紀から9世紀ごろにかけて機能していたものと想定できる。



第85図 第1トレントレンチ平面図・断面図(1/80・1/100)



第 86 図 出土遺物実測図(1/4)

2)出土遺物

1～3は土師器である。1は壺の口縁部である。2は杯Aで、口縁部がやや外反し、端部が内側に肥厚する。4～8は須恵器である。4・5は杯Bの身である。4は高台が底部の端につき、5は、底部内側より高台が貼り付けられている。6・7は杯Bの蓋である。6・7ともに口縁部付近まで屈曲がない。8は瓶子である。高台はなく、底部は糸切り痕が確認できる。9・10は瓦である。凹面には布目痕が残る。凸面は縄タタキ痕の上からナデを施している。溝 S D01では多くの瓦が出土しているが、軒丸・軒平瓦は確認できず、平瓦のみである。

時期は8世紀から9世紀にまとまっており、上記で述べたように上層・下層(7・8層)で時期的な隔たりは確認できなかった。

(3)第2～6トレンチ

第2～6トレンチでは、いずれも遺構・遺物は検出されなかつたが、安定面を確認することができた。

3 まとめ

今回の調査では、小規模ながら、第1トレンチでは南北に延びる溝を検出することができた。また、瓦以外に多くの土器が出土したことによって機能した時期を特定できることや、隣接地で検出された塔跡に付属する遺構が検出されなかつた点は井手寺跡の復元にとって大きな成果といえるだろう。

(北山大熙)

注1 井手町教育委員会 2014「井手寺跡発掘調査報告書(2～10次調査)」「京都府井手町文化財調査報告書」第15集

注2 公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 2021「栢ノ木遺跡 第13次調査(現地公開資料)」

6 令和2・3年における埋蔵文化財の発掘調査

[1] 令和2・3年の動向

令和2年度の京都府内における周知の埋蔵文化財包蔵地の件数は約18,000件（令和3年4月1日）であり、同年度、埋蔵文化財包蔵地において実施された土木・建築工事等に際して提出された文化財保護法第93・94条に基づく届出・通知は、付表9のとおり3,476（令和元年度：3,589）件であった。これは、前年度と比較すると113件の減少となっている（前年比約97%）。法第94条に基づく通知は、わずかに減少しているにすぎないが、法第93条に基づく届出は、それに比して大きく減少しており、民間開発に鈍化が認められる。昨年度から見られた減少傾向にさらに拍車がかかっている状況である。

民間の土木・建築工事等に伴う法第93条の届出は3,219（令和元年：3,291）件で、減少数は72件（前年比約97.8%）である。内訳件数は、京都市1,619件、乙訓地域690件、山城地域420件と、この3地域が上位を占める状況は例年のとおりである。3地域の届出件数の合計は2,729件となり、府内全体の約85%となる。この3地域の内、京都市を除き届出件数は減少しており、山城地域での減少率が目立っている。この他、丹後・中丹・南丹地域でも減少傾向が見て取れるが、中丹・南丹地域がそれぞれ202件、195件と微減（前年比約98%）であるのに対し、丹後地域のみ33件（前年比約77%）となり、減少幅が大きかった。

一方、公共事業に係る土木・建築工事に伴う法第94条の通知は、平成14年の318件をピークに、平成20年度には177件とおおむね半減した。平成24年度から平成26年度にかけては230件前後で推移していたが、平成27年度に257件とわずかながら増加した。平成28年度には236件と再び減少に転じたが、平成29年度以降、令和元年度のかけ前年比10%程度の増加傾向を示していた。しかし、再び令和2年度には減少へと転じ、257件（前年比約86%）となった。

府内の埋蔵文化財専門職員（財團法人調査機関の職員含む）は、平成7年の206人をピークに市町村合併や、定年退職に伴う新規採用の抑制等により減少傾向にある。令和2年4月1日における府内の専門職員の配置数は145名（公益財團法人・嘱託職員等含む）であり、配置は24市町（組合）のうち17市町で、昨年度からの配置に変動はなく、配置率はおよそ71%である。現状で未配置は7市町（組合）に及んでおり、域内の文化財の保存・活用を適切に行うための施策を講じる必要がある。

令和3年度に、文化庁の国庫補助を受け、京都府をはじめとして、府内の17市町において発掘調査等事業を実施している。事業内容は、域内の埋蔵文化財の範囲内容を確認する詳細分布調査、開発に対応する緊急発掘調査及び史跡等の保存・整備に伴う調査等である。また、同じく国庫補助事業である地域の特色ある埋蔵文化財活用事業は、京都府、向日市において実施されている。京都府では、当課職員の解説により小学校高学年児童を対象に、丹後地域及び乙訓地域の史跡等を巡る「文化財1dayバスツアー」を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、昨年度に引き続き事業を中止し、府内の遺跡・史跡を巡る際の参考となるガイドブックを刊行した。この他に、公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センターへの委託事業として、普及啓発事業を実施した。また、

同事業を実施している向日市においても、感染拡大防止の観点から事業内容を見直し、規模の縮小や中止など必要な措置を講じるなど、埋蔵文化財を通じて地域の歴史・文化財に親しんでいただく機会が大きく損なわれている。

令和3年11月には、文化庁から「道路事業に伴う発掘調査の位置づけと発掘調査費用について」とする報告がなされた。これは、大規模公共事業に先立って実施される発掘調査の実態について、国土交通省行政事業レビュー公開プロセスにおいて、有識者から、埋蔵文化財調査経費等について削減に向けた効率化の指摘を受けたことに起因するものである。検証の過程において、発掘調査は、文化庁が示した「行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準（報告）」や同庁監修の『発掘調査の手引き』に準拠し、府県が作成した調査基準に則って適正に実施されており、積算についても、文化庁から示された「埋蔵文化財の本発掘調査に関する積算標準について」に基づき、府県が策定した「積算基準」により適切な方法でなされていることが確認された。しかし、国土交通省に対し調査内容・経費支出について十分な資料提供がなされていない事例も散見されたと報告されている。発掘調査の実施に際しては、事業者に対しその目的、方法、意義等を丁寧に説明することは言うに及ばず、調査経費をはじめとする適正な負担につき理解が得られるよう、説明責任を果たすことが必要である。

京都府が設立した公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センターは、設立以来、府内各所で開発事業の施工に先立ち1,000件以上の発掘調査を実施してきており、府内の埋蔵文化財の保存と活用に大きな役割を果たしている。令和3年度は、22件の発掘調査等を実施した。丹後地域では、国土交通省による一般国道312号大宮峰山道路延伸事業や、丹後土木事務所が実施する府道の新設等に先立つ調査、中丹地域では国土交通省が実施する一般国道9号夜久野改良事業や、一般国道27号西舞鶴道路事業、中丹西土木事務所が実施する府道の新設等に伴う調査、南丹地域では農林水産省近畿農政局が進める国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」に伴う調査や、南丹土木事務所が実施する府道の新設、河川整備に先立ち調査を実施し、それぞれにおいて重要な成果を得ている。また、乙訓地域では乙訓土木事務所が実施する府道の拡幅事業に伴い、さらに、山城地域では、国土交通省による国道24号寺田拡幅事業及び西日本高速道路株式会社が進める新名神高速道路建設事業等の大型公共事業に伴う調査や、井手町新庁舎建設事業に先立つ調査、及び山城北土木事務所が実施する河川整備事業等に先立ち調査を実施しており、多くの成果が得られている。通常であれば、これらの成果について、府民に広く還元することを目的に現地説明会を実施するが、今年度についても、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ほぼ全ての発掘調査で開催することを見送らざるを得なかった。しかし、感染状況を勘案しつつ実施することが可能となった井手町栢ノ木遺跡や京丹後市佐屋利遺跡などでは、多くの地元の方々の参加を得ることができた。埋蔵文化財に対する地元の方々の興味・関心の高さを改めて確認することができ、一日も早い從来どおりの対応への復旧が強く望まれる。

また、当教育委員会からの委託による「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」として、令和元・2年度に府内で実施された発掘調査成果の連報展示「発掘された京都の歴史2021」及び、企画展示「かつて京都に火山灰が降ったころ」を開催した。8月3日から25日にかけて向日市文化資料館、9月4日から15日にふるさとミュージアム山城（京都府立山城郷土資料館）、9月22日から10月10日

ふるさとミュージアム丹後（京都府立丹後郷土資料館）にて巡回展示される予定であったが、新型コロナウイルス感染防止に伴う緊急事態措置に伴い、ふるさとミュージアム山城では当該期間中が臨時休館とされたため中止となり、ふるさとミュージアム丹後においても、同様に9月30日まで臨時休館措置が執られたことにより開催期間が短縮されることとなった。そうした状況においても、期間中には1,351名の参加を得た。また、体験学習として実施した勾玉づくりには74名の参加が得られた。この他に、発掘調査成果を府民に広く公開し、活用することを目的に埋蔵文化財セミナーを開催しており、令和3年6月に「丹後中世寺院の実態－日本海をめぐる文物－」をテーマに舞鶴市において、令和3年11月に「京都最古の狩人たち－後期旧石器時代前半の遺跡を中心に－」をテーマに福知山市において、また、令和4年2月には「都をつくる 恽仁宮と長岡京」と題して長岡京市で計3回実施され、248名の参加を得た。

ふるさとミュージアム山城・丹後においても、府内の発掘調査の成果についての講演会や展示などを開催している。ふるさとミュージアム山城では、令和3年10月16日から11月28まで、秋の特別展として「南山城最後の前方後円墳－坊主山古墳・長池古墳とその時代－」を開催した。また、令和3年7月に「恭仁宮中心部の解明を目指して－ 第100・101次調査の成果から－」、10月に「共存する2つの勢力 長池古墳・芝山古墳群と久津川古墳群」、11月に「古墳と葬送儀礼－南山城の古墳時代－」、令和4年1月に「上野遺跡・稚児野遺跡の旧石器時代－京都府北部を中心に－」、2月に「城陽市小樋尻遺跡の大溝－「果限の大溝」を考える－」と題した文化財講演会を実施した。また、令和3年7月17日には、当課の史跡恭仁宮跡保存活用調査と連携し、山城管内の中学生以上を対象に恭仁宮発掘探検隊を実施し、21名の参加を得た。一方、ふるさとミュージアム丹後では、令和3年6月1日から6月20日まで、企画展「黄金の大刀発掘40年 湯船坂2号墳細見」を開催した。これにあわせ、令和3年6月に「古墳に埋められた龍の飾り大刀」、「湯船坂2号墳からわかったこと」と題した文化財講演会を実施した。

（奈良康正）

[2] 府内の主な発掘調査

令和3年1月から12月にかけて行われた主な発掘調査の成果について、時代ごとに概観する。

①旧石器時代・縄文時代

福知山市稚児野遺跡では、後期旧石器時代前半の石器が約500点出土した。昨年度の調査分と合わせると約1,200点の石器が出土しており、京都府内では最多の旧石器が出土した遺跡となった。また、石器は姶良丹沢火山灰の下層から出土しており、その型式から約36,000年前の年代観が与えられ、京都府内で最古の旧石器である。調査では近畿地方で2例目となる環状ブロックが見つかっており、京都府の旧石器時代史を書き換える重要な成果となった。

②弥生時代

向日市長岡京跡左京第631次調査ではL字形の溝が見つかった。遺物は出土していないが、方形周溝墓の可能性が高い。溝は約7m分が残存していた。京丹後市佐屋利遺跡では、弥生時代中期の集落跡が見つかり、堅穴建物3棟や複数の溝が検出された。建物近くの溝からは大型石包丁2点が重なった状態で出土した。石包丁は通常の2倍程度の長さを有しており、祭祀に使用された可能性を考えられる。また、絵画土器が出土している。

③古墳時代・飛鳥時代

京都市北区植物園北遺跡では、飛鳥時代の堅穴建物1棟が見つかった。一辺約4mの隅丸方形で周囲に壁溝を伴う。内部からは、主柱穴4基、竈、土坑、間仕切り溝などが検出された。向日市寺戸大塚古墳では、東側くびれ部で調査が実施された。くびれ部については削平により外装施設は残存していないなかつたが、後円部側では葺石や礫敷が確認された。長岡京跡左京第631次調査では古墳時代前期の流路が見つかった。流路からは杭、矢板、側板や古式土師器が出土した。なお、この流路の下層からは縄文土器の小片も出土している。八幡市木津川河床遺跡では、古墳時代前期と飛鳥時代の堅穴建物計3棟が見つかった。木津川河床遺跡で飛鳥時代の遺構が見つかったのは初めてである。飛鳥時代の堅穴建物からは鉄滓が出土しており、鍛冶工房であった可能性がある。また、古墳時代後期の屈曲する溝が検出されており、古墳の周溝である可能性が考えられる。城陽市芝山古墳群では、古墳時代中期から後期の古墳7基が見つかった。その内、1基からは舶載方格規矩八禽鏡が出土した。また、別の1基からは蛇行剣2本が出土した。蛇行剣が出土したのは京都府内では3例目で、山城地域では初の事例である。これまでの芝山古墳群の調査と合わせて総数37基の古墳が確認され、古墳時代前期末から後期にわたって継続した古墳群であるこ



稚児野遺跡全景

とが明らかとなった。史跡久津川車塚古墳では、東側くびれ部においてテラス部分が確認され、埴輪列が見つかった。くびれの屈曲部からは赤色顔料が施された朝顔形埴輪が出土しており、埴輪を樹立する際の定点とされていたと推測される。京田辺市天理山古墳群では、前方後円墳2基と前方後方墳1基が確認された。最大規模を誇る3号墳は全長81mに復元され、埴輪列が確認された。また、前方部裾部からは埴輪棺も出土した。見つかった古墳は京田辺市内で最大級の前方後円墳であり、この地域の首長墓の系譜を考える上で重要な成果となった。

④奈良時代

城陽市芝山遺跡では、奈良時代の掘立柱建物8棟が見つかった。これまでの調査と合わせると104棟の掘立柱建物が見つかったことになり、古代の北陸道に設けられた駅家やその周辺の集落跡の様相が明らかとなった。井手町栢ノ木遺跡では井手寺跡の東側隣接地において、塔の基壇跡と基壇に取り付く階段、雨落溝、石敷などが見つかった。基壇は東西15.3m、南北15.1mのほぼ正方形に復元され、残存高は約0.7mを測る。その規模から五重塔の基壇であった可能性が考えられる。基壇外装は乱石積基壇で、礎石は削平により失われていたが基壇の中央付近から鎮壇具とみられる銭貨17枚が出土した。調査では、軒瓦を含む大量の丸瓦・平瓦が出土したほか、鬼瓦、施釉線刻垂木先瓦、二彩陶器、風招などが出土した。遺構や遺物の状況から、調査地は井手寺の塔院であったと考えられる。出土した瓦には奈良時代のものと平安時代前期のものがあることから、当初は橘諸兄によって創建され、その後、嵯峨天皇の皇后となった橘嘉智子や右大臣橘氏公によって改修されたと推測される。木津川市史跡春仁宮跡では、朝堂院区画の北東隅で掘立柱塀を確認し、朝堂院の規模が確定した。一方で、大極殿院回廊については、北東隅で足場穴が見つかったが、朝堂院との接続部分では遺構は検出されなかった。

⑤長岡京期

向日市久々相遺跡では、長岡京の東一坊大路延長道路西側溝が見つかった。同様の側溝は周辺の調査でも見つかっており、その成果を追認することとなった。長岡宮跡第538次調査では、東一坊大路西側溝が見つかった。調査地は長岡宮の東面南門の想定位置であったが、その遺構は確認されなかった。長岡京跡左京第631次調査では、北京極大路の南北側溝が見つかった。溝はいずれも幅約1mあり、2つの溝間の距離は約9.5mを測る。左京第646次調査では、東二坊坊間小路の両側溝が



栢ノ木遺跡基壇跡

見つかった。溝は延長約7.6m分を検出した。左京第647次では、掘立柱建物1棟が見つかった。建物は2間×3間以上の規模であり、南側に庇を設ける。柱穴は不整形な方形で一辺0.6～0.9m、庇の柱穴は一辺0.55～0.6mを測る。柱間は2.3～3.0mである。左京第648次調査では、三条大路北側溝と東二坊大路西側溝が見つかり、その交差状況が判明した。三条大路北側溝は幅1.1～1.6m、深さ0.2～0.3mを測り、延長約12m分を確

認した。東二坊大路西側溝との交差部分では、幅が狭くなり溝底が上昇している状況が確認された。東二坊大路西側溝は幅1.5m、深さ0.3～0.45mを測り、延長45m分を検出した。三条大路北側溝との交点より南では溝が西に寄っていることが確認された。左京第650次調査では、一条条間小路の南北側溝が見つかった。側溝は延長7m分を検出し、溝心間の距離は約8.0mである。通常の小路幅は約9.0mであり、調査地付近では路面幅が部分的に狭くなっていたことが明らかとなった。左京第653次調査では、北一条大路の両側溝が見つかった。北側溝は幅約1.0m、深さ約0.2m、南側溝は幅約1.5m、深さ約0.6mで、南側溝のほうが規模が大きい。両側溝の距離は約24mである。長岡京市長岡京跡左京第634次調査では、五条大路の南北側溝と東二坊坊間西小路の東西側溝が見つかった。五条大路の両側溝は幅約1.0mで、延長15m分を検出



乙訓寺推定門跡柱穴

した。また南側溝を切る土坑からは長岡京期の土師器、須恵器、土馬、墨書き土器などが出土した。東二坊坊間西小路の両側溝は幅約0.7mで、延長15m分を検出した。右京第1240次調査では西二坊坊間小路の東側溝が見つかった。溝は幅約1mを測り、調査区内で約27m分が検出された。右京第1241次調査では、西一坊大路の東側溝と掘立柱建物が見つかった。側溝は幅約1.3m、深さ約0.25mを測り、調査区内で延長29.4m分を確認した。掘立柱建物は2×5間以上の西側に庇を持つ南北棟である。庇の柱穴は側溝に並行する溝に切られていることから、建物は長岡京造営に伴って建てられ、その後建物が壊されて宅地内溝が掘削された可能性が考えられる。調査では円面硯や「十」と書かれた墨書き土器が出土しており、近隣に所在した西市との関連が想起される。右京第1246次調査では、長岡京期の掘立柱建物2棟と柵列2条が見つかった。乙訓寺では、大型掘立柱建物と柵列が見つかった。建物の柱穴は一辺約1.4mの隅丸方形で、柱間は約3.0m(10尺)を測る。柵列は建物と同軸上で見つかっており、一連の遺構である可能性が高い。建物は乙訓寺の南門であると推測され、長岡京内でみつかる大規模な建物と柱間が共通している。大山崎町長岡京跡右京第1242次調査では、南北方向の溝が見つかった。位置から推測して、西一坊大路東側溝の可能性が高いと考えられる。

⑥平安時代

京都市上京区平安宮跡では、内裏の後宮に当たる地点で発掘調査が行われ、弘徽殿と登華殿の遺構が見つかった。平安宮内裏の後宮の遺構が確認されたのは初めてである。登華殿跡では平安京遷都当初とみられる建物柱穴が5基見つかった。柱間は約3.0mあり、長岡宮跡で見つかっている同殿相当の建物と規模・構造が近しいことから、移築された可能性がある。柱は全て抜き取りが行われており、9世紀から10世紀頃に礎石建物を作り替えられたと考えられる。また、登華殿の南西角では雨落溝とみられるL字形の石組溝も見つかった。南北11m、東西2.3mの範囲で底石や縁石の列が確認された。礎石建物に伴って設けられた溝であると考えられる。弘徽殿に関わる遺構としては、渡り廊下

の礎石の可能性がある2石が見つかったほか、平安時代中・後期に建物を開っていたとみられる東西溝と南北溝も確認された。中京区平安京右京二条三坊十町跡では、平安時代初期の中下級貴族の邸宅とみられる遺構が見つかった。調査では、宅地を区画する南北溝や東西溝が検出されたが、町内の中心線からずれており、変則的な区画が行なわれていたことがわかった。右京区平安京右京四条四坊三町跡では、平安時代前期の道祖大路の西側溝、中期の道祖川の流路が見つかった。道祖川は西岸が検出され、過去の調査で見つかっている東岸と合わせて川の規模が明らかとなった。また、平安時代前期から中期にかけて、道祖大路が道祖川へと変遷する様相が明らかとなった。この調査では平安時代中期から鎌倉時代初頭の柱穴900基以上も見つかった。柱穴の配置から大型の掘立柱建物2棟が復元でき、藤原氏の荘園である「小泉荘」に関連する建物であるとみられる。右京区平安京右京六条三坊一町跡では、平安時代前期の樋口小路の路面及び両側溝が見つかった。出土遺物から、側溝は9世紀初頭に掘削され、9世紀末から10世紀初頭に埋没したとみられる。また路面は幅約5.5mで、「延喜式」の規定より狭く施工されたことが判明した。また路面では砾敷きも見つかった。10世紀には耕作溝が掘られ、菴所化することも判明した。南区国史跡西寺跡では、北僧坊と講堂をつなぐ廊下である「北軒廊」の基壇が見つかった。基壇は壇上積基壇であり、6石の凝灰岩が組まれた状態で出土した。また、北僧坊では礎石抜き取り跡5基が見つかった。今回見つかった遺構から、東寺の伽藍配置と近似していることが判明し、西寺の伽藍復元がさらに進んだ。

⑦鎌倉時代・室町時代

京都市中京区平安京左京三条三坊十町跡では、鎌倉時代の庭園の可能性がある落ち込み遺構、室町時代の瓦を多量に含む溝、礎石や庭石を含む溝、戦国時代の礎石建物などが見つかった。調査地は、鎌倉時代には御所である押小路殿、室町時代には二條家の邸宅である二条殿が所在しており、見つかった遺構はこれらに関連するものであるとみられる。右京区一ノ井遺跡では、鎌倉時代前半の掘立柱建物、土坑、井戸等が見つかった。土坑からは土師器皿が大量に出土しており、地鎮などの遺構であると考えられる。また、南北朝時代から室町時代中期の建物2棟、土坑、井戸なども見つかっている。調査地は広隆寺旧境内の南東に位置し、広隆寺に関連する遺構の可能性が考えられる。向日市長岡京跡左京第650次調査では、中世の廐棄土坑2基が見つかった。一方は直径約4.5mの大型土坑で、もう一方は直径約1.9mを測る。各土坑からは瓦器、瓦質土器、東播系須恵器の破片が大量に出土した。宇治市白川金色院跡では、鎌倉時代初頭と室町時代の池が見つかった。また、礎石とみられる石も複数確認された。室町時代には、僧房があったとされる地点であり、周辺に遺構が良好な状態で残っていると考えられる。八幡市木津川河床遺跡では、平安時代後期から鎌倉時代初頭の井戸が見つかった。井戸は直径約5mの六角形の掘方を持っており、一辺約1.2mの縦板横桟組の木製の井戸である。京丹後市佐屋利遺跡では、掘立柱建物2棟や自然流路が見つかった。自然流路からはしがらみ状の遺構が見つかり、流路を利用している様子が明らかとなった。

⑧戦国時代

京都市下京区御土居跡では、御土居の濠を幅約9m、長さ約16mに渡って検出した。隣接地の過去の調査と合わせると、濠の幅は約13mに及ぶことがわかった。また、濠からは慶長丁銀の極印た

がねが出土した。東山区方広寺跡では、方広寺大仏殿の南築地壇に伴う礎石2基が見つかった。礎石に残された矢穴の形から秀吉期の遺構であると考えられ、この時期の「太閤塀」の遺構が確認されたのは初である。現存する三十三間堂の太閤塀は秀賴期のものとされるが、礎石の間隔からみて、秀吉期の太閱塀はこれよりも規模が大きかったとみられる。山科区山科本願寺跡では、山科本願寺に関する堀、掘立柱建物、土取穴、地下室等が見つかった。堀は2条見つかっており、約10mの間隔を開けて東西方向に並行している。近隣の調査では別の堀が見つかっており、複数条の堀が巡っていたことが想定される。また、堀が埋め戻された後に成立した遺構には土坑や地下室があり、これらの埋土には焼土や炭が混じることから、山科本願寺が焼失した際の遺構であるとみられる。伏見区伏見城跡では、指



伏見城跡石垣基礎

月城期と木幡山城期の遺構が見つかった。木幡山城期の遺構としては、南北方向の石垣と側溝、門跡などを検出した。調査地は浅野長晟の屋敷地であったと推測され、検出した遺構は屋敷の西端を区画する石垣であると考えられる。これらとは別に、東西方向の石垣も検出した。この石垣は、木幡山城期の石垣に壊されていることや遺構の方位が異なることから、指月城期に遡る遺構と考えられる。これまで指月城の北限は立壳通と推定されてきたが、それより北側に指月城期の遺構が広がることが確定となった。また、同一面で木幡山城期と指月城期の石垣遺構が検出されたのは初めてのことであり、伏見城の変遷を考えるうえで重要な成果となった。

⑨近世・近代

京都市上京区上京遺跡では、江戸時代前期の遺構から椀型溝、銅の地金、埴堀や鉄型などが出土した。鋳造・鍛冶に関連する工人の存在がうかがえる。また、江戸時代中期の整地面では石組溝が見つかった。当時の絵図から、公家の勧修寺家の屋敷境界の溝であると考えられる。京都市下京区御土居跡では、江戸時代前期に構築された御土居が見つかった。調査地周辺では、渉成園の造成に伴い17世紀中頃に御土居の付け替えが行われたことが絵図から推測されており、それを裏付ける調査成果となった。同じ調査では、高瀬川から水路を引き込んだ七条舟入の護岸も見つかっており、江戸時代後期から明治時代にかけて3時期2回の造り替えが行われていることが判明した。八幡市木津川河床遺跡では、幅約7mの水路とそれに並行する2本の溝が見つかった。溝の間には約4mの間隔があり、道路遺構であると考えられる。今回の調査地から100m南の地点で行われた過去の調査でも同様の遺構が見つかっており、これらは京街道から石清水八幡宮へと通じていた「御幸道」の遺構である可能性が高くなかった。南丹市園部城跡では、幕末から明治初期頃とみられる石組溝が見つかった。同時期に整備された園部城の側溝であるとみられる。調査地は大手門近くに位置しており、大手門本体の遺構が残存していることも期待される。

(岡田健吾)

付表9 平成30～令和2年度埋蔵文化財専門職員及び埋蔵文化財包蔵地数市町村別一覧

年度等 市町村	30				1				2				周知の 埋蔵文化財 包蔵地
	職員	嘱託	財團職員	小計	職員	嘱託	財團職員	小計	職員	嘱託	財團職員	小計	
京都府	10		28	38	10		32	42	10		32	42	
京都市	12		45	57	12		37	49	12		37	49	1,393
京丹後市	4			4	3			3	3			3	6,248
伊根町				0				0				0	19
与謝野町	1	1		2	1	1		2	1	1		2	1,716
宮津市	3			3	3			3	3			3	334
舞鶴市	2	1		3	2			2	2			2	875
福知山市	2			2	2			2	2			2	1,721
綾部市	1			1	1			1	1			1	1,378
亀岡市	2	1		3	2			2	2			2	1,249
南丹市	1			1	1			1	1			1	884
京丹波町				0				0				0	130
向日市	1		5	6	1	1	5	7	1	1	5	7	95
長岡京市	2	1	7	10	1	1	8	10	1	1	8	10	170
大山崎町	2			2	2			2	2			2	33
宇治市	4	3		7	3	4		7	3	4		7	305
久御山町				0				0				0	9
城陽市	1			1	1	1		2	1	1		2	231
八幡市	1	1		2	3	1		4	3	1		4	169
京田辺市	1			1	3			3	3			3	263
宇治田原町				0				0				0	87
井手町		1		1				0				0	103
木津川市	3	2		5	3			3	3			3	453
精華町				0				0				0	105
和束町				0				0				0	23
笠置町				0				0				0	7
南山城村				0				0				0	10
合計	53	11	85	149	54	9	82	145	54	9	82	145	18,000

※周知の埋蔵文化財包蔵地の件数については、公開された遺跡地図により把握したものである。

※各市町村欄には、市町村単位での周知の埋蔵文化財包蔵地数を示し、合計欄にその総計を示している。

※埋蔵文化財専門職員とは埋蔵文化財に関する専門的な知識や経験をもって、埋蔵文化財行政に係る職務に従事するものと示している。

付表10 令和2年度埋蔵文化財関係届出・通知件数市町村別一覧

市町村		土木工事による発掘			埋蔵文化財発掘調査			文化財認定
		届出	通知	計	届出	報告	計	
丹後	京丹後市	21	2 (1)	23 (1)	6	0	6	3
	伊根町	0	0	0	0	0	0	0
	与謝野町	3	0	3	0	3	3	6
	宮津市	9	1	10	0	2	2	1
	小計	33	3 (1)	36 (1)	6	5	11	10
中丹	舞鶴市	50	4	54	0	1	1	1
	福知山市	131 (16)	21 (5)	152 (21)	2	6	8	4
	綾部市	21 (1)	2 (1)	23 (2)	0	1	1	1
	小計	202 (17)	27 (6)	229 (23)	2	7	9	6
南丹	亀岡市	152 (20)	5 (1)	157 (21)	4	0	4	2
	南丹市	40	0	40	0	1	1	0
	京丹波町	3	0	3	0	0	0	0
	小計	195 (20)	5 (1)	200 (21)	4	1	5	2
乙調	向日市	212 (8)	19	231 (8)	11	11	22	17
	長岡京市	375 (26)	20	395 (26)	23	1	24	18
	大山崎町	103 (6)	3	106 (6)	0	6	6	7
	小計	690 (40)	42	732 (49)	34	18	52	42
山城	宇治市	90 (5)	14	104 (5)	0	3	3	2
	久御山町	13	0	13	0	0	0	0
	城陽市	48 (2)	8 (2)	56 (4)	4	4	8	6
	八幡市	113 (8)	14 (1)	127 (9)	0	7	7	3
	京田辺市	86 (16)	4 (1)	90 (17)	0	0	0	0
	宇治田原町	9	1 (1)	10 (1)	1	0	1	0
	井手町	2	2 (2)	4 (2)	0	0	0	1
	木津川市	50	7	57	0	0	0	0
	精華町	9 (2)	2	11 (2)	0	0	0	0
	和束町	0	0	0	0	0	0	0
	笠木町	0	0	0	0	0	0	0
	南山城村	0	0	0	0	0	0	0
	小計	420 (33)	52 (7)	472 (40)	5	14	19	12
京都市		1,679 (175)	128 (16)	1,807 (191)	31	115	146	24
合計		3,219 (285)	257 (31)	3,476 (325)	82	161	243	96

※()内は発掘調査を指示した件数である。

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和3年度）

付表 11 土木工事等による発掘届出・通知件数一覧

年度 地域	29	30			1			2		
		届出	通知	小計	届出	通知	小計	届出	通知	小計
丹後	26	28	10	38	43	10	53	33	3	36
中丹	106	152	31	183	207	49	256	202	27	229
南丹	239	294	4	298	198	11	209	195	5	200
乙調	814	842	67	909	810	45	855	690	42	732
山城	346	397	30	427	451	44	495	420	52	472
京都市	1,608	1,717	119	1,836	1,582	139	1,721	1,679	128	1,807
合計	3,139	3,430	261	3,691	3,291	298	3,589	3,219	257	3,476

付表 12 埋蔵文化財発掘調査届出・報告件数一覧

年度 地域	29	30			1			2		
		届出	報告	小計	届出	報告	小計	届出	報告	小計
丹後	11	5	7	12	4	10	14	6	5	11
中丹	15	1	16	17	4	14	18	2	8	10
南丹	19	2	6	8	3	4	7	4	1	5
乙調	32	24	6	30	40	9	49	34	18	52
山城	26	10	20	30	4	22	26	5	14	19
京都市	164	48	172	220	43	144	187	31	115	146
合計	267	90	227	317	98	203	301	82	161	243

付表 13 埋蔵文化財認定件数一覧

年度 地域	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2
丹後	12	3	3	2	3	2	6	8	10	13	10
中丹	4	2	5	2	7	5	2	13	4	12	6
南丹	7	8	5	6	11	4	4	4	2	8	2
乙調	43	42	38	46	32	46	35	36	27	35	42
山城	25	25	23	25	21	13	18	26	28	26	12
京都市	101	53	61	63	41	39	37	31	44	50	24
合計	192	133	135	144	115	109	102	118	115	144	96

付表14 令和3年度埋蔵文化財国庫補助事業一覧

事業主体	発掘調査等		地域の特色ある埋蔵文化財活用事業 事業内容等
	事業名	内容等	
京都府	府内調査	各種開発確認、農業基盤整備本調査、保存目的、詳細分布調査等、史跡内容確認、出土遺物保存処理	普及啓発冊子作成、展覧会、講演会、台帳作成、体験学習
京都市	市内調査	各種開発確認、個人住宅、零細企業、保存目的、史跡内容確認、詳細分布調査等	
向日市	市内調査	各種開発確認、個人住宅、史跡内容確認、詳細分布調査等、出土遺物保存処理	体験学習、広報資料作成、台帳作成
長岡京市	市内調査	各種開発確認、保存目的、詳細分布調査等	
大山崎町	町内遺跡	各種開発確認、保存目的、詳細分布調査等	
宇治市	市内遺跡	各種開発確認、保存目的	
城陽市	市内遺跡	各種開発確認、史跡内容確認、出土遺物保存処理	
八幡市	市内調査	各種開発確認	
京田辺市	市内遺跡	各種開発確認	
木津川市	市内遺跡	各種開発確認、史跡内容確認、詳細分布調査等	
井手町	町内遺跡	各種開発確認、詳細分布調査等	
亀岡市	市内遺跡	各種開発確認、農業基盤整備本調査	
南丹市	市内遺跡	各種開発確認	
綾部市	市内遺跡	保存目的、農業基盤整備本調査	
福知山市	市内遺跡	各種開発確認、出土遺物保存処理	
宮津市	市内遺跡	各種開発確認	
京丹後市	市内遺跡	各種開発確認、保存目的	
与謝野町	町内遺跡	各種開発確認	

付表 15 令和3年度（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター委託事業等一覧

番号	遺跡名	所在地	委託者	事業内容
1	小桶尻遺跡ほか	城陽市	国土交通省京都国道事務所	道路建設事業
2	下水主遺跡ほか	城陽市	西日本高速道路株式会社	道路建設事業
3	美濃山遺跡	八幡市	西日本高速道路株式会社	整理等作業
4	春日部遺跡ほか	亀岡市	近畿農政局	圃場整備事業
5	稚児野遺跡	福知山市	国土交通省福知山河川国道事務所	道路建設事業
6	幾坂東古墳群ほか	京丹後市	国土交通省福知山河川国道事務所	道路建設事業
7	菖蒲谷口遺跡	舞鶴市	国土交通省福知山河川国道事務所	道路建設事業
8	上野遺跡ほか	京丹後市	丹後土木事務所	道路建設事業
9	川向遺跡ほか	京丹後市	丹後土木事務所	整理等作業
10	佐屋利遺跡・新町遺跡	京丹後市	丹後土木事務所	道路建設事業
11	外村遺跡	京丹後市	丹後土木事務所	道路建設事業
12	鶴尾遺跡	京丹後市	丹後土木事務所	道路建設事業
13	犬飼遺跡・法貴北古墳群	亀岡市	南丹土木事務所	道路建設事業
14	犬飼遺跡	亀岡市	南丹土木事務所	河川改修
15	長岡京跡・開田遺跡	長岡京市	乙訓土木事務所	道路建設事業
16	別当稻泉遺跡	福知山市	中丹西土木事務所	道路建設事業
17	大岩原遺跡・堂後遺跡	宇治田原町	山城北土木事務所	整理等作業
18	木津川河床遺跡	八幡市	山城北土木事務所	堤防整備事業
19	木津川河床遺跡	八幡市	流域下水道事務所	施設建設事業
20	栢ノ木遺跡	井手町	井手町	整理等作業
21	宇治市街遺跡	宇治市	京都府警察	施設建設事業
22	平安京跡	京都市	府有資産活用課	整理等作業
23	普及啓発	-	府教育委員会	普及啓発事業

【普及啓発】

1 刊行図書

- 『京都府遺跡調査報告書』第181・182・183・184冊
 『京都府埋蔵文化財情報』第139・140号
 『もっと知りたい 京都の遺跡』第9・10号

2 埋蔵文化財セミナー・シンポジウム

- 第146回「丹後中世寺院の実態 日本海をめぐる文物」
 令和3年6月26日（土）於：舞鶴市西公民館
 竹村亮仁「舞鶴市満願寺跡の発掘調査－中世寺院と貿易－」
 松崎健太「舞鶴市松尾寺仁王門の発掘調査成果」
 河森一浩「宮津市成相寺と丹後の中世寺院」
 第147回「京都最古の狩人たち－後期旧石器時代前半の遺跡を中心に－」
 令和3年11月27日（土）於：ハビネスふくちやま
 中川和哉「後期旧石器時代前半の日本列島」
 面 将道「京丹後市上野遺跡の発掘調査」
 黒坪一樹「福知山市稚兒野遺跡の発掘調査」
 第148回「都をつくる－恭仁宮と長岡京－」
 令和4年2月26日（土）於：長岡京市中央生涯学習センター
 桐井理揮「恭仁宮跡の最新発掘成果」（京都府教育委員会）
 松井 忍「長岡京の大路に面した宅地の調査」
 中島皆夫「近年発見された長岡京内の大規模宅地について」

3 展覧会・体験講座

- 発掘された京都の歴史2021「かつて京都に火山灰が降ったころ－3万6千年前の京都－」
 令和3年8月7日～29日 於：向日市文化資料館
 令和3年10月1日～10月10日 於：府立丹後郷土資料館
 夏休み考古学体験教室「勾玉をつくろう」
 令和3年8月17日～19日 於：公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター研修室

5 共同研究・単独研究

- 面 将道・中川和哉「北部九州における瀬戸内技法の流入時期について」
 加藤雄太「中世丹後の土器・陶磁器」
 高野陽子「擬凹線文土器様式の成立と展開」
 肥後弘幸・吹田直子・三好博喜・高野真衣・面 将道・菅 博絵・竹村亮仁・武本典子・
 大石雅興・中尾真琴「府内の遺跡・史跡見学者への利便性向上」
 嶋山正人「中世石造物の研究」
 竹村亮仁・引原茂治・山本 梢「環日本海貿易の検討－若狭湾沿岸を中心に－」
 荒木瀬奈「丹波地域の後期古墳出土玉類について」

付表16 令和2年度発掘調査報告書等刊行状況

【報告書等】

- ・「京都府埋蔵文化財調査報告書 令和2年度」京都府教育委員会 令和3年3月「恭仁宮跡 上ヶ市道路 梅ノ木原道路、北野台道路、法貴玲古墳群 千代川遺跡 鳥苑寺（金閣寺）庭園 奈具遺跡 矢田遺跡 瓜生野古墳群 菊窓菴生産道路群 福知山城跡 本津川河床道路」
- ・「金毘羅山古墳発掘調査報告書」京都府教育委員会 令和3年3月
- ・「京都府道跡調査報告書」第18編 公益財團法人京都府理藏文化財調査研究センター 令和3年3月「満願寺跡第2次発掘調査報告」「新名神高速道路整備事業関連道路平成27～29、令和元年度発掘調査報告（保安塚 長井野塚 堀田遺跡第1・2次、移川古墳 奥城土道路、押宝寺跡第3次）」
- ・「京都市内道路発掘調査報告書 令和2年度」京都文化市民局 令和3年3月（平安京左京一条三坊十一町跡、旧三条城跡／西寺跡、平安京右京九条一坊十三町跡、唐橋道路／特別史跡、特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園／植物園北道路／北白川庵寺、上野町道路／北白川庵寺、土蔵道路／山科本願寺跡、鳥羽羅宮跡）
- ・「京都市内道路詳記分布調査報告書 令和2年度」京都市文化市民局 令和3年3月（平安宮部落院、史跡平安宮跡、風瑞道路／平安京左京跡、烏丸御池道路、烏丸九条道路／平安京右京跡、唐橋道路／特別史跡、特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園、史跡貢布神社境内、史跡賀茂御祖神境内（下鴨神社）、植物園北道路／室町殿跡（花の御所）、上京遺跡、白河街区跡、如意寺跡、西谷道路、山科本願寺跡（寺内町道路）、史跡本願寺跡及び山科本願寺跡南側、中臣道跡、安藤醍醐寺跡、長岡京跡、東土川道路、淀城跡、周山城跡）
- ・「京都市内道路発掘調査報告書 令和2年度」京都市文化市民局 令和3年3月（平安宮跡（太政官御所跡）、聚楽道路、平安京跡、烏丸御池道路、烏丸町道路、御土居跡、西ノ京遺跡、西御路、衣田町道路、白河南殿跡、白川街区跡、法勝寺跡、岡崎道路、史跡南禅寺境内、大宅庵寺跡、長岡京跡、東土川道路、三条大路跡）
- ・「令和2年度 重要遺跡出土文化財整理報告」京都府文化市民局 令和3年3月
- ・「京都市理藏文化財研究所発掘調査報告書」2020-6 公益財团法人京都府理藏文化財研究所 令和3年2月「富ノ森城跡」
- ・「京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告」2020-5 公益財团法人京都府理藏文化財研究所 令和3年1月「平安京右京一条四坊二、七町跡」
- ・「京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告」2020-4 公益財团法人京都府理藏文化財研究所 令和2年12月「平安京右京五条四坊六町跡、西京極道路」
- ・「京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告」2020-3 公益財团法人京都府理藏文化財研究所 令和2年12月「平安京左京四条四坊十二、十三町跡 富小路跡」
- ・「京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告」2020-2 公益財团法人京都府理藏文化財研究所 令和2年12月「平安京右京九条二坊四、五町跡 伊豫鐵跡」
- ・「京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告」2020-1 公益財团法人京都府理藏文化財研究所 令和2年9月「宗町殿跡、上京道路」
- ・「京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告」2019-14 公益財团法人京都府理藏文化財研究所 令和2年6月「法住寺殿跡」
- ・「京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告」2019-13 公益財团法人京都府理藏文化財研究所 令和2年7月「百羽、五条板窯跡（道仙窟）」
- ・「京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告」2019-12 公益財团法人京都府理藏文化財研究所 令和2年6月「白河街区跡、吉田上大路町道路」
- ・「京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告」2019-10 公益財团法人京都府理藏文化財研究所 令和2年4月「平安京左京八条三坊一町跡、東本願寺跡古墓群」
- ・「史跡西寺跡発掘調査結果報告書」京都府文化市民局 令和3年3月
- ・「指月城跡、伏見城跡発掘調査結果報告書」京都市文化市民局 令和3年3月
- ・「前市理藏文化財調査報告書」第118集 公益財团法人前市理藏文化財センター 令和2年9月「長岡宮跡第519次（7ATENB-4地区）～宮内一条条間小路、朝堂院北西官衙、北辺官衙（南部）～堀柵調査報告／長岡宮跡第520次（TANEHI-9地区）～第二次内裏堀渠東内裏下道路～堀柵調査報告書／長岡宮跡第523次（TANEAC-7地区）～朝堂院北官房～堀柵調査報告／長岡宮跡第524次（TANDYR-4地区）～朝堂院北東官衙、森本道路～堀渠東道路～堀柵調査報告／長岡京跡左京第594次（TANEMD-3地区）～二条条間小路、左京二条二坊五、六町～堀柵調査報告／長岡京跡左京第598次（TANKEZ-8地区）～左京三条一坊五町、西小路道路中央部～堀柵調査報告／西ノ京道路第5次（2NNAYD-5地区）～西ノ京道路中央部～堀柵調査報告」
- ・「前市理藏文化財調査報告書」第120集 公益財团法人前市理藏文化財センター 令和3年3月「長岡宮跡第534次（TANDST-8地区）～北辺官衙（南部）、森本道路～堀柵調査報告／長岡宮跡第535次（TANBMC-14地区）～北辺官衙（北部）、南垣内道路～堀柵調査概要／長岡京跡左京第616次（TANDTD-8地区）～東二坊大路、左京一条三坊二町～堀柵調査報告／長岡京跡左京第629次（TANFKW-12地区）～東二坊大路、左京一条三坊二町～堀柵調査報告／長岡京跡左京第631次（TANDND-11地区）～北京大路、左京北一条二坊五町～堀柵調査概要／長岡京跡左京第1210次（TANBNO-12地区）～右京北一条二坊二町、宝善院寢魔寺～堀柵調査報告／長岡京跡左京第1216次（TANBNO-13地区）詳細分佈調査第2001-0112-049次（TANBNO-4地区）～北一条条間小路、右京北一条二坊二町～宝善院寢魔寺～堀柵調査報告／長岡京跡右京第1225次（TANBNO-14地区）～右京北一条二坊二町、宝善院寢魔寺～堀柵調査報告／長岡京跡右京第1236次（TANFYS-3地区）～右京三条一坊六町～堀柵調査報告／長岡京跡右京第1237次（TANBNO-14地区）～右京北一条二坊二町、宝善院寢魔寺～堀柵調査報告／長岡京跡右京第1238次（TANBNO-14地区）～右京北一条二坊二町、宝善院寢魔寺～堀柵調査報告／長岡京跡右京第1239次（TANBNO-14地区）～右京北一条二坊二町、宝善院寢魔寺～堀柵調査報告」
- ・「民間京都市文化財調査報告書」第76冊 公益財团法人民間京都市理藏文化財センター 令和3年3月「乙調寺第28次調査概要～長岡京跡右京第1230次（TANBIR-13地区）調査一、長岡京跡右京第1232次（TANJKS-5地区）調査概要～長岡京跡右京第1233次（TANJKS-6地区）調査概要～長岡京跡右京第1234次（TANJKS-7地区）調査概要～長岡京跡右京第1235次（TANJKS-8地区）調査概要～長岡京跡右京第1236次（TANJKS-9地区）調査概要～長岡京跡右京第1237次（TANJKS-10地区）調査概要～長岡京跡右京第1238次（TANJKS-11地区）調査概要～長岡京跡右京第1239次（TANJKS-12地区）調査概要～長岡京跡右京第1240次（TANTUT-3地区）調査報告」
- ・「大山崎町埋蔵文化財調査報告書」第59集 大山崎町教育委員会 令和3年3月「山城国府跡第26次（7XYST-3地区）調査報告／長岡京跡右京第1204次（TANTUT-3地区）調査報告」
- ・「大山崎町埋蔵文化財調査報告書」第60集 大山崎町教育委員会 令和3年3月「長岡京跡右京第1212次（TANSSR-9地区）調査報告／長岡京跡右京第1214次（TANSYS-8地区）調査報告／長岡京跡右京第1218次（TANSYE-3地区）調査報告」
- ・「大山崎町埋蔵文化財調査報告書」第77集 大山崎町教育委員会 令和3年3月「山城国府跡第77次調査報告」
- ・「堀城跡理藏文化財調査報告書」第79集 嶺陽市教育委員会 令和3年3月
- ・「八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書」第67集 八幡市教育委員会 令和3年3月「馬場道路（第11次）調査報告書」
- ・「八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書」第68集 八幡市教育委員会 令和3年3月「今里道路発掘調査報告書」
- ・「木津川市埋蔵文化財調査報告書」第24集 木津川市教育委員会 令和3年3月「神護寺跡（馬場南北道路）出土遺物報告／吐御道路第6次調査報告／木津川道路第16次調査報告／出屋敷道路第3次調査報告／内山田道路第8次調査報告」
- ・「亀岡市文化財調査報告書」第99集 亀岡市教育委員会 令和3年3月「市内道路発掘調査報告書 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」」

関係遺跡発掘調査一部遺跡第18次（令和元年度）一】

- ・「亀岡市文化財調査報告書」第100集 亀岡市教育委員会 令和3年3月「市内遺跡発掘調査報告書 篠塚産業遺跡群駒馬ヶ谷窑窓跡群試掘調査」
- ・「亀岡市文化財調査報告書」第101集 亀岡市教育委員会 令和3年3月「駒馬ヶ谷8号窯跡発掘調査報告書」
- ・「福知山市文化財調査報告書」第73集 福知山市地域振興部、文化・スポーツ振興課 令和3年3月「段ノ田遺跡（伝東寺跡）」
- ・「宮津市文化財調査報告書」第46集 宮津市 令和3年3月「宮津天橋立の文化的景観 文化的景観調査報告書（宮津地区、袖船町）」
- ・「令和2年度弓削町国庫補助事業発掘調査報告書」弓削町教育委員会 令和3年3月「鳴谷道路発掘調査（第2次） 大風呂南埴群発掘調査（第5次）」
- ・「イビック京都都市内遺跡調査報告書」第24報 株式会社イビック関西支店 令和3年3月「平安京左京三条二坊二町跡、櫛川御池道路・職物町における理磁文化財発掘調査報告書」
- ・「平安京左京六条四坊八町跡」京都市下京区松原通堀東入る杉屋町 288-1～3 289-1・2 他の発掘調査 株式会社四門 令和2年8月
- ・「平安京左京二条三坊四町跡発掘調査報告書」株式会社文化財サービス 令和2年8月
- ・「福知寺古墳内、上野御遺跡発掘調査報告書」株式会社文化財サービス 令和2年9月
- ・「上久世遺跡発掘調査報告書」株式会社文化財サービス 令和2年11月
- ・「平安京左京九条三坊八町跡、烏丸町跡発掘調査報告書」株式会社文化財サービス 令和2年12月
- ・「平安京左京六条三坊六町跡烏丸小路跡発掘調査報告書」株式会社文化財サービス 令和2年12月
- ・「平安京左京一条三坊六町跡発掘調査報告書」株式会社文化財サービス 令和3年1月
- ・「平安京右京六条二坊二丁町跡発掘調査報告書」株式会社文化財サービス 令和3年3月
- ・「名勝皆精院庭園保存修理事業報告書」宗教法人能本山智積院 令和3年3月
- ・「龍谷大学文学部考古学實習調査報告書」第1冊 龍谷大学文学部考古学実習室 令和3年3月「上中城跡の研究」
- ・「扶主山古墳群出土品報告書」奈良大学文学部文化財学科 奈良大学考古学研究調査報告書第25巻 令和2年9月

【雑誌】

- ・「京都府埋蔵文化財情報」第138号 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 令和2年8月「綱体大王と南山城」（小池 寛）／共同研究「丹波地域における瓦器陶の地域性」（山本 桂・引原茂治）／研究ノート「根四線文土器模様の解体－浅後谷式の再検討－」（柳井理揮）「古墳落成馬後次の環状埴（竹原一彦）」「名村威那」／資料紹介「法寺跡出土の甲冑について」（加藤雅士・山本尚人）／令和元年度発掘調査略報「川向遺跡 第2次・川向南古墳群」（竹原一彦）「溝頭寺跡第2次」（竹村亮仁）「萬葉谷口遺跡」（黒坪一樹）「大御道跡第4次」（尾崎裕記）「大洞遺跡第3次」（山本 桂）「金生寺道跡第5次」（荒木灑奈）「平安京左京一乗寺坊三町」（加藤雅士）「長岡京跡 有京第1201次・開田跡」（黒坪一樹）「美山遺跡第9次」（増田孝彦）「小鶴尾遺跡第8次」（岩松 保）「小鶴尾遺跡第9次」（岩松 保）「水主神社遺跡第12次」（小泉哲）「水主神社道跡第13次」（加藤雅士）
- ・「京都府埋蔵文化財情報」第139号 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 令和3年3月「松井横穴群出土の人骨資料」（岡崎健治）／共同研究「屋外排水渠をもつ堅穴式・弥生時代後期の男山一帯丘陵腰壁を中心にして」（小池 寛・畠田孝彦・川上晃生）／研究ノート「西外古墳群の研究」（中川）「柳井理揮・栗田正子・木村結香」「米系土器にみる初期古墳の成立基盤—城陽市芝・京古墳墓群の背景—」（高木陽子）「近世土師小窓『つまづ』の検討」（加藤雅士）／令和2年度発掘調査報告「金生寺道跡第5・7次」（柳井理揮）「金生寺道跡第8次」（山本 桂）「法貴幹20号墳第2次」（荒木灑奈）「大洞遺跡第6次」（三好博喜）「大洞遺跡第7次」（松井 忍・柳井理揮）「大洞遺跡第8次」（引原茂治）
- ・「京都府文化財保護調査研究紀要」第4号 京都市文化財保護課 令和3年3月「(京都府内出土の木製農耕具・弥生時代・古墳時代の織物類を中心として)」（黒原雅希子）／「京都出土中国陶磁器の形・質・割合とその背景(2-1) -白磁分類への問題提起」（赤松佳奈）
- ・「令和元年度向日市埋蔵文化財センター年報」都城32 令和2年12月 公益財団法人向日市埋蔵文化財センター「鴨鳴道路と馬場遺跡」（松崎俊郎）
- ・「長岡京市埋蔵文化財センター年報 令和元年度」長岡京市埋蔵文化財センター 令和3年3月「埋蔵文化財センターの概要と事業報告／長岡京市右京域の萬兆」（右京第1180次調査概報／右京第1191次調査概報／右京第1192次調査概報／右京第1193次調査概報／右京第1194次調査概報／右京第1195次調査概報／右京第1196次調査概報／右京第1197次調査概報／右京第1198次調査概報／右京第1199次調査概報／右京第1202次調査概報／右京第1203次調査概報／右京第1206次調査概報／右京第1208次調査概報／右京第1209次調査概報／右京第1211次調査概報）／「長岡京跡左京域の萬兆」（左京大613次調査概報）／「長岡京域外の萬兆」（海印寺跡第6次調査概報／土山遺跡第2次調査概報）／「立会調査」
- ・「古代社会研究報告」第16編 公益財団法人古代学会 令和2年6月「石作窯・小脇窑発掘調査報告—平安期経緋陶器・綠釉瓦生産の多分野協働研究—」（石井清司・市川 順）
- ・「京都大学構内遺跡調査研究年報 2019年度」京都大学大学院文学研究科付属文化遺産室・人文知識構センター・京大文化遺産調査活用部門 令和3年2月「京都府河街区跡・延喜寺跡・岡道跡の発掘調査II」（千葉 豊ほか）
- ・「大阪歴史博物館研究紀要」第19号 大阪歴史博物館 令和3年3月「大阪歴史博物館所蔵の今熊野鬼瓦瓦經関係資料—山根忠太郎旧蔵の拓本と瓦絵片—」（加藤後吾）
- ・「京都府立大学文学部歴史学科 フィールド調査集報」第7号 京都府立大学文学部歴史学科 令和3年3月

【図録等】

- ・「乙訓・西園の要～勝鏡寺城～」公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター 令和2年7月
- ・「難乱の世から太平の世へ 戰國を乗り越えた人々のくらし」公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 令和2年12月
- ・「丹波決戦と本能寺の変」亀岡市文化財料館 令和2年10月

付表17 令和2年度埋蔵文化財発掘調査届出・報告一覧

(92条に基づく届出)

番号	道路名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
1	芝山遺跡・芝山古墳群	城陽市富野北ノ芝・中ノ芝	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	中川和哉・竹原一彦・竹村亮仁・横井理揮・曾博綜・加藤雄太・大石雅興・矢野昌史	令和2年5月7日～令和3年2月26日
2	下水主道路	城陽市水主大將軍地内ほか	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	村田和弘・石井清司・加藤雅士	令和2年5月28日～令和2年12月17日
3	水主社東道路・小鶴尻遺跡	城陽市寺田金尾・大畔・鳥垣内・富野久保田地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	高野陽子・岩松保・小泉裕司・岡崎研一・矢野昌史・矢石雅興・中尾真琴	令和2年4月28日～令和3年3月4日
4	小鶴尻遺跡	城陽市富野久保田・寺田鳥垣内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	村田和弘・福山博章・岩松保・石井清司・岡崎研一・三好博喜・荒木灑奈	令和2年4月20日～令和3年3月2日
5	平安京跡	京都市下京区四条通慈照町西入立花町28番2	公益財団法人京都府埋蔵文化財研究所	鈴木康高	令和2年3月23日～令和2年6月12日
6	長岡京跡・伊賀寺道跡	長岡京市下海印寺下内田、岸ノ下の各一部	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	岩崎誠・山本輝雄	令和2年4月13日～令和2年5月29日
7	新町道路・佐屋町道路	京丹後市峰山町新町から荒山地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	中川和哉・竹原一彦	令和2年7月6日～令和3年2月26日
8	大洞遺跡・法貴北古墳群	亀岡市曾我部町法貴郷大洞川、亀岡市壬生佐雀25-15、6-1、6-7	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	村田和弘・尾崎裕紀・三好博喜	令和2年5月14日～令和3年1月6日
9	平安京跡	京都市中京区壬生朱雀町25-15、6-1、6-7	古代文化調査会	板谷桃代	令和2年5月27日～令和2年8月13日
10	稚児野遺跡	福知山市夜久野町井田地先	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	中川和哉・黒坪一樹・面若道	令和2年6月1日～令和3年2月8日
11	平安京跡	京都市中京区西洞院通夷川下る栗町64番、同区夷川通西洞院東入泉町661番3	株式会社文化財サービス	菅田 真	令和2年5月8日～令和2年6月19日
12	長岡京跡・馬場道路	長岡京市馬場川原46番の一部	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	山下 稔	令和2年5月13日～令和2年6月1日
13	長岡京跡・宝菩提院発発寺	向日市寺戸町西野35-3、35-5、35-6	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	梅本康広	令和2年5月11日～令和2年5月15日
14	平安京跡・唐橋遺跡	京都市南区唐橋大宮尻町22ほか	公益財団法人京都府埋蔵文化財研究所	李 錠眞・布川豊治	令和2年4月2日～令和2年8月14日
15	鳥部(辺)野隣接地	京都市東山区五条橋東6-520	公益財団法人元興寺文化財研究所	佐藤恵理	令和2年5月11日～令和2年5月21日
16	平安京跡・西院道路	京都市右京区西院西寿町28番地	株式会社イビック	佐藤好司	令和2年5月28日～令和2年8月31日
17	長岡京跡	長岡京市天神五丁目102、102-1ほか	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	原 秀樹	令和2年5月28日～令和3年7月6日
18	平安京跡・西京塗道路	京都市右京区西院安塚町99番地1	公益財団法人京都府埋蔵文化財研究所	布川豊治	令和2年5月12日～令和2年6月9日
19	長岡京跡・森本道路	向日市森本町下森本9番、29番1の各一部、29番3	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	中島信親	令和2年6月15日～令和2年6月25日
20	平安京跡	京都市下京区西洞院通花屋町下る西洞院町466番ほか	国際文化財株式会社	長林 大	令和2年6月15日～令和2年10月15日

令和2・3年における埋蔵文化財の発掘調査

番号	道路名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
21	上野道路	京丹後市丹後町上野 440 番地北西隣接地、444 番地、451 番地	南山大学考古学研究所	上峯篤史	令和2年8月17日～令和3年3月31日
22	長岡京跡・今里道路	長岡京市井ノ内下田畠9番1の一部、9番2の一部	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	山下一穂	令和2年7月13日～令和2年9月23日
23	長岡京跡・今里道路	長岡京市井ノ内下田畠6番、市有地	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	山下一穂	令和2年7月13日～令和2年9月23日
24	金生寺道路・春日部道路・法貴寺古墳群	亀岡市曾我部町法貴コモ原はか	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	村田弘弘・引原茂治・黒坪一樹・桐井理輝・荒木綱奈・山本 梓・松井忍・名村威彦・尾崎裕紀・三好博嘉・大石雅典・矢野昌史	令和2年5月18日～令和2年12月23日
25	平安京跡	京都市右京区花園本辻北町1-1はか	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	小柳山一良	令和2年7月6日～令和2年8月21日
26	長岡京跡・閑田道路	長岡京市閑田二丁目10-10、10-10-36はか	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	原秀樹	令和2年8月3日～令和2年10月6日
27	犬御道路	亀岡市曾我部町法貴二ノ坪	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	村田和弘・名村威彦	令和2年6月1日～令和2年10月29日
28	長岡京跡・閑田城／内道路	長岡京市長岡二丁目118-1、118-5	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	岩崎誠・山本輝雄	令和2年7月29日～令和2年10月11日
29	平安京跡・烏丸町道路	京都市南区東九条京町48	株式会社文化財サービス	大西晃精	令和2年7月15日～令和2年9月15日
30	長岡京跡・友岡道路	長岡京市友岡四丁目212-1の一部	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	中島哲夫	令和2年7月27日～令和2年8月17日
31	犬御道路	亀岡市曾我部町犬御通羅	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	村田弘弘・引原茂治・三好博喜	令和2年9月15日～令和2年10月29日
32	白河街区路・吉田上大路町道路	京都市左京区吉田通衛町26番地53はか	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	松永修平	令和2年7月13日～令和2年12月19日
33	長岡京跡	向日市森本町13、15、15-7、22	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	中島信親	令和2年8月17日～令和2年8月26日
34	平安京跡・烏丸続小路道路	京都市下京区烏丸通松原下る五条烏丸町401番2、不明門通松原下ル吉水町449番3、松原通烏丸東入る南側後町439番1、441番	株式会社文化財サービス	菅田 薫	令和2年8月3日～令和2年12月25日
35	長岡京跡・閑田道路	長岡京市神足三丁目218-1	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	大高義寛	令和2年9月1日～令和2年9月30日
36	長岡京跡・宝善院焼寺	向日市寺戸町西野3番1	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	梅本康広・田原葉月	令和2年8月27日～令和2年9月9日
37	平道跡	京丹後市丹後町平	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	中川和哉・面 道	令和2年9月28日～令和2年10月29日
38	上久世道路	京都市南区上久世上久世町419番地	株式会社文化財サービス代表取締役	山内伸浩	令和2年8月5日～令和2年8月31日
39	平ヶ岡古墳群	京丹後市峰山町田坂・丹波	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	高野陽子・名村威彦	令和2年9月28日～令和3年1月22日
40	鴨田道路・長岡京跡・中福知道跡	向日市上植野町桑原1-1、4-1、5-1、6-3	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	松崎俊郎	令和2年9月7日～令和2年9月18日
41	平安京跡・烏丸町道路	京都市南区東九条京町47番地の1・5・6	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	圓田麻衣子	令和2年8月21日～令和2年10月26日
42	長岡京跡・井ノ内道路	長岡京市井ノ内南内塙67番11	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	大高義寛	令和2年9月28日～令和2年12月15日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和3年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
43	長岡京跡圓通遺跡・弁天芝遺跡	長岡京市坐生北闇18番地(一部)	公益財團法人長岡京市埋蔵文化財センター	原 秀樹	令和2年10月5日～令和2年11月4日
44	長岡京跡圓通遺跡・弁天芝遺跡	長岡京市坐生北闇20番地(一部)	公益財團法人長岡京市埋蔵文化財センター	原 秀樹	令和2年10月5日～令和2年11月4日
45	長岡京跡・今里遺跡・乙訓寺	長岡京市今里三丁目地内	公益財團法人長岡京市埋蔵文化財センター	山下 研	令和2年10月12日～令和2年12月2日
46	後坂東古墳群・圓ノ宮城跡・若田古墳群・カシジガキ遺跡	京丹後市大宮町周辺地先	公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	高野陽子・竹村亮仁・名村修彦・大石雅興	令和2年11月4日～令和3年3月3日
47	長岡京跡・閑田城ノ内道路・十三道跡	長岡京市天神一丁目212～2	公益財團法人長岡京市埋蔵文化財センター	中島哲夫	令和2年10月19日～令和2年10月30日
48	長岡京跡・閑田遺跡	長岡京市閑田西丁目720番1	公益財團法人長岡京市埋蔵文化財センター	岩崎 誠	令和2年11月9日～令和2年12月4日
49	福泉遺跡	福知山市夜久野町今西中・井田	公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	中川尚哉・畠 将道	令和2年11月10日～令和3年1月31日
50	方広寺跡・六波羅政厅跡・法住寺跡	京都府東山区妙法院前御町431番地	古代文化調査会	板谷桃代	令和2年10月1日～令和2年11月7日
51	平安京跡	京都府中京区西ノ京伯楽町4～6・馬代町3～3	株式会社文化財サービス	望月麻佑	令和2年10月12日～令和3年1月31日
52	伏見城跡	京都府伏見区福島太夫北町52番地（京都市立伏竹総合支援学校）	公益財團法人京都府埋蔵文化財研究所	松吉祐樹・津々池豊一	令和2年10月5日～令和3年4月16日
53	六波羅政厅跡・法住寺跡・方広寺跡	京都府東山区西院町527京都国立博物館内	公益財團法人京都府埋蔵文化財研究所	小幡山一良	令和2年9月28日～令和3年5月27日
54	平安京跡	京都府右京区西院東中木町17・下京区西七条御前町4	株式会社文化財サービス	辰巳陽一・山内伸浩	令和2年10月5日～令和2年11月27日
55	長岡京跡	長岡京市神足3丁目15番地かた	公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	中川尚哉・増田孝彦・引原茂治・加藤康太・松井忍	令和2年12月14日～令和3年2月26日
56	長岡京跡・中福知道跡	向日市上植野町北淀井3～3	公益財團法人向日市埋蔵文化財センター	中島信親・松崎俊郎	令和2年10月26日～令和2年11月13日
57	長岡京跡・南垣内遺跡	向日市寺町南垣内4～4	公益財團法人向日市埋蔵文化財センター	田原葉月	令和2年11月25日～令和2年12月16日
58	長岡京跡	向日市上植野町山ノ下7～12	公益財團法人向日市埋蔵文化財センター	松崎俊郎	令和2年11月25日～令和2年12月3日
59	長岡京跡・友岡遺跡・伊賀寺跡	長岡京市友岡西畠9～1、9～3ほか	公益財團法人長岡京市埋蔵文化財センター	原 秀樹	令和2年12月1日～令和3年1月26日
60	堂後遺跡・大岩原遺跡	宇治田原町大字南地内	公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	村田和弘・加藤雅士・桐井理揮	令和2年12月11日～令和3年2月26日
61	長岡京跡	向日市森本町野田19～1、20～1、21～1、22～1	公益財團法人向日市埋蔵文化財センター	梅本康広・田原葉月	令和2年12月7日～令和3年3月26日
62	平安京跡	京都府右京区西院御町38番2、39番2、西院西淳和院町52番2	関西文化財調査会	平尾政幸・末次由紀恵	令和2年11月30日～令和2年12月25日
63	吉田町遺跡・吉田上大路町遺跡	京都府左京区吉田本町	京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知識携センター	千葉 雄	令和2年12月22日～令和2年12月26日
64	長岡京跡・雲宮遺跡	長岡京市神足堂ヶ内6～2、6～6、7～2、8～1、8～2、9・市有地（道路敷・水路敷）	公益財團法人長岡京市埋蔵文化財センター	大高義寛	令和2年12月14日～令和3年2月18日

令和2・3年における埋蔵文化財の発掘調査

番号	道路名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
65	三分井机道跡	京丹波市峰山町新町地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	中川尚哉・瀬 将進	令和3年2月1日～令和3年2月26日
66	長岡京跡	長岡京市下海印寺西明寺11-1ほか	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	岩崎 誠	令和3年2月1日～令和3年2月9日
67	長岡京跡関連遺跡・奥海印寺道跡	長岡京市奥海印寺野辺田17-1	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	中島晋夫	令和3年3月26日～令和3年3月4日
68	長岡京跡	向日市鶴冠町清水1-3、2、3	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	中島信親	令和3年1月26日～令和3年2月5日
69	富ノ森城跡	京都市伏見区横大路六反町(伏見区西部第五地区)	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	中谷正和・南 孝雄	令和2年12月21日～令和3年9月17日
70	室町殿跡・上京遺跡	京都市上京区岡松町255番	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	西田倫子	令和3年1月12日～令和3年3月15日
71	平安京跡・西院通跡	京都市右京区西院西寿町21番、21番1、21番4、22番1、21番2	株式会社文化財サービス	山内伸浩	令和3年1月29日～令和3年3月3日
72	平安京跡	京都市右京区西院春日町3番通1ほか(京都市立西院小学校)	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	李 錦真	令和2年12月14～令和3年6月30日
73	平安京跡・御土居跡	京都市下京区中堂寺南町130番1の一部	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	柏田有香・木下保明	令和3年1月18日～令和3年2月26日
74	平安京跡・西ノ京遺跡	京都市中京区西ノ京下合町19番地ほか	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	岡田麻衣子	令和3年1月12日～令和3年2月5日
75	平安京跡・衣田町道跡	京都市下京区西七条石井町8番地1ほか	株式会社文化財サービス	曾田 薫	令和3年2月4日～令和3年3月6日
76	長岡京跡	向日市上植野町下川原1番、1番3、12番1、29番8	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	松崎俊郎	令和3年2月15日～令和3年3月1日
77	長岡京跡・開田遺跡	長岡京市開田四丁目611-6	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	山下 研	令和3年2月24日～令和3年4月5日
78	平安京跡・唐橋遺跡	京都市南区唐橋平塚町45番	古代文化調査会	板谷純代	令和3年2月8日～令和3年4月28日
79	平安京跡	京都市中京区壬生朱雀町ほか地内	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	布川豊治・南 孝雄・内田好昭・柏田有香・中谷正和・李 錦真・鈴木康高・西田倫子・近藤奈央	令和3年1月12日～令和3年3月15日
80	下海印寺道跡	長岡京市奥海印寺駿河田9ほか	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	原 秀樹	令和3年3月1日～令和3年3月19日
81	奥海印寺道跡	長岡京市奥海印寺八戸木8番1、9番1、10番、11番の一部、12番1の一部、12番2の一部、13番3、14番3の一部、14番5の一部、15番1、16番1、市有地	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	大高義寛	令和3年3月22日～令和3年4月27日
82	一ノ井道跡	京都市右京区太秦頃内町3-7ほか	株式会社文化財サービス	望月麻佑	令和3年3月22日～令和3年4月21日

(99条に基づく報告)

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
1	平安京跡	京都市中京区壬生賀陽御所町49番、50番1	京都市文化市民局	黒井亮介	令和2年3月11日～令和2年3月12日
2	平安宮路・聚楽第跡・聚楽第跡	京都市上京区下立庵通賀光院西入下丸屋町498番地	京都市文化市民局	黒須恵子	令和2年3月23日
3	法勝寺跡・白河街区跡・岡崎跡	京都市左京区岡崎法勝寺町(京都市動物園)	京都市文化市民局	清水早穂	令和2年3月16日～令和2年3月18日
4	長岡京跡・雲宮道跡・櫛次道路	長岡京市東神足櫛次6-1	長岡京市教育委員会	大高義寛	令和2年3月23日
5	上奈良遺跡	八幡市奈良良小畠21-1、23-1、23-5、23-2、23-6、24-1	八幡市教育委員会	太田喬士・伊野近富	令和2年2月19日～令和2年2月20日
6	猪崎遺跡	福知山市字猪崎小字東束1150	福知山市教育委員会	松本学博	令和2年3月5日
7	長岡京跡・久保川道路	大山崎町宇円明寺小字里ノ後24-1、24-4、24-24-6	大山崎町教育委員会	原田早季子	令和2年4月2日～令和2年5月29日
8	平安京跡・鳥丸町道路	京都市南区東丸町48	京都市文化市民局	清水早穂	令和2年3月31日
9	平安京跡	京都市中京区西ノ京内町34番地	京都市文化市民局	清水早穂	令和2年4月1日
10	平安京跡・鳥丸城小路遺跡	京都市下京区東洞院通四条下る元應天子町51、46-1、46-3、竹脇之町250-1	京都市文化市民局	黒須恵子	令和2年4月6日
11	長岡京跡	向日市森本町下町田16-3、17-1	向日市教育委員会	渡辺 博・片山 亮・橋本雅俊	令和2年3月9日～令和2年3月31日
12	長岡京跡・野田遺跡	向日市森本町上町田28-2、26-2、26-4	向日市教育委員会	渡辺 博・片山 亮・橋本雅俊	令和2年3月9日～令和2年3月31日
13	長岡京跡	向日市森本町下町田18-2、17-2	向日市教育委員会	渡辺 博・片山 亮・橋本雅俊	令和2年3月9日～令和2年3月31日
14	長岡京跡	向日市森本町下町田25、25-2、33-2	向日市教育委員会	渡辺 博・片山 亮・橋本雅俊	令和2年3月9日～令和2年3月31日
15	長岡京跡	向日市森本町竹園子4、5	向日市教育委員会	渡辺 博・片山 亮・橋本雅俊	令和2年3月9日～令和2年3月31日
16	鳴行遺跡	与謝野町字後野1421番地ほか	与謝野町教育委員会	白敷真也	令和2年4月1日～令和2年5月31日
17	屎木遺跡	城陽市寺田円淨寺	城陽市教育委員会	浅井猛宏	令和2年3月16日～令和2年3月24日
18	宇治市街道路（川西地区）	宇治市宇治ノ内27-1、27-8、27-9、27-10、27-11、27-12	宇治市教育委員会	荒川 史・大野壽子・圓 シエリ・上坂 航・松村 真・久後 千鶴	令和2年3月23日～令和2年7月31日
19	長岡京跡	京都市伏見区羽束町古川町389-1、807	京都市文化市民局	黒井亮介	令和2年3月26日
20	平安宮路・聚楽道跡	京都市上京区千本通二条下る東入主税町825-1の一部	京都市文化市民局	新田和央	令和2年4月7日
21	平安京跡・西京施道跡	京都市右京区西院安坂町83	京都市文化市民局	奥井智子	令和2年4月13日
22	中久世遺跡	京都市南区久世殿城町137、146の一部	京都市文化市民局	新田和央	令和2年4月8日
23	白河北坂路・白河街区跡	京都市左京区聖護院川原町11-19、11-20	京都市文化市民局	新田和央	令和2年4月10日
24	長岡京跡	京都市伏見区横田町西海道2-1、3-1、3-4、4-2、59、60-4、納所大野50、53-2	京都市文化市民局	奥井智子	令和2年4月16日
25	平安京跡・西京施道跡	京都市右京区西院安坂町99番1	京都市文化市民局	奥井智子	令和2年4月17日
26	平安京跡	京都市右京区西京施野田町39番地	京都市文化市民局	黒井亮介	令和2年3月27日
27	長岡京跡	大山崎町宇円明寺小字備6-1	大山崎町教育委員会	古閑正浩	令和2年4月6日～令和2年4月20日
28	守町田城	京都市左京区四条通寺町東入御旅町35	京都市文化市民局	黒須恵子	令和2年4月20日
29	平安京跡・東本願寺古墓群	京都市下京区亀町地内	京都市文化市民局	清水早穂	令和2年4月22日
30	白河南殿跡・白河街区跡	京都市左京区聖護院垂華町44-3	京都市文化市民局	黒須恵子	令和2年4月24日
31	栗田口塙跡	京都市東山区三条通白川横東入三丁目夷町175-2ほか	京都市文化市民局	清水早穂	令和2年4月30日

番号	道路名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
32	深草道跡	京都市伏見区深草西溝町4丁目78番地	京都市文化市民局	奥井智子	令和2年5月1日
33	平安京跡	京都市右京区西院西瀬崎町27、31	京都市文化市民局	奥井智子	令和2年4月27日～令和2年5月18日
34	北白川魔寺・上終町道跡	京都市北白川東瀬ノ内町25-1	京都市文化市民局	熊谷舞子	令和2年4月6日～令和2年4月22日
35	木津川河原遺跡	八幡市下条良小宮4-2、7の一部	八幡市教育委員会	太田喬士・川崎文子	令和2年4月16日
36	上奈良道跡	八幡市上条良小端21-1、22、23-1、23-5、23-2、23-6	八幡市教育委員会	八十島豊成・伊野近富	令和2年4月27日～令和2年5月30日
37	西ノ口道跡	八幡市美濃山西ノ口9番1、9番3、9番4	八幡市教育委員会	太田喬士	令和2年4月21日～令和2年4月22日
38	女郎花道跡・西草塚古墳	八幡市八幡大芝32、134、31の一部	八幡市教育委員会	僧前知世・川崎文子	令和2年5月12日～令和2年5月15日
39	日吉ヶ丘道跡	与謝野町宇明石2120番地ほか	与謝野町教育委員会	白数真也	令和2年4月28日～令和2年8月31日
40	平安京跡・烏丸繞小路道跡	京都市下京区烏丸通松原下る五条烏丸町404-2、不門明通松原下る吉水町449-3、松原通烏丸東入南側後成町439-1、441	京都市文化市民局	黒須恵希子	令和2年5月11日
41	長岡京跡・円明寺跡	大山崎町宇明寺小字楽部前8番地、9番地	大山崎町教育委員会	古瀬正浩	令和2年5月21日～令和2年6月2日
42	植物園北道跡	京都市左京区松ヶ嶺芝町4番3、4番5	京都市文化市民局	新田和央	令和2年4月27日～令和2年5月19日
43	上賀茂中山町道跡	京都市北区上賀茂中山町17、22	京都市文化市民局	黒須恵希子	令和2年6月1日
44	大宅寺跡・大宅通跡	京都市山科区大宅中小路町38-1	京都市文化市民局	黒須恵希子	令和2年6月3日
45	上京道跡・世尊寺跡	京都市上京区五辻通大宮西入五辻町54、55、57、59、61、61-1、61-2、63、63-4、63-5	京都市文化市民局	黒須恵希子	令和2年6月4日
46	平安京跡	京都市右京区花園木辻北町1-1（一部）、1-6（一部）、36（一部）、花園妙心寺町1-5、1-6、1-7、1-（一部）、59-2、62-4、68（一部）	京都市文化市民局	清水早織	令和2年5月27日～令和2年5月28日
47	北垣内道跡	城陽市久世北垣内139番1、139番6	城陽市教育委員会	浅井猛宏・細井沙音	令和2年6月2日
48	長岡京跡	向日市森町下町田7-1、7-2、20、21、22-2、8、9、10、11、17-2、18-1、19-1、23	向日市教育委員会	渡辺 博・勝本健次・橋本雅俊	令和2年5月1日～令和2年11月30日
49	長岡京跡	向日市森町野野田23-2、森町野町28-1、28-2、33-1	向日市教育委員会	渡辺 博・勝本健次・橋本雅俊	令和2年6月1日～令和2年6月30日
50	長岡京跡	向日市森町野野田25-2、森町上町田22、23、24、25、森町下町田1、2-1、3-1	向日市教育委員会	渡辺 博・勝本健次・橋本雅俊	令和2年7月1日～令和2年8月31日
51	長岡京跡	向日市森町竹田園子4、5、5-2、6、10、11、12、13、14-1、14-2、15-1、16、17-2、18-2	向日市教育委員会	渡辺 博・勝本健次・橋本雅俊	令和2年6月1日～令和2年8月31日
52	長岡京跡	向日市森町下町田12、13、14、15、16-1、17-2、18-1、19-1、23、24-1、25	向日市教育委員会	渡辺 博・勝本健次・橋本雅俊	令和2年6月1日～令和2年7月31日
53	平安京跡・旧二条城跡	京都市上京区室町通下立売先上る鰐解由小路町171番	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和2年4月7日～令和2年5月15日
54	正明寺道跡	福知山市宇正明寺小字黒樋1743番ほか15筆	福知山市教育委員会	松本学博・鶴田紀子	令和2年6月22日～令和2年7月17日
55	平安京跡・堀川御池道跡	京都市中京区堀川通鈴小路上る三坊堀川町62-1ほか5筆、堀川通東入殿治町170ほか1筆	京都市文化市民局	馬瀬智光	令和2年5月8日
56	御土居跡	京都市南区四ツ塚町89-314ほか	京都市文化市民局	黒須恵希子	令和2年6月29日
57	長岡京跡	京都市伏見区霞ヶ渡場鳥町32	京都市文化市民局	清水早織	令和2年6月22日～令和2年6月23日
58	法興院跡	京都市中京区筋通夷川上る鉢田町294-1、294-2、300-3、河原町通夷川上る指物町343、344	京都市文化市民局	清水早織	令和2年6月24日
59	一乗寺向畠町道跡	京都市左京区一乗寺向畠町49番	京都市文化市民局	清水早織	令和2年6月25日～令和2年6月26日
60	中の谷窓跡	京都市左京区岩倉木野137-1ほか43筆	京都市文化市民局	清水早織	令和2年6月26日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和3年度）

番号	道路名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
61	六波羅政厅・方広寺跡	京都市東山区妙法院前僧町431	京都市文化市民局	奥井智子	令和2年5月29日
62	平安宮跡	京都市中京区二条通御馬場東入晴明町602-2、664	京都市文化市民局	新田和央	令和2年6月15日
63	平安宮跡	京都市中京区聚楽園西町65-1	京都市文化市民局	新田和央	令和2年6月19日
64	北野天守・北野道跡	京都市北区北野下白梅町16-2	京都市文化市民局	熊井亮介	令和2年6月8日
65	長岡京跡・東土川道路	京都市南区久世東土川町331	京都市文化市民局	熊井亮介	令和2年6月12日
66	山科・顯寺跡	京都市山科区西野山町44	京都市文化市民局	奥井智子	令和2年6月1日～令和2年6月30日
67	平安京跡・西京極道路	京都市右京区西京極東大丸町21	京都市文化市民局	黒須恵希子	令和2年7月1日
68	平安宮跡・聚楽道跡	京都市中京区千本通二条上る東入主税町1030	京都市文化市民局	黒須恵希子	令和2年7月3日
69	上久世道跡	京都市南区久世上久世町419	京都市文化市民局	黒須恵希子	令和2年7月2日
70	平安宮跡・西寺跡・唐橋道路	京都市南区唐橋西寺町17	京都市文化市民局	鈴木久史	令和2年6月1日～令和2年6月26日
71	平安京跡	京都市右京区西院春日町3-1ほか	京都市文化市民局	鈴木久史	令和2年5月12日～令和2年5月14日
72	大山崎道跡群	大山崎町字大山崎小字谷田31	大山崎町教育委員会	原田早季子	令和2年7月2日～令和2年8月31日
73	志水寺跡	八幡市八幡夜森町65-1	八幡市教育委員会	太田尚士・川崎文子	令和2年6月22日
74	長岡京跡	向日市森町下町田1、2-1、2-2、4-1、4-2、5、6、7-1、8、9、10、11、12、13、14、15、16-1、16-2	向日市教育委員会	渡辺 博・鈴木健次・橋本雅俊	令和2年8月11日～令和2年10月16日
75	富ノ森城跡	京都市伏見区横大路六反畠ほか地内	京都市文化市民局	奥井智子	令和2年7月13日～令和2年7月15日
76	平安京跡	京都市下京区東洞院通五疊上る深草町586ほか	京都市文化市民局	熊井亮介	令和2年7月10日
77	小野瓦窯跡	京都市左京区上高野尾保地町1番2の一部	京都市文化市民局	新田和央	令和2年7月20日
78	平安京跡・御土居跡	京都市下京区中堂寺北町10番3の一部、14番1、14番3	京都市文化市民局	鈴木久史	令和2年5月19日～令和2年7月22日
79	臣臣道跡	京都市山科区東野森野町45番2、46番2-3・4	京都市文化市民局	熊井亮介	令和2年6月10日
80	平安京跡	京都市右京区花園黄南町17-2、17番-4	京都市文化市民局	清水早穂	令和2年7月30日
81	伏見城跡	京都市伏見区新町六丁目478番地、479番地	京都市文化市民局	奥井智子	令和2年8月7日
82	長岡京跡・淀水垂大下津町道路	京都市伏見区淀水垂大下津町地先から羽束筋跡	京都市文化市民局	黒須恵希子	令和2年8月3日
83	岡山廻寺	京都市右京区京北周山町51番地ほか	京都市文化市民局	熊井亮介	令和2年7月27日
84	長岡京跡	京都市伏見区久我西出町1-9・10、11-12・13	京都市文化市民局	熊井亮介	令和2年7月6日～令和2年7月7日
85	長岡京跡	京都市伏見区久我西出町1-9・10	京都市文化市民局	熊井亮介	令和2年7月9日
86	平安京跡	京都市右京区西京極東大丸町8番地	京都市文化市民局	新田和央	令和2年8月18日
87	白河殿跡・白河街跡	京都市左京区京極院裏華藏町20番4、20番5	京都市文化市民局	清水早穂	令和2年8月17日
88	平安京跡・御土居跡	京都市右京区中堂寺南町130-1の一部	京都市文化市民局	鈴木久史	令和2年8月11日
89	松殿跡	宇治市木幡山南18番1	宇治市教育委員会	齊田雅士・大野壽子・荒川 史・久後千穂・松田 真・山口 博	令和2年9月1日～令和2年9月30日
90	福知山城跡	福知山市字内記	京都府教育委員会	中居和志・岡田聰吾	令和2年9月1日～令和2年9月3日
91	長岡京跡・下桜野南造跡	大山崎町字下桜野小字大糸地内	大山崎町教育委員会	原田早季子	令和2年9月10日～令和2年10月30日
92	平安宮跡・聚楽道跡	京都市中京区聚楽園東町24-13、24-14、24-15	京都市文化市民局	黒須恵希子	令和2年9月7日
93	平安京跡	京都市中京区西ノ京泊柴町4-6（一部）、馬代町3-3（一部）	京都市文化市民局	黒須恵希子	令和2年9月1日

番号	道路名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
94	平安京跡	京都市右京区西院東中水町 17、下京区西七条御前町 4	京都市文化市民局	鈴木久史	令和2年9月2日
95	平安京跡・公家町通跡	京都市上京区京都御苑3番地	京都市文化市民局	奥井智子	令和2年9月14日
96	平安京跡・公家町通跡	京都市上京区京都御苑3番地	京都市文化市民局	奥井智子	令和2年9月15日
97	平安京跡・公家町通跡・京都新城跡	京都市上京区京都御苑3番地	京都市文化市民局	奥井智子	令和2年9月16日
98	橋本陣屋跡	八幡市橋本城野7-2、7-9	八幡市教育委員会	太田喬士・川嶋文子	令和2年9月9日～令和2年10月31日
99	水内城跡	福知山市宇摩字小水内1018番3、1020番1	福知山市教育委員会	松本学博	令和2年9月17日～令和2年9月25日
100	平安京跡・妙満寺の構え跡	京都市下京区御用通四条下る四条御川町257はか	京都市文化市民局	清水早織	令和2年9月9日
101	平安京跡	京都市中京区壬生松原町61-1の一部、61-5、62-1、62-4	京都市文化市民局	清水早織	令和2年9月10日
102	長岡京跡	京都市伏見区羽束東垂麥町402、403	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和2年8月27日
103	大鳳呂南塙葦群3～8	弓削野町字岩洞1421番地ほか	弓削町教育委員会	白敷真也	令和2年10月1日～令和2年11月30日
104	伏見城跡	京都市伏見区福島太夫町52(伏竹総合支援学校)	京都市文化市民局	熊井亮介	令和2年4月2日～令和2年8月14日
105	平安京跡	京都市右京区西院北矢掛町39-214か	京都市文化市民局	新田和央	令和2年9月28日
106	平安宮跡	京都市中京区西ノ京右馬寮町8番6、8番20	京都市文化市民局	新田和央	令和2年9月29日
107	平安京跡・鳥丸池遺跡	京都市中京区六角通烏丸東入室之前町234	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和2年9月24日～令和2年9月28日
108	久我東町遺跡	京都市伏見区久我東町6-18	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和2年10月8日
109	鳥羽離宮跡・鳥羽道跡	京都市伏見区中島堀端町10、11	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和2年10月9日
110	中久世遺跡	京都市南区久世置中久世町三丁目35-1、35-3	京都市文化市民局	新田和央	令和2年10月1日
111	宮津城跡	宮津市字鶴賀2061の18ほか	宮津市教育委員会	河森一浩	令和2年10月3日～令和2年10月5日
112	安国寺遺跡	宮津市字瀬尻安国寺328番ほか	宮津市教育委員会	河森一浩	令和2年10月12日～令和2年12月25日
113	北野台道路	祓部市位田町野本はか	祓部市教育委員会	廣富亮太	令和2年11月4日～令和2年12月18日
114	長岡京跡・百々通跡	大山崎町宇明円寺小字佃5-14の一部ほか	大山崎町教育委員会	原田早季子	令和2年11月16日～令和2年11月30日
115	久津川塚古墳・横道遺跡	城陽市平川山道13番地1	城陽市教育委員会	浅井猛宏	令和2年12月14日～令和2年12月18日
116	松尾寺遺跡	舞鶴市字松尾532	舞鶴市	松崎健太	令和2年12月1日～令和3年2月末
117	鳥羽離宮跡	京都市伏見区竹田真鍮木町93番地	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和2年9月18日
118	長岡京跡	京都市伏見区久我石原町7-6、7-29	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和2年9月23日
119	平安京跡	京都市下京区西七条比輪田町16-1	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和2年9月30日
120	がんせんどう魔寺	京都市伏見区瀧草谷町57番地2の一部ほか	京都市文化市民局	鈴木久史	令和2年10月20日
121	平安京跡	京都市中京区壬生御所ノ内町13	京都市文化市民局	鈴木久史	令和2年10月8日
122	平安京跡	京都市右京区西院御町38番2ほか	京都市文化市民局	鈴木久史	令和2年10月5日
123	平安京跡	京都市中京区西ノ京原町66番地	京都市文化市民局	新田和央	令和2年10月21日
124	平安宮跡	京都市上京区仁和寺街道千本東入西富仲町470番33-42・43・44	京都市文化市民局	新田和央	令和2年10月22日
125	大宅庵寺瓦窯跡	京都市山科区大宅向山14-1、14-2、14-3	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和2年10月12日～令和2年10月15日
126	垂神山古墳	京都市伏見区渾坂極楽寺町72	京都市文化市民局	新田和央	令和2年11月10日
127	鳥部野・法性寺跡	京都市東山区今熊野本多山町1番地ほか	京都市文化市民局	鈴木久史	令和2年11月2日
128	長岡京跡	京都市伏見区久我西出町13-17、13-18	京都市文化市民局	奥井智子	令和2年10月28日～令和2年10月29日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和3年度）

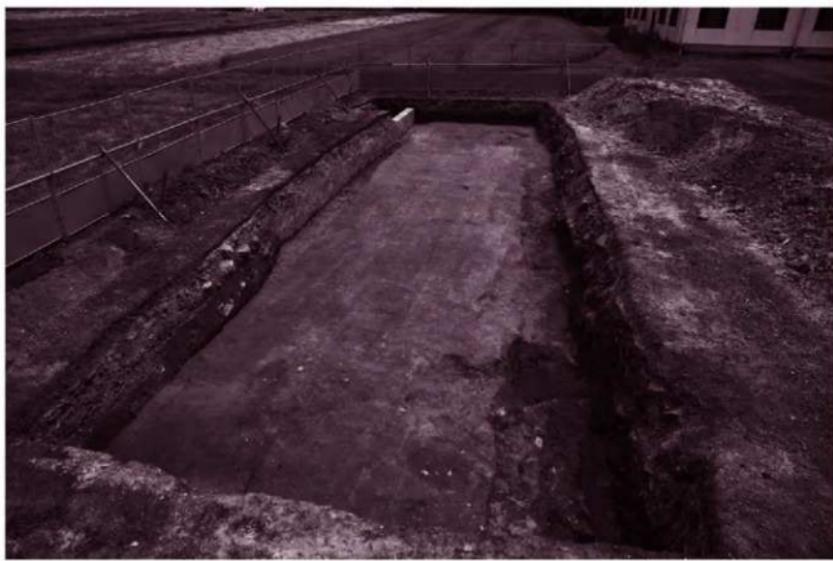
番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
129	平安宮跡	京都市中京区西ノ京内塩町 25 番 8	京都市文化市民局	熊井亮介	令和2年 11月9日
130	平安京跡・御土居跡 部	京都市下京区朱雀分木町 80 - 2 の一 部	京都市文化市民局	清水早織	令和2年 11月 17日
131	長岡京跡	京都市伏見区久我森ノ宮町 6 - 27、 6 - 28、6 - 29	京都市文化市民局	清水早織	令和2年 11月 19日
132	平安京跡	京都市右京区西京極大門町 26 番の一 部	京都市文化市民局	清水早織	令和2年 11月 16日
133	平安京跡・壬生道跡	京都市中京区壬生神明町 1 - 61	京都市文化市民局	奥井智子	令和2年 11月 26日～ 令和2年 11月 27日
134	長岡京跡・淀城跡	京都市伏見区島鳥渡町 32	京都市文化市民局	熊井亮介	令和2年 11月 12日
135	室町殿跡	京都市上京区烏丸今出川上る岡松町 255	京都市文化市民局	熊井亮介	令和2年 11月 13日
136	長岡京跡	京都市伏見区久我西出町 1 番 16	京都市文化市民局	鈴木久史	令和2年 11月 24日～ 令和2年 11月 25日
137	平安京跡	京都市右京区西院西寿町 21 番はか	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和2年 11月 30日
138	平安京跡・京都新城跡・ 公家町道跡	京都市上京区京都御苑 3 番地（大宮仙 洞御所内）	京都市文化市民局	鈴木久史	令和2年 12月 2日
139	富ノ森城跡	京都市伏見区横大路六反畝ほか地内	京都市文化市民局	鈴木久史	令和2年 11月 4日～ 令和2年 11月 5日
140	平安京跡	京都市中京区西ノ京冷泉町 1 番	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和2年 12月 3日～ 令和2年 12月 4日
141	指月城跡・伏見城跡	京都市伏見区桃山町泰兵衛官有地（泰 長老公園）	京都市文化市民局	新田和央	令和2年 11月 30日～ 令和2年 12月 14日
142	北白川廣寺・上終町通 跡	京都市左京区北白川東瀬ノ内町 25 - 2	京都市文化市民局	清水早織	令和2年 10月 7日～ 令和2年 11月 5日
143	平安京跡	京都市下京区西七条西久保町 16 番	京都市文化市民局	清水早織	令和2年 12月 22日
144	六波羅政厅跡	京都市東山区大黒町五条上る音羽町 320・321 12号	京都市文化市民局	清水早織	令和2年 12月 21日
145	中久世道跡	京都市南区久世大坂町 73	京都市文化市民局	清水早織	令和2年 12月 24日
146	周山城跡	京都市右京区京北下熊田大迫 4。6 - 2	京都市文化市民局	熊谷舞子	令和2年 11月 24日～ 令和2年 12月 12日
147	鳥羽離宮跡	京都市伏見区竹田勝彦擬院町 65	京都市文化市民局	黒須恵子	令和2年 11月 9日～ 令和2年 11月 19日
148	平安京跡・公家町道跡	京都市上京区京都御苑 3 番地	京都市文化市民局	奥井智子	令和2年 9月 15日
149	平安京跡・公家町道跡	京都市上京区京都御苑 3 番地	京都市文化市民局	奥井智子	令和2年 9月 14日
150	平安京跡・公家町道跡・ 京都新城跡	京都市上京区京都御苑 3 番地	京都市文化市民局	奥井智子	令和2年 9月 16日
151	長岡京跡	京都市伏見区久我西出町 1 - 7、1 - 8、1 - 41、1 - 44	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年 1月 14日～ 令和3年 1月 15日
152	法住寺殿跡・六波羅政 厅跡	京都市東山区茶屋町 527	京都市文化市民局	熊井亮介	令和3年 1月 18日
153	平安京跡・衣田町道跡 少3號	京都市下京区西七条石井町 8 番地 11号 少3號	京都市文化市民局	熊井亮介	令和3年 1月 19日
154	法成寺跡	京都市上京区河原町通広小路下る東坂 町 25 番 3	京都市文化市民局	鈴木久史	令和3年 1月 25日～ 令和3年 1月 26日
155	平安京跡・御土居跡・ 西ノ京道跡	京都市中京区西ノ京北小路町	京都市文化市民局	黒須恵子	令和2年 8月 24日～ 令和2年 12月 17日
156	横大路城跡	京都市伏見区横大路東塙町地内	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年 1月 12日～ 令和3年 1月 13日
157	水主神社東道跡	城陽市水主森ノ東 37 番地 12	城陽市教育委員会	浅井猛宏	令和2年 12月 21日～ 令和3年 1月 22日
158	白川金色坂跡	宇治市白川宮ノ前 3 - 1	宇治市教育委員会	大野壽子・荒川 史・ 松村 真・久後千穂	令和2年 12月 21日～ 令和3年 3月末日
159	老川道跡	福知山市字中字上野 472 番地	福知山市教育委員会	松本学博	令和2年 12月 23日
160	伝東押寺跡	福知山市字川北はか	福知山市教育委員会	鷲田紀子	令和2年 12月 10日～ 令和3年 1月 31日
161	閑部城跡	南丹市園部町小桜町 47 番地	南丹市教育委員会	辻 健二郎	令和3年 1月 12日～ 令和3年 3月 31日

図 版

図版第1 恭仁宮跡第102次

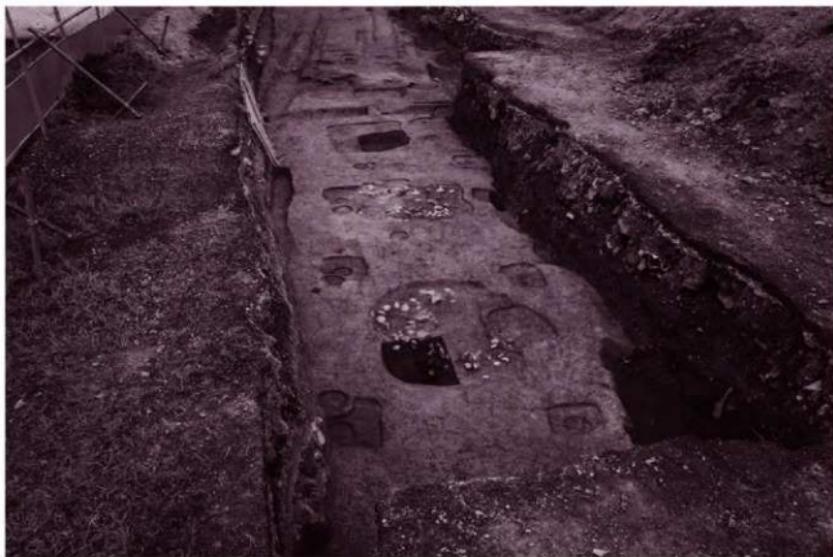


(1) IM 01 G-s 調査区東壁断面（西から）



(2) IM 01 G-s 調査区中世溝検出状況（西から）

図版第2 恭仁宮跡第102次



(1)掘立柱塀 S A18001、掘立柱建物 S B21001掘削状況(北西から)

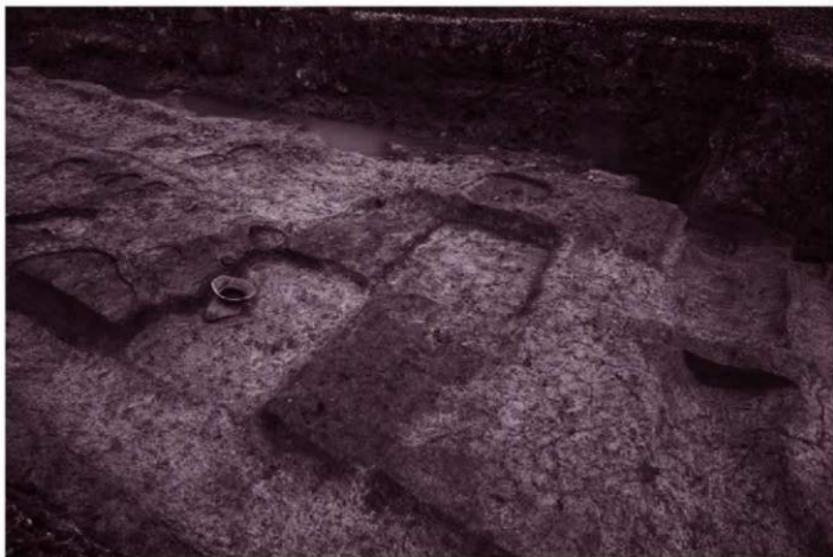


(2)柱穴 S P21119断面(南東から)

図版第3 恭仁宮跡第102次



(1)土坑SK21112検出状況(西から)



(2)土坑SK21112掘削状況(北西から)

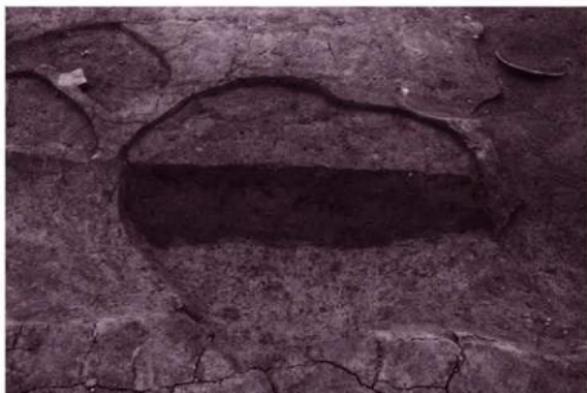
図版第4 恭仁宮跡第102次



(1) 土坑SK21112遺物出土状況
(北西から)



(2) 土坑SK21115断面(南から)



(3) 土坑SK21113断面(北から)

図版第5 恭仁宮跡第102次



(1) 土坑 S K21117掘削状況
(北西から)



(2) 溝 S D21121断面(北から)

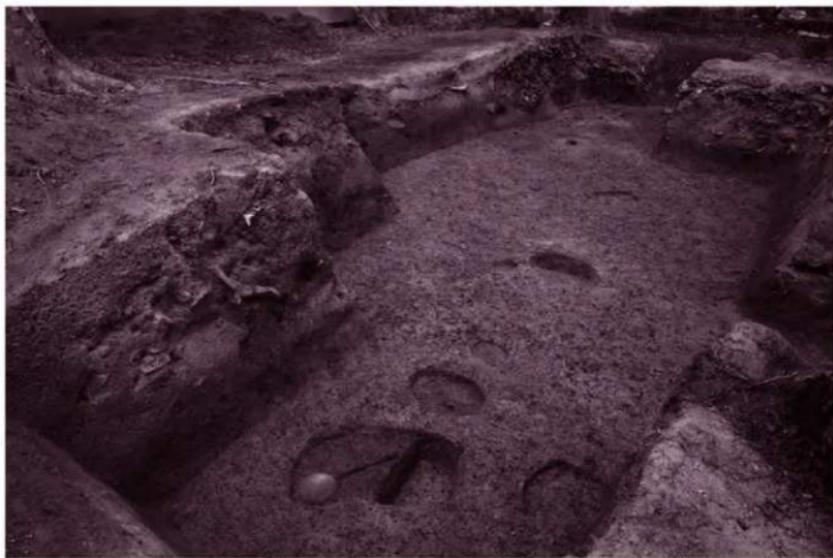


(3) 柱穴 S P21116断面(南西から)

図版第6 恭仁宮跡第102次



(1) I K03C-s 調査区全景(南東から)



(2) I K03C-s 調査区北側掘削状況(南西から)

図版第7 恭仁宮跡第102次



(1)溝S D21201検出状況(南東から)



(2)IK3C-s 調査区南壁断面(北西から)

図版第8 恭仁宮跡第102次

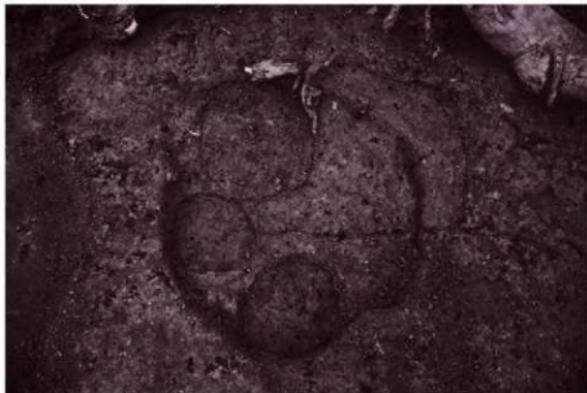


(1)柱穴 S P 21208断面(東から)



(2)柱穴 S P 21208断面(東から)

図版第9 恭仁宮跡第102次



(1)柱穴S P21214検出状況
(上が西)



(2)柱穴S P21216断面(西から)



(3)柱穴S P21219断面(東から)

図版第10 恭仁宮跡第102次



(1)土坑S K21206掘削状況
(北から)



(2)柱穴S P21211半裁(南から)



(3)土坑S K21212検出状況
(南東から)

図版第11 恭仁宮跡第102次



出土遺物 1

図版第 12 恭仁宮跡第 102 次



12



13



図版第13 府営農業農村整備事業関係遺跡
(梅ノ木原遺跡第1次、北野台遺跡第1・3次)



(1) 調査前遠景(南東から)



(2) K 3-7 tr全景(南東から)

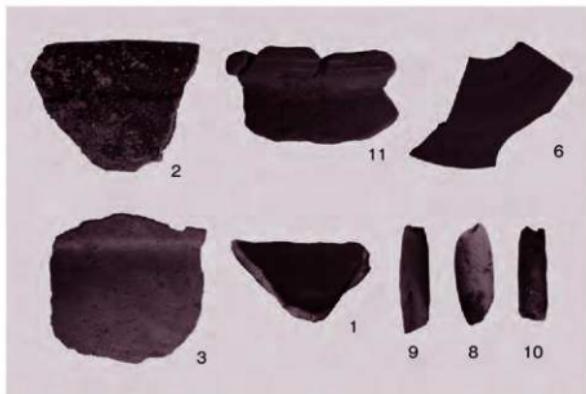


(3) K 3-14tr全景(南西から)

図版第14 府営農業農村整備事業関係遺跡
(梅ノ木原遺跡第1次、北野台遺跡第1・3次)



(1) K 3 - 15tr全景(南西から)



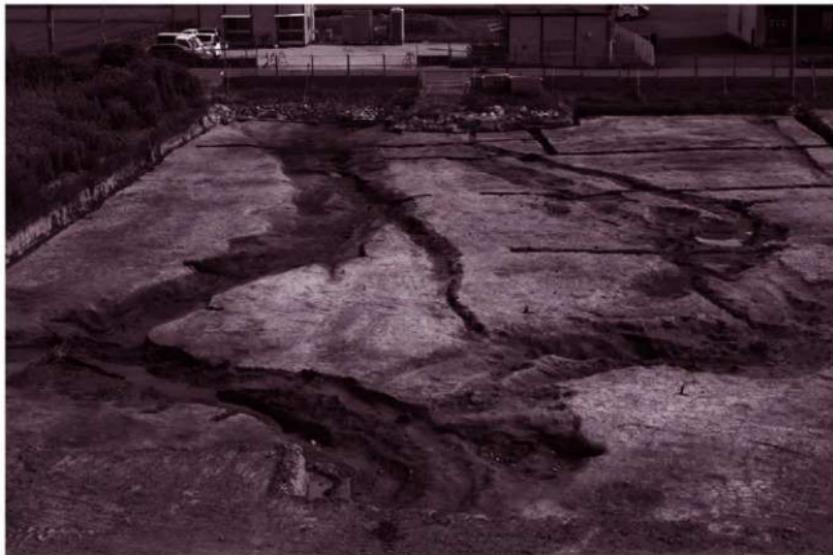
(2) 出土遺物 1



(3) 出土遺物 2

図版第15 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡

(余部遺跡第14・16次)



(1)溝S D13～16完掘状況(北から)



(2)溝S D14(①区)木製品出土状況(南東から)

図版第16 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡

(余部遺跡第14・16次)



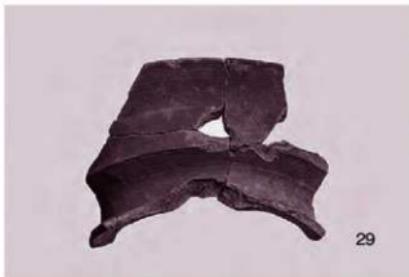
(1)溝S D15(②区)木製品出土状況(南東から)



(2)溝S D15(③区)遺物出土状況(南東から)

図版第17 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡

(余部遺跡第14・16次)



図版第18 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡

(余部遺跡第14・16次)



46



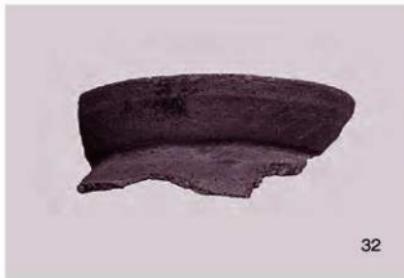
37



38



36



32



74



77



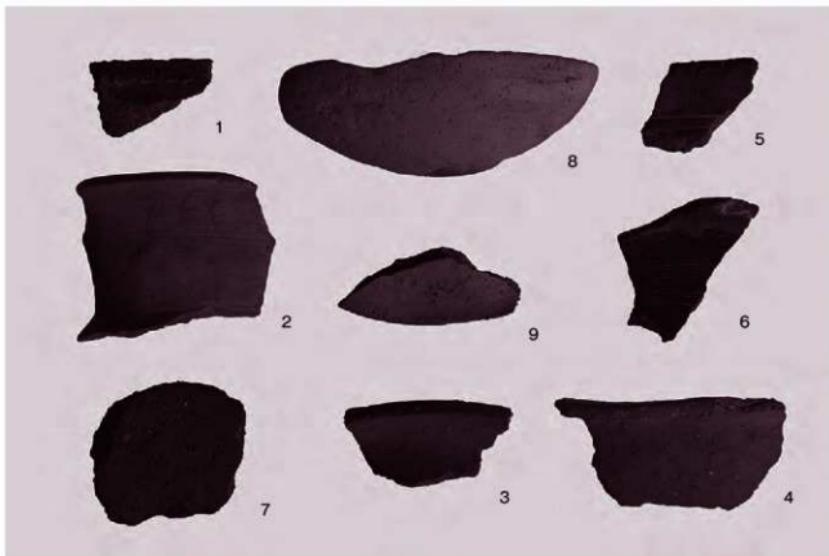
78

図版第19 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡
(余部遺跡第14・16次)

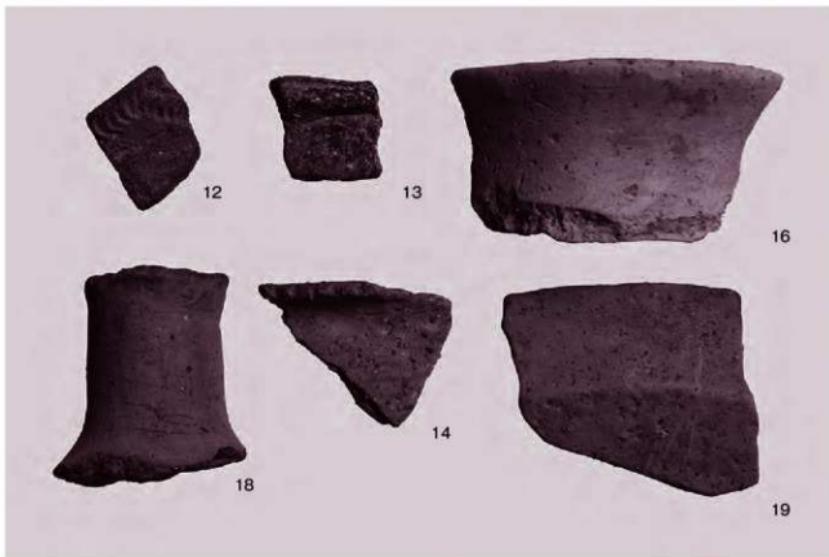


図版第20 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡

(余部遺跡第14・16次)

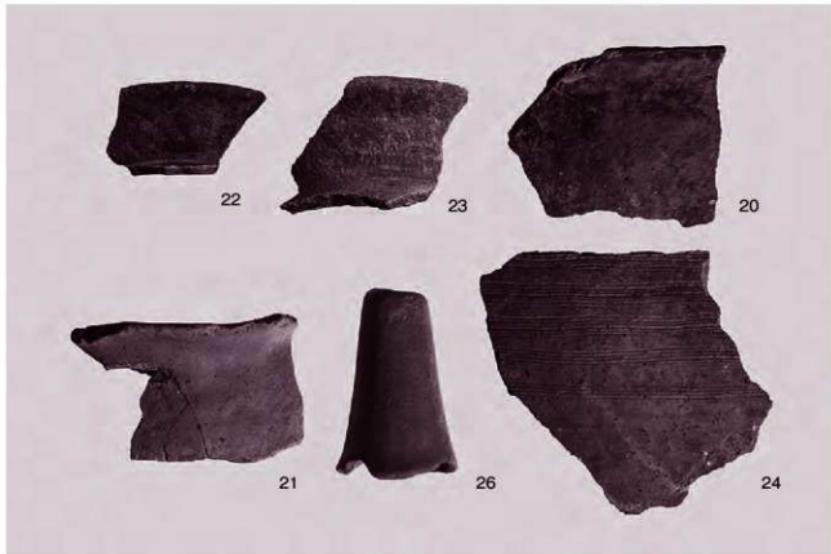


(1)出土遺物4

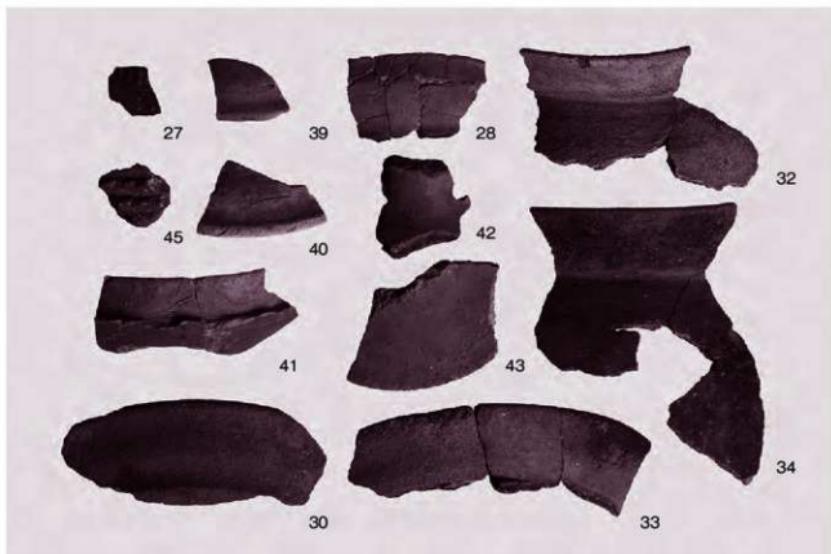


(2)出土遺物5

図版第21 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡
(余部遺跡第14・16次)

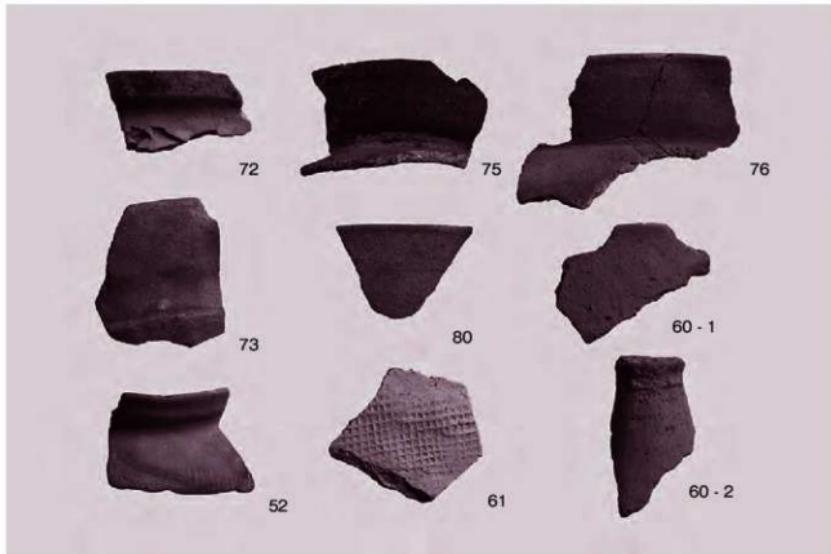


(1)出土遺物6

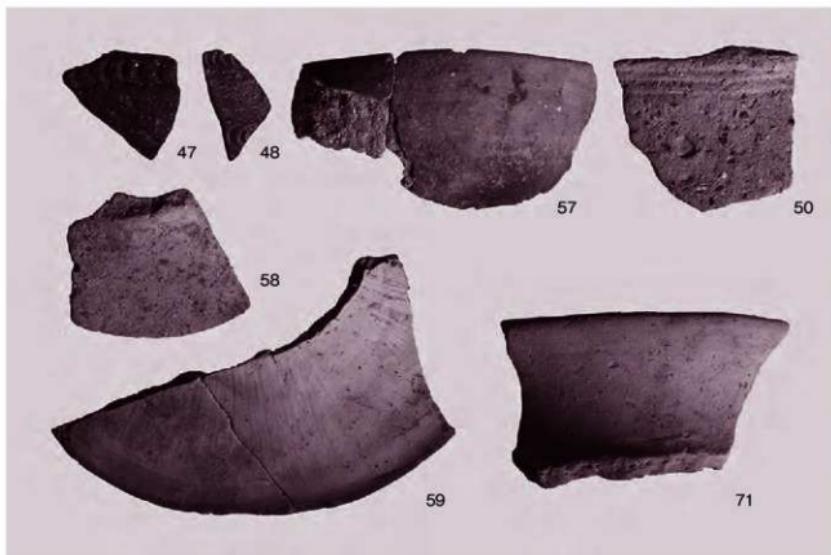


(2)出土遺物7

図版第22 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡
(余部遺跡第14・16次)

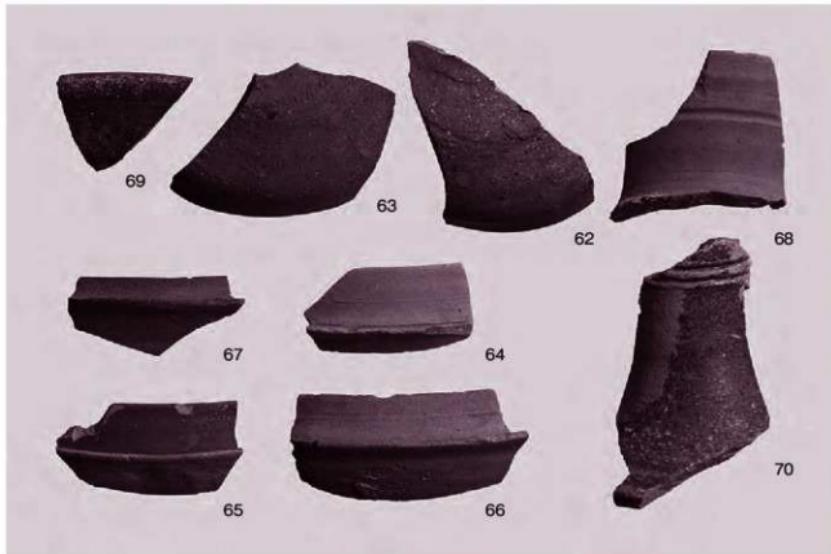


(1)出土遺物8

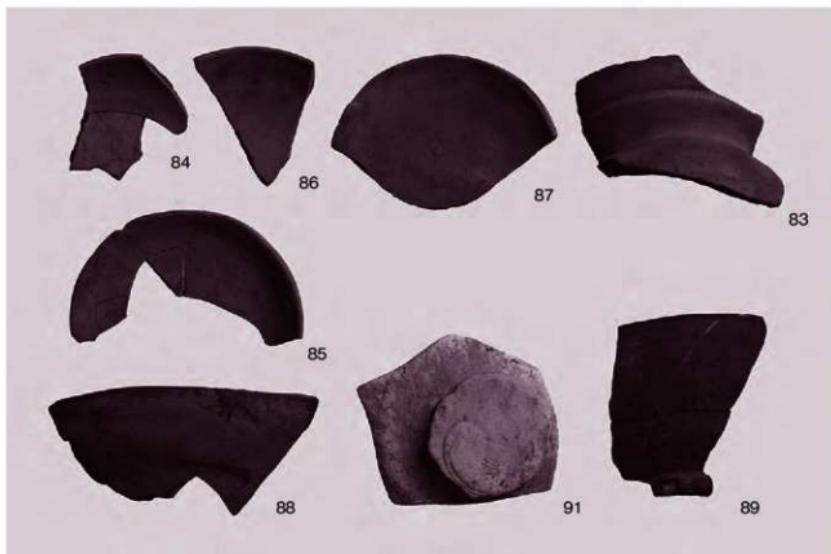


(2)出土遺物9

図版第23 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡
(余部遺跡第14・16次)



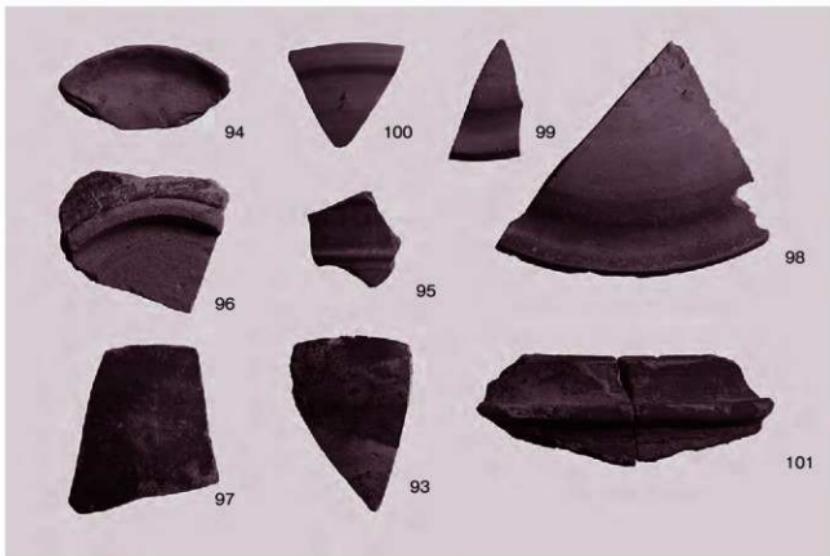
(1)出土遺物10



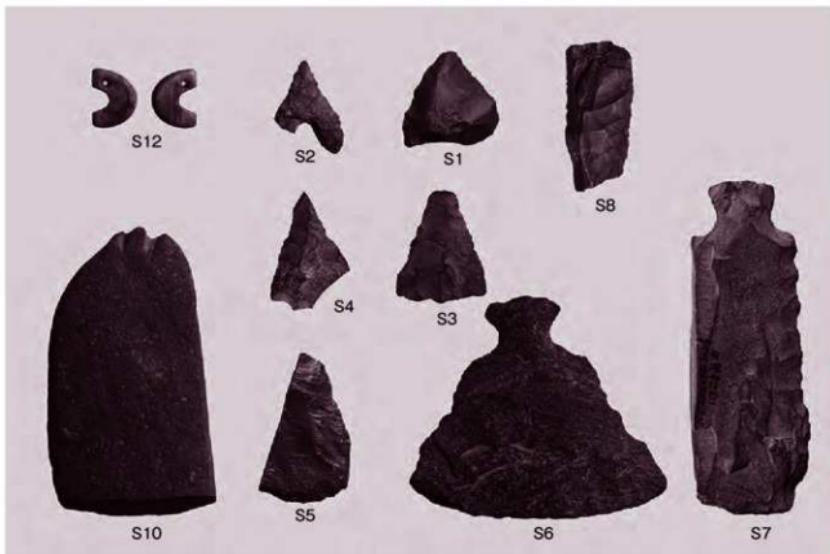
(2)出土遺物11

図版第24 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡

(余部遺跡第14・16次)

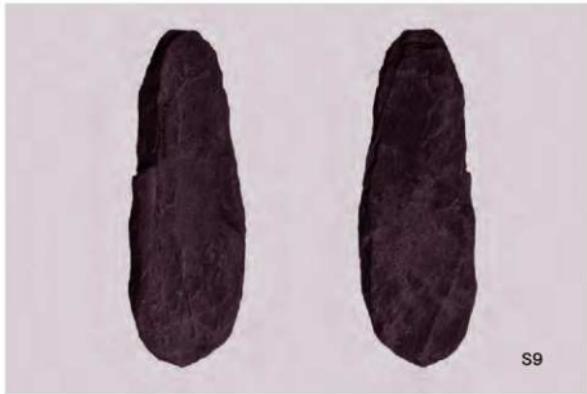


(1)出土遺物12



(2)出土遺物13

図版第25 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡
(余部遺跡第14・16次)



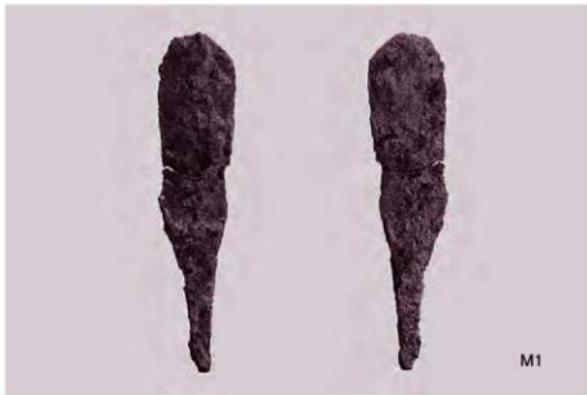
S9

(1) 出土遺物14



S11

(2) 出土遺物15



M1

(3) 出土遺物16

図版第26 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡

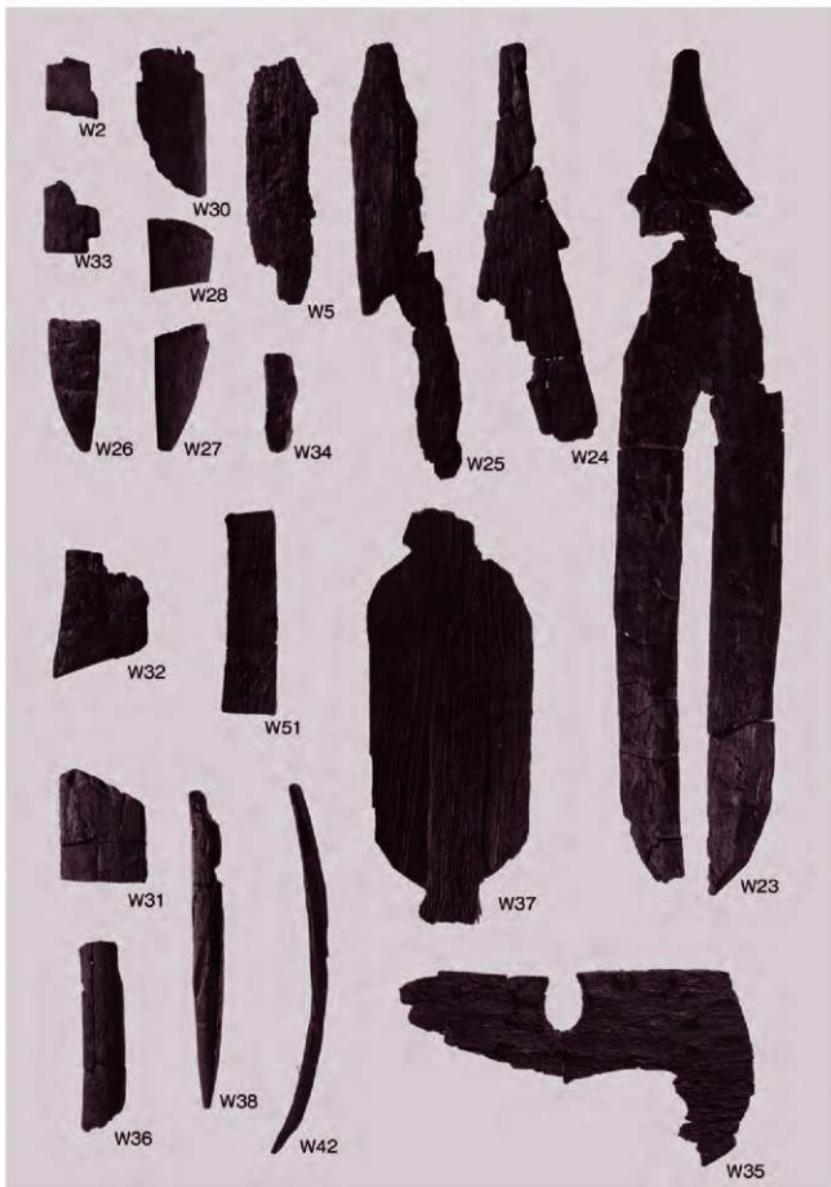
(余部遺跡第14・16次)



出土遺物17

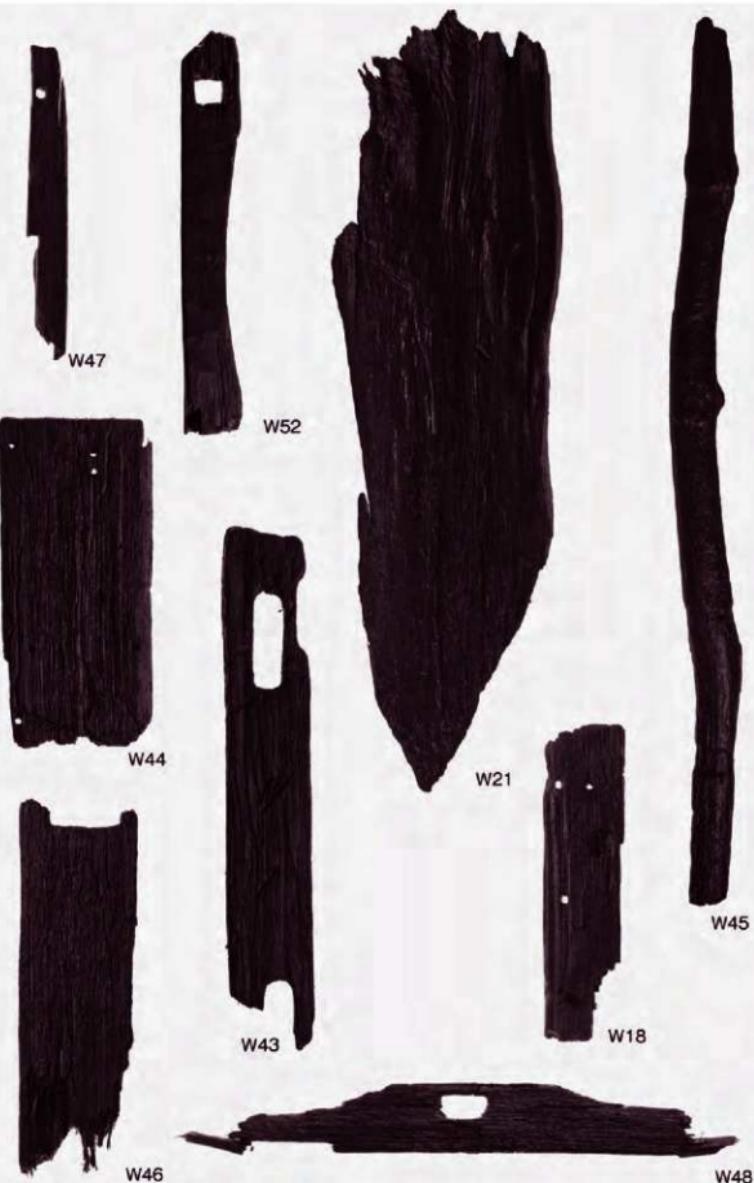
図版第27 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡

(余部遺跡第14・16次)

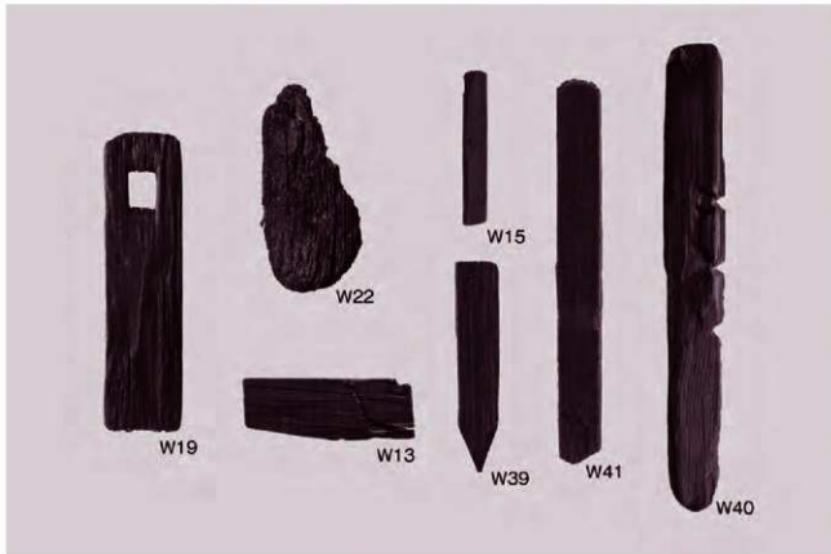


図版第28 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡

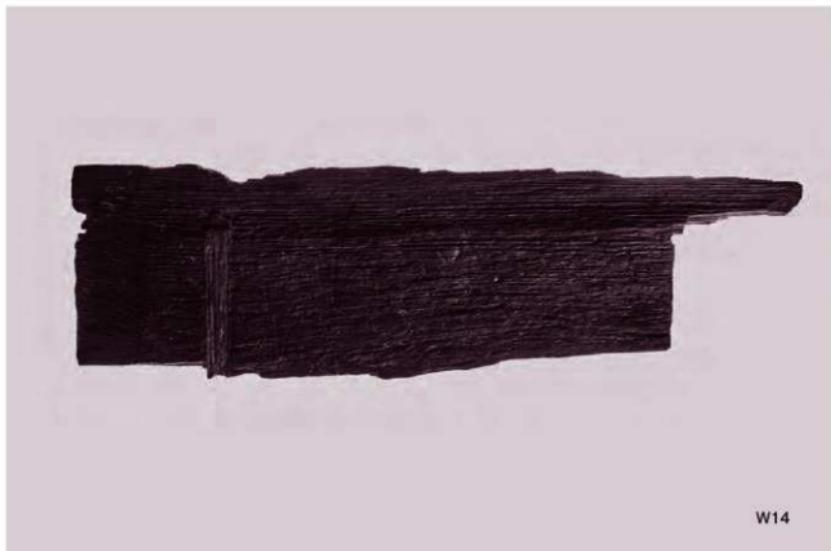
(余部遺跡第14・16次)



図版第29 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡
(余部遺跡第14・16次)



(1)出土遺物20



(2)出土遺物21

図版第30 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡
(余部遺跡第14・16次)



(1) 出土遺物22



(2) 出土遺物23



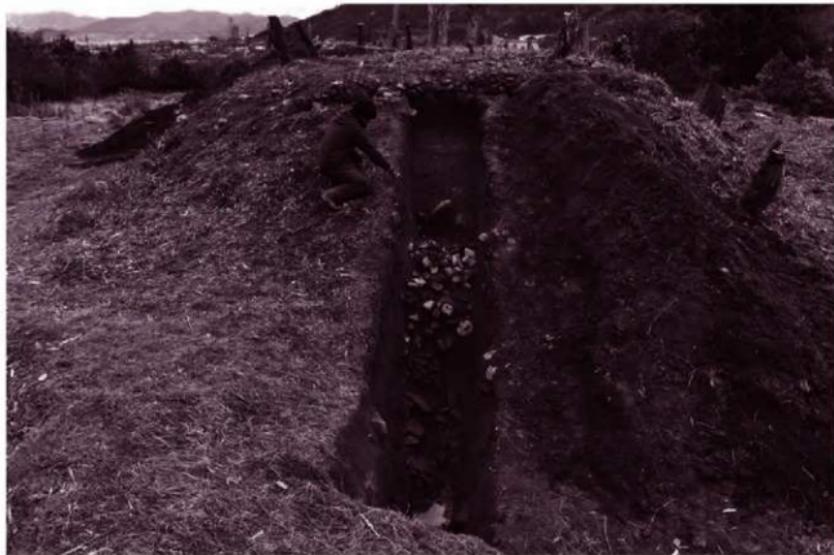
(3) 出土遺物24

図版第31 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡

(拝田14号墳第1次)



(1)調査地遠景(北から)



(2)葺石検出状況(北から)

図版第32 府内遺跡

(霞尾遺跡第1次)



(1)調査地遠景(西から)



(2)3G全景(南から)

図版第33 府内遺跡

(霍尾遺跡第1次)



(1) 1G全景(西から)



(2) 2G北壁(南から)



(3) 4G南壁(北から)

図版第34 府内遺跡

(佐屋利遺跡第2次)



(1) 6 tr全景(東から)



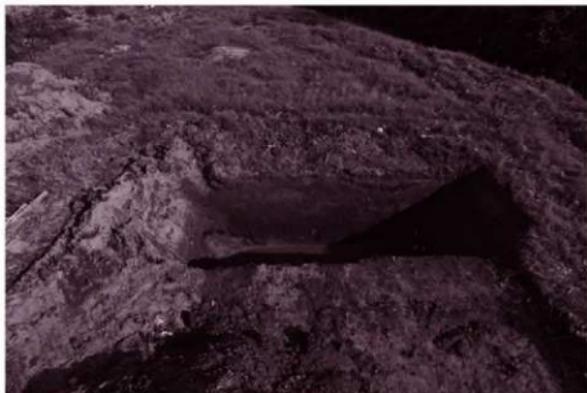
(2) 8 tr全景(東から)

図版第35 府内遺跡

(佐屋利遺跡第2次)



(1) 1 tr掘削状況(南から)



(2) 4 tr全景(西から)



(3) 7 tr断面(南東から)

図版第36 和束井手線防災・安全交付金事業関連遺跡
(栢ノ木遺跡第15次)



(1) 第1トレンチ完掘状況(南西から)



(2) 第1トレンチ北壁断面(南西から)

報告書抄録

京都市埋蔵文化財調査報告書（令和3年度）							
書名							
著者名							
巻次							
シリーズ番号							
編集者名	奈良康正・松尾史子・中居和志・岡田健吾・柄井理揮・北山大熙・川崎雄一郎						
編集機関	京都市教育委員会						
所在地	〒602-8570 京都市上京区下立庵通新町西入戸ノ内町 075-414-5903						
発行年月日	西暦 2022年3月31日						
所取遺跡名	所在地	コード 古町村 道路番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	
春日宮跡	木津川市加茂町例幣	26214	173	34度45分45秒	135度51分55秒	20210701-0930	235
梅ノ木原道跡	鞍馬市布田町	26203	A76	35度18分44秒	135度13分54秒	20201102-1218 20210624-0630	380
北野台道跡		26203	A118	35度18分47秒	135度14分02秒		
余部道跡	電気川市余部町	26206	62	35度01分06秒	135度33分36秒	20181101-20190213 20190627-0831	585
西行合道跡	龜岡市本郷町西加賀	26206	148	35度00分14秒	135度28分48秒	20210915-20211130	780
千代川道跡	龜岡市千代川町千原はか	26206	22	35度03分09秒	135度32分26秒	20211201-1217	54
坪田14号墳	龜岡市千代川町坪田	26206	17	35度03分23秒	135度32分08秒	20211201-20220131	30
丹後国分寺跡	宮津市国分	26205	54	35度34分39秒	135度10分44秒	20211108-1224	80
鶴尾遺跡	京都府峰山町岩瀬	26212	5527	35度37分51秒	135度04分11秒	20210614	179
佐利道路	京都府峰山町岩瀬	26212	5524	35度36分40秒	135度05分11秒	20211021-1108	16
小谷田道跡篠塚地	福知山市夜久野町今西中	26201	-	35度19分38秒	135度00分20秒	20211027	18
福知山城跡	福知山市大学内記	26201	157	35度17分53秒	135度07分41秒	20210510-0511	15
光明寺境内	綾部市睡窓町若尾	26203	L18	35度23分19秒	135度26分30秒	20210930	2
八木城跡	南丹市八木町	26213	293	35度03分45秒	135度31分37秒	20210428-0519	59
平安京跡	京都市上京区御池内町	26100	1	35度01分15秒	135度45分22秒	20210318-0402	83
柏木道跡	綾部市井手町	26343	51	34度48分03秒	135度48分53秒	20210714-0831	135
所取遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
春日宮跡	宮殿	奈良時代中葉	掘立柱廻、掘立柱建物、土師器、須恵器、瓦器、瓦、埴、石器、凝灰岩切石、鉄貨		朝堂院区画の北東隅を確認		
梅ノ木原道跡	散布地	中世	-	須恵器、瓦器、土製品	中世の包含層を確認		
北野台道跡	散布地	中世	溝、土坑	弥生土器、須恵器、土師器、瓦器	中世の包含層を確認		
余部道跡	集落	弥生～中世	溝、土坑	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、丸形容器、勾玉、铁鍬、石器、木製品	古墳時代を中心とする木製品が多量に出土		
西行合道跡	散布地	奈良～中世	-	土師器、須恵器、瓦器	弥生・古墳時代の包帯層、中世の包含層と遺構面を確認		
千代川道跡	集落	縄文～中世	柱穴、土坑、溝	土師器、須恵器、瓦器	中世の包含層と土器つまりを確認		
坪田14号墳	古墳	古墳	葺石	埴輪	前期の前方後方墳である可能性を確認		
丹後国分寺跡	寺院	奈良～中世	墓壇	-	金堂跡・塔跡・中門跡を調査		
鶴尾遺跡	散布地	奈良～中世	-	須恵器、人形、燃えさし	古代の包含層を確認		
佐利道路	集落	弥生～中世	土坑、落ち込み	弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、輸入陶磁器、木製品	遺物を含む土坑や落ち込みを検出		

小倉田道路隣接地	-	-	-	縄文土器、埴輪	-
福知山城跡	城館	中世・近世	溝、柱穴	瓦	近世の遺構・遺物を確認
光明寺境内	寺院	中世	-	-	通路の整地土を確認
八木城跡	城館	中世	-	-	-
平安京跡	宮都	平安	埴、布掘り柱列	土師器	戦国時代の堀と塁の基礎を検出
柏ノ木遺跡	集落	奈良	溝	土師器、須恵器、瓦	-
要 約	<ul style="list-style-type: none"> ・恭仁宮跡では、朝堂院区画の北東隅を検出し、朝堂院区画の規模を確定した。 ・梅ノ木原道路・北野台道路では中世の瓦含層を確認した。 ・余部道路では、弥生時代から古墳時代の溝を検出し、古墳時代前期を中心とする木製品が多量に出土した。また、亀岡盆地内で初めて縄文時代前期の土器や石器が揃って出土した。 ・羽田14号墳では、並石や埴輪を検出し、前期の前方後方墳である可能性を確認した。 ・丹後国分寺跡では、塔・金堂の基礎の規模や構築方法について考古学的に初めて確認した。 ・鶴尾道路では、古代の土器や人形が出土し、新たに埋蔵文化財包蔵地として周知することになった。 ・佐屋利道路では、道路の隣接地において弥生時代から中世の遺物を含む土坑や溝・落ち込みを検出し、道路の範囲を拡大することとなった。 ・福知山城跡では、近世の土坑と溝を検出した。 ・光明寺境内では、本堂から山麓に向かう通路の整地土を確認した。 				

報告書抄録（英）

Title	Kyoto Pref. Cultural Properties Report (Reiwa 3)					
Writer	Yasumasa Nara, Fumiko Matsuo, Kazushi Nakai, Kengo Okada, Riki Kirii,Daiki Kitayama,Yuichiro Kawasaki					
Copyright	Kyoto Prefectural Board of Education 〒 602-8570 Yabunouchiho Shimmachi-nishiuru Shimodachiuri-tori Kamigyo-ward Kyoto-city Japan					
The date of issue	31 Mar.2022					
Site	Location	North latitude	East latitude	Excavated term	Excavated area [m]	Origin of excavation
Kuni Palace site	Reihei Kamo-town Kizugawa-city Kyoto-pref	34° 45' 45"	135° 51' 55"	20210701-0930	235	Investigation for preservation and application
Umenokihara site	Iden-town Ayabe-city Kyoto-pref	35° 18' 44"	135° 13' 54"	20201102-1218 20210524-0630	380	Pref-managed improvement in agricultural infrastructure for raising an agriculture man-ager
Kitanodai site		35° 18' 47"	135° 14' 02"			
Amarube site	Amarube-town Kameoka-city Kyoto-pref	35° 01' 06"	135° 33' 36"	20181101-20190213 20190527-0831	585	
Nishigaya site	Honne-mura Kameoka-city Kyoto-pref	35° 03' 09"	135° 32' 26"	20201015-20211130	780	The government-managed Kameoka agricultural land reorganization consolidation project
Chiyokawa site	Chiyokawa-town Kameoka-city Kyoto-pref	35° 03' 09"	135° 32' 26"	20211201-1217	54	
Haida kofun No.14	Chiyokawa-town Kameoka-city Kyoto-pref	35° 03' 23"	135° 32' 08"	20211201-20220131	30	
Tango-kokubunji temple	Kokubu Miyazu-city Kyoto-pref	35° 34' 39"	135° 10' 44"	20211008-1224	80	Investigation for preservation and application
Turuo site	Ryuno shonobe-town Nantan-city Kyoto-pref	35° 37' 51"	135° 04' 11"	20210614	17.9	Road construction
Sayari site	Shimoyamada Kameoka-city Kyoto-pref	35° 36' 40"	135° 05' 11"	20211021-1108	16	Road construction
Adjacent land of Oguradenn site	Yakumo town Fukuchiyama-city Kyoto-pref	35° 19' 38"	135° 00' 20"	20211027	18	Road construction
Fukuchiyama-castle site	Naiki Fukuchiyama-city Kyoto-pref	35° 17' 53"	135° 07' 41"	20210510-0511	15	Road construction
Komyoji temple	Mutuyori-town Ayabe-city Kyoto-pref	35° 23' 19"	135° 26' 30"	20210900	2	Road construction
Yagi-castle site	Yagi-town Nantan-city Kyoto-pref	35° 03' 45"	135° 31' 37"	20210428-0519	59	Restoration work
Heian Capital site	Yabunouchi-town Kyoto-city Kyoto-pref	35° 01' 15"	135° 45' 22"	20210318-0402	83	New facility
Kayanoiki site	Ido town	34° 48' 03"	135° 48' 53"	20210714-0831	135	Road construction
Site	Sort (class)	Period	Features		Artificial description	
Kuni Palace site	palace	nara	posthole type wall		sue ware,haji ware,gaki ware,roof tile,bewn stone,stone tool etc.	
Umenokihara site	the distribution area of relics	medieval times	-		sue ware,gaki ware etc.	
Kitanodai site	the distribution area of relics	medieval times	ditch,hole		yayoi ware,sue ware,haji ware,gaki ware	
Amarube site	kofun	yayoi-medieval times	ditch		jomon ware,yayoi ware,sue ware,haji ware,gaki ware,wood product,stone tool etc	
Nishigaya site	dwelling cluster	nara-medieval times	-		sue ware,haji ware,gaki ware	
Chiyokawa site	dwelling cluster	jomon-medieval times	posthole,ditch,hole,		sue ware,haji ware,gaki ware	
Haida kofun No.14	kofun	kofun	fukiishi		haniwa	
Tango-kokubunji temple	temple	nara-medieval times	stylobate		-	
Turuo site	the distribution area of relics	nara-medieval times	-		sue ware,hitogata	
Sayari site	dwelling cluster	yayoi-medieval times	hole,		yayoi ware,sue ware,haji ware,wood product	
Adjacent land of Oguradenn site		-	-		jomon ware,haniwa	
Fukuchiyama-castle site	castle site	medival-modern times	ditch,hole		roof tile	
Komyoji temple	temple	medieval times	-		-	
Yagi-castle site	castle site	medieval times	-		-	
Heian Capital site	capital site	heian	moat,cornerstone		haji ware	
Kayanoiki site	dwelling cluster	nara	ditch		sue ware,haji ware,roof tile	

KYOTO PREF. CULTURAL PROPERTIES REPORT

COPYRIGHT ©Kyoto Prefectural Board of Education, 2021

Kyoto Prefectural Board of Education

Shinmachi Shimodachiuri Kamigyo-ward Kyoto 602-8570, Japan

edited by Cultural Properties Division Department of Guidance

Kyoto Prefectural Department of Education

Published by Kyoto Prefectural Board of Education

No Parts of this publication may be reproduced or by any means Without prior

permission of copyright owner

京都府埋蔵文化財調査報告書

(令和3年度)

発行 令和4年3月31日

編集 京都府教育庁指導部

文化財保護課

発行 京都府教育委員会

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入戸ノ内町

印刷 株式会社 ダイ

〒604-8241 京都市中京区三条通新町西入ル釜座町22

ストークビル三条烏丸4F

**KYOTO PREF.
CULTURAL PROPERTIES REPORT**

**KYOTO PREFECTURAL BOARD OF EDUCATION
JAPAN**